

野口保興講述

世界地理



早稻田大学出版部藏版



目次

あじあ洲……………一頁

總論……………一

自然之部……………一

政治之部……………二三

韓國……………三三

自然之部……………三三

政治之部……………四〇

清國……………六六

自然之部……………六六

政治之部……………八八

香港……………一三八



|            |     |
|------------|-----|
| 瑪港         | 一三九 |
| 印度支那       | 一三九 |
| フランス領印度支那  | 一四七 |
| シヤム        | 一五五 |
| イギリス領シヤム   | 一六〇 |
| マライ群島      | 一六八 |
| アメリカ領マライ群島 | 一七二 |
| オランダ領マライ群島 | 一七六 |
| <b>印度</b>  | 一八八 |
| 獨立國        | 二〇七 |
| イギリス領印度    | 二一〇 |
| ポルトガル領印度   | 二五六 |
| フランス領印度    | 二二七 |
| バミル高原      | 二三三 |

|         |     |
|---------|-----|
| イラン高原   | 二三二 |
| バルチスタン  | 二四〇 |
| アフガニスタン | 二四二 |
| ペルシア    | 二四六 |
| アジアトルコ  | 二五二 |
| サモス島    | 二六五 |
| キプロス島   | 二六五 |
| アラビヤ半島  | 二六六 |
| シヤムマル   | 二七〇 |
| ワハビ     | 二七一 |
| オマーン    | 二七一 |
| ハドラマウト  | 二七二 |
| トルコ屬地   | 二七二 |



|               |     |
|---------------|-----|
| イギリス領地        | 二七二 |
| アジアロシア        | 二七三 |
| コーカシア         | 二七四 |
| 中央アジア         | 二八二 |
| シベリア          | 二九三 |
| <b>おせあにあ洲</b> | 三二〇 |
| <b>大陸部</b>    | 三三二 |
| オーストラリア       | 三三二 |
| 中部            | 三六三 |
| 西部            | 三七二 |
| タスマニア         | 三八〇 |
| <b>島嶼部</b>    | 三九〇 |

四

|             |     |
|-------------|-----|
| <b>沿岸島嶼</b> | 三九七 |
| マレシア        | 三九七 |
| ポルトガル領      | 四〇四 |
| メラネシア       | 四〇五 |
| ミクロネシア      | 四七一 |
| ポリネシア       | 四八二 |

|               |     |
|---------------|-----|
| <b>よーろっば洲</b> | 五一一 |
| <b>總論</b>     | 五一一 |
| ロシア           | 五四六 |
| フィンランド        | 五九六 |
| <b>北部</b>     | 六〇〇 |
| スカンデナヴィア半島    | 六〇〇 |



スエリグ王国.....六〇四

ノルグ王国.....六〇八

ダンマルク王国.....六一二

中部

ドイツ國.....六一九

エステルライヒ・ウンガルン君主國.....六五九

ホスニエン・ヘツゴビナ.....六七五

シツワイツ國.....六七七

西部

オランダ王国.....六八七

ルクセンブルグ大侯國.....六九五

ベルジック王国.....六九五

モレスネー.....七〇三

フランス共和國.....七〇四

モナコ公國.....七三三

イギリス王國.....七三四

南部

イベリア半島.....七六九

イスパニア王國.....七七〇

アンドラ共和國.....七七四

ジブラルタル.....七七四

ポルトガル王國.....七七五

イタリア王國.....七七七

サンマリノ共和國.....七八四

マルタ.....七八五



|              |     |
|--------------|-----|
| バルカン半島       | 七八六 |
| ギリシア         | 七八九 |
| トルコ帝國        | 七九三 |
| モンテネグロ侯國     | 七九六 |
| ボスニア・ヘルツェゴビナ | 七九八 |
| スルビヤ王國       | 七九八 |
| ブルガリア侯國      | 八〇一 |
| ローマニア王國      | 八〇二 |
| クレテ島         | 八〇六 |

# 世界地理



## 自然之部

野口保興述

位置 アジア(亞細亞洲) (アツアと云ふ名稱は、往昔ユーカシア地方アソフ海の東部に居住せしアシエ人(二)にアセエ人に作る)より起りたる は不正四邊形の狀態を呈し舊大陸の北部より東部に亘れる陸地にして其の殆ど全部は北半球の内に位せり茲に其の四極點の位置を經緯度によりて示せば左の如し。



|    |                            |                 |
|----|----------------------------|-----------------|
| 極地 | アジア洲                       | アジア大陸           |
| 極南 | バリ島の南端<br>南緯凡そ九度           | ブル岬 北緯 凡そ一度十七分  |
| 極北 | チェリウスキン岬<br>北緯凡そ七十七度五十分    | 同上              |
| 極西 | ストラチオ島<br>東經凡そ二十四度五十五分     | ババ岬 東經 凡そ二十六度五分 |
| 極東 | デジ・ネフ岬(東岬)<br>西經凡そ百七十一度五十分 | 同上              |

然れども從來おせあに、あ州に於けるマレシアの一部とせしフィリピン群島、ボルネオ島、ソング列島等を除けば、マライ半島のフル岬は極南の地となりて北緯凡そ一度十七分に當れり。而して從來極南の地と爲せしロマニア岬は北緯一度二十二分三十秒なり。尙ほ其の他の極地を擧ぐれば南方コモリン岬は北緯八度五分にありて、南西のラスメンヘリ岬は同十二度四十二分二十秒、北西に於けるカラの河口は同六十九度にあり。

境域 本洲は、北に北極洋を控へ、北東は淺きベーリング海峽(九二軒)によりてアメリカ洲と隔り、東は太平洋南は印度洋に面し、西は、カラ河、ウラル山脈、ウラル河、カ

スピ海、マニチ、沼河、コーカス山脈を以て兩洲の境と爲すとあり、黒海、ボスポロス海峽、マルマラ海、ダルダネル海峽等によりてヨーロッパ洲と境を接し、スエズ地峽一七軒によりて僅にアフリカ洲に連れり、かくの如く本洲の境界は概して天然の地形に基づくに似たれども、亦人爲的に出づるもの少なしとせず、例合ばヨーロッパ洲との境界は、オブ河、トルボル河等を以てすべきにウラル山脈を以てするが如し、而して東部に於ける沿岸の島嶼は、花彩鏈の形状を呈し、本洲をして北はアメリカ洲に連接せしめ、南はオセアニア洲に繼續せしめ、以て之れ等の三大洲の間に區別の有無を疑はしむ。

廣袤 本大陸は五大陸中にて廣袤の最も大なるものなるが、南北は稍短くして八千軒(二千里餘)を有し、東西は之れより長くして一萬軒以上(二千五百餘里)に達す。  
面積 沿岸島嶼の南部に於けるフィリピン群島、ボルネオ島、ソング列島を本洲に附屬せしむると否とによりて本洲の地積は、或は四千四百五十萬方軒となり、或は四千二百五十萬方軒となる、然れども後者はアメリカ洲の地積より大なるのみならず、殆どヨーロッパ、アフリカ、オセアニアの三大洲を合せたるものに等しくして、前



者は我日本の百七倍、地球全陸地の三分の一強に當れり。

海灣<sup>○</sup> 本洲は三大洋に面す、北岸は甚だ簡單にして多くは河灣なるに過ぎざれども東岸并に南岸には顯著なる海灣少なからず、而して西岸は最も屈曲に富めども規模の大なるものなし、今左に一表を作りて本洲附屬の海灣に就きて稍著しきものを列擧せん。

- 北氷洋 カラ海 オブ灣 イニセイ灣 タイムル灣 ノルデンシエルド灣
  - 太平洋
    - ベールリング海 アナデル灣 オホーツク海(北海) ベンジンスク灣ギツ
    - 日本海 ベテロ山灣 黄海 朝鮮灣 渤海 遼東灣 東支那海(西海) 南
    - 支那海 東京灣 暹羅灣 スールー海 セレベス海 ジンバ海
  - 印度洋
    - ビルマ海 マルタバン灣 ベンガル海 マナアル海 カンベール灣
    - アラビア海 オマーン灣 ペルシア灣 アデン灣 紅海 アカバ灣
  - 地中海
    - アレクサンドレタ灣 アダリア灣 エーゲ海 マルマラ海 黒海
- 海峽<sup>○</sup> 北より東南西に行くの順序によりて、海峽の主要なるものを列擧すれば左の如し。

- ベールリング海峽 カラフト海峽 朝鮮海峽 臺灣海峽 マラッカ海峽 バル
  - ク海峽 オルムス海峽 ヲプエルマンデブ海峽 ダルダネル海峽 ボスボ
  - ロス海峽
- 島嶼<sup>○</sup> 本洲に屬する島嶼は其の數少なからざれども配置は東方に偏して、主要なるものは概ね沿海にあり、又島嶼部の地積は全洲の十六分の一に當り、顯著なるもの左の如し

- 北部 リアホフ諸島 ウランゲル島
- 東部
  - コマンドル諸島 千島列島 日本群島 九州島 本州島 四國島 カラフト島
  - 琉球諸島 臺灣島 海南島 フイリピン群島 ルソン島 ボルネオ島
  - 大ソンドンダ列島 シアパ島
- 南部 アンダマン列島 ニコバル列島 セイロン島
- 西部 キプロス島 ロードス島 ミチレネ島

半島<sup>○</sup> 本洲に屬する諸半島の地積は、全洲の五分の一に當り大陸部に屬して顯著なるものは概ね太平洋及び印度洋面にありて南向に突出せり、而して大陸と連



る部分は幅廣きを常とす。

六

- 北部 ヤルマル半島 タイムル半島
- 東部 カムチャツカ半島 朝鮮半島 遼東半島 山東半島 雷州半島
- 南部 印度支那半島 マライ半島 印度半島 アカン半島 グジエラット半島
- 西部 アラビア半島 シナイ半島 小アジア半島
- 地角<sup>○</sup> アジア大陸に屬する地角中最も著しきものは左の如し
- 北部 ゴロビン岬 ステルレゴフ岬 チャリウスキン岬 スバトイノス岬
- 東部 デジネフ岬 チッココイ岬 ロバトカ岬 山東角
- 南部 カンボヂ岬 ロマニア岬 ネグライイス岬 コモリン岬
- 西部 ラスエルハッド岬 ババ岬

地峽<sup>○</sup> 地峽の最も著しきものは、マライ半島のクラ地峽及び本洲とアンリカ洲との間にあるスエズ地峽との二なり。

海岸<sup>○</sup> 本大陸北部の海岸は甚だ簡單にして海灣の突入及び陸地の突出共に至りて少なく港灣の存するあるも多くは河口たるに過ぎずして地角は無きにしも

あらざれども其の盡頭の尖鋭なるもの少なし、東部に於ては北方のベールング海峽より南方の暹羅灣に至るまでの内海は、半島又は島嶼の爲に多少區劃せらるれども相互に連絡せり、此等の海の中に就きて、黄海の直隸、遼東の二灣に於けるが如く、南支那海の東京灣に於けるが如く、大陸に接近するの地に於て、更に港灣を形成するあり、南部に於ける海岸は顯著なる半島、又は海灣を形成し、其の東方の海灣は開闊廣大なれども、西方に於けるものは狭長にして殆ど閉塞せるが如き形狀を呈せり。西部の海岸は最も灣曲に富める所なるが、狭小なる半島多くして海灣は深く陸地に侵入せり、かくて本洲海岸線の延長は五萬八千軒なれば地積七百方軒に付き海岸線一軒なり、此の割合はヨーロッパ洲(二九〇方軒)北アメリカ(四〇七)南アメリカ(六八九)オーストラリア(五三四)の上に出で、アフリカ洲(一四二〇)の次に位せり、而して海洋と大陸の中心との相距ることアジアの如く甚だしき所は他に類例を見る能はず。

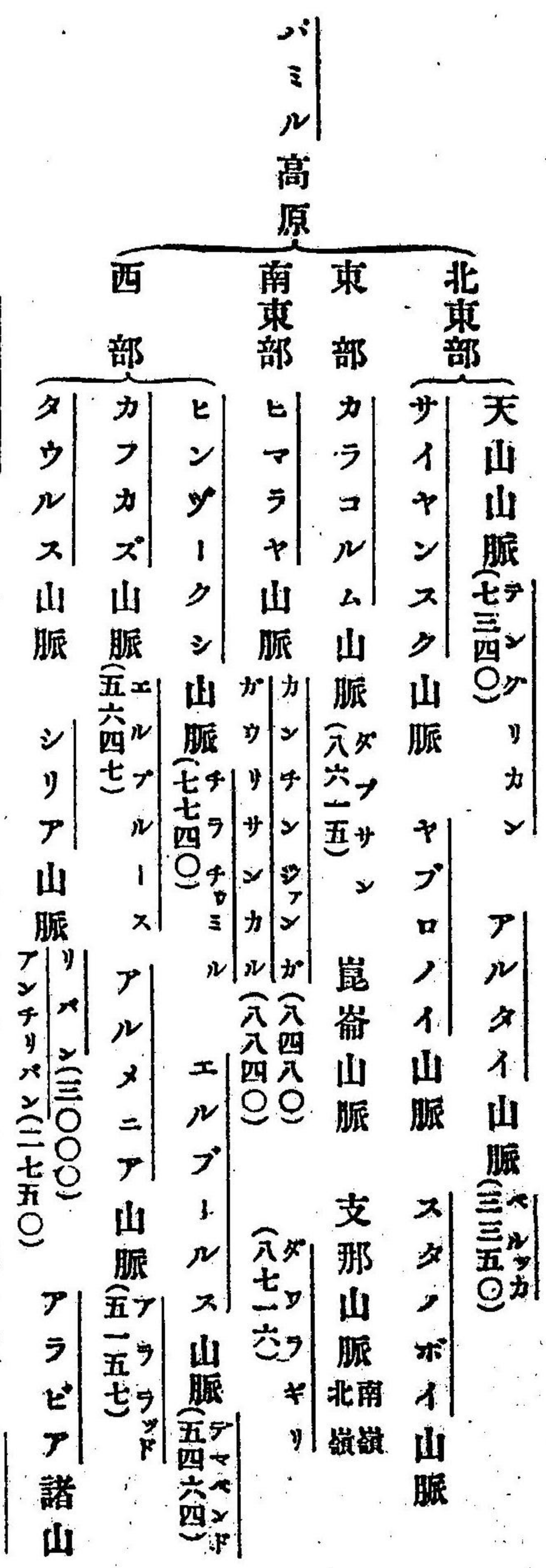
山岳<sup>○</sup> 本洲の山岳は全世界中最も顯著にして南北の趨勢を呈するものもあれども、其の多數は畧ぼ東西の方向に走り、世界の屋棟と稱せらるゝパミル高原を中



心とす此の處より起りて北東に赴くものは天山山脈、アルタイ山脈、サイヤンスタ  
 山脈、ヤブロンイ山脈、スタノポイ山脈等となり、東に走りてカラコルム、崑崙、支那等  
 の諸山脈となり、南東に於てはヒマラヤ山脈となり、西方に於て一はヒンヅークシ、  
 エルブールス、アルメニア、カフカズ、タウルス等の數山脈となり、別脈はシリア山脈、  
 アラビアの諸山となれり、而してアルタイ山脈より出づる一支脈はキルギスの丘  
 陵となりて遙にウラル山脈に達し、又印度半島にはピンヂア山脈、東西のガッツ山脈  
 あるも孤立せるが如し。

東部の沿岸島嶼には南北に之れを貫ける火山質の山脈あり、南は大ソング列島  
 のジバ島よりフィリピン群島を経て我が臺灣に入り、日本群島を過ぎりてカムチャ  
 ツカ半島に赴けり、此の火山脈は太平洋の周邊を圍繞する火山線の一部なりと云  
 ふ。

今茲に一表を作りて、本洲山脈の概畧を知らしめんとす、但し括弧内の數字は米  
 突數なり。



前記諸山脈の中ヒマラヤ山脈は最も高峻を極め、山岳の王とも稱すべきガウリ  
 サンカルを頂き、廣大なる氷河を有し、雪線は山脈の南面に於ては四千六百米突な  
 れども北面に於ては五千五百米突なり。

河流 本洲の水脈に關する分水線は、唯に顯明を缺くのみならず、又自然に反す  
 るが如し、即ち江河の多くは山間山麓を洗ひて低地を求むるの順路によらずして  
 山脈を縦横に切斷して進行流下せり、蓋し此等の河流は源を内部の臺地に發する  
 を以て、其の外縁に當る山脈を横斷するにあらざれば、外海に注入する能はざるに



よるならん。

本洲は其の境域内に降下する雨水の配流に對し、二大中心を呈供せり、其の一はヒマラヤ山脈及び西藏高原にして、黄河、楊子江、メコン河、サルウィン河、イラワヂ河、ブラマプトラ河、ガンガ河、インドス河等の水源<sup>ホテンギン</sup>地なり、其の二はアルタイ地方にして黒龍江、レナ河、イニセイ河、オブ河等の巨流を發す、而して本洲の河流の中には水を大洋、若しくは其の他の外海に注入せざるもの少なからずして、或は沼湖に入るあり、或は砂礫の中に流失するあり。

本洲の河流に就きて特に奇とすべきは、二水派が一對に流下して所謂姉妹流をなすにありて、水源は相接近するの地に發し、中流に至りて多少離隔すれども、下流は再び相近づくか、若しくは相合して海に注ぐ、例せばオブとイニセイ、黄河と楊子江、ガンガとブラマプトラ河、インドスとサトレヂ、アムとシル、チグリヌとエウフラト等の如し。

本洲はアフリカ洲の如く一大土塊をなさざるが故に、高地と低地との配置も一様ならずして、爲にシベリア、支那、印度、イラン、等數個の別世界を形成せり、從ひて江

河も速に山地高地を流下し廣漠たる平野に出でて之れを貫流し、數千軒の地を潤したる後、海に入るもの少なからず。されば本洲の巨流は概して中流以下に於て通舟の便を與へ、オブ、イニセイの二流を除けば、自餘の江河は大抵其の河口に於て三角洲を形成せり、而して三角洲の中にて或は海中に突出するあり、或は灣底を填充するに止まるあり、左に本洲の主要なる河流を列舉せん。

| 本     | 流    | 水          | 源         | 河口  | 河長                | 合流                  |
|-------|------|------------|-----------|-----|-------------------|---------------------|
| 北極洋斜面 | イルチシ | アルタイ山脈     | オブ灣       | 北極洋 | 五六八五 <sup>軒</sup> | イシム、トボル             |
|       | アンガラ | サイモンヤンスク山脈 | イニセイ灣     | 北極洋 | 四七五〇              | 砂礫ツンカスカ、北ツンカスカ、アルタン |
|       | レナ   | バイカル山脈     |           | 北極洋 | 四五〇〇              | ワイリウイ               |
| 太平洋斜面 | 黒龍江  | 後バイカル諸山    | ニコライエフスク灣 |     | 四三八〇              | スンガリ江、ウスリ江          |
|       | 黄河   | 崑崙山(北面)    | 直隸灣       |     | 四七〇〇              | 渭水、洛河               |
|       | 楊子江  | 崑崙山(南面)    | 楊子江口灣     |     | 五一〇〇              | 嶼江、嘉陵江、漢江           |



西江(珠江)(廣東河)  
メコン(瀾滄江)

雲南地方  
雲嶺

廣東灣  
南支那海

一六〇〇  
四二〇〇

北江、  
東江、  
ナムフ、ナムヤン、  
セムン

印度洋斜面

サルウイン

イラワヂ

セルザンボ||プラマブトラ

ガンガ

ゴダバリ

インドス

エウフラト||シァトエルアラゴ

地中海(大西洋)斜面

キジル

クローラ

赤河の意にして古名  
をハリウスと云ふ

エルズルン地方

黒海

八五〇

カルス地方

カスピ海

一〇五〇

フランス

ウラル

アム(オクス)

シル(ヤクサルト)

閉塞地

テクス||イリ(伊犁)

ヤルカン||タリム

ヘルメンド

ヨルダン  
アラビア名をシニリアト  
エルケビールと云ふ

ウラル山脈

ヒンヅークシ山脈

ヒンヅークシ山脈

天山々脈

カラコルム山脈

ヒンヅークシ山脈

リバノン山脈

カスピ海

アラル海

アラル海

バルカシ湖

ロブノル(沼)

ハムウン沼

死海

二三八〇

一五二〇

二〇八〇

一五〇〇

?

一一〇〇

二二五

クンヘス

カシガル河

ホタシ河

ムサバタラン

アルハンダブ

沼湖 本洲の沼湖は著大なるものに乏しからずして中には海と云ふ名稱を附するの穩當なるあり然れども多くは閉塞地若しくは凹窪地に海水の滯溜せしに外ならざれば水底の深きものは甚だ多からず特にロブ湖、ハムウン沼の如きは、乾燥濕潤常ならずして廣袤の一定せざる沼地なり又バイカル湖の如き山間の湖水にして重厚なるを水層湛へたるものも亦少なからざれども廣袤は甚だ著しからず、今湖沼の著名なるものを列擧せんに、カスピ海即ち裏海は世界の最大湖にして



面積は凡そ四十萬方料を有し、其水面は黒海に比すれば二十六米突低下せり。之れに次ぐはアラル海にして面積は凡そ六萬方料、海面より高さこと四十八米突の處にあり、バイカル湖は山間にありてセレンガ河を受け、アンガラ河となりてイニセイ河に注ぎ面積凡そ三萬五千方料に達し、バルハシ湖はイリ河の水を受くるも他の地に水を排流せず、其の面積は凡そ二萬方料ありて、海面上凡そ二百七十五米突の所にあり、以上の四湖中バイカルのみ淡水なり、而して此外の尙ほ著しき沼湖あるを以て前記の諸湖と共に表記することとせり。

| 沼湖名   | 面積                       | 高度                       | 水深                  | 水の性質 | 排氣口の有無 | 長   | 濶   |
|-------|--------------------------|--------------------------|---------------------|------|--------|-----|-----|
| カスピ   | 四〇、〇〇〇 <small>方料</small> | (海面下)二六 <small>米</small> | 八〇 <small>米</small> | 鹹    | 無      | 一二六 | 四五〇 |
| アラル   | 六、〇〇〇                    | 一五                       | 六八                  | 鹹    | 無      | 三五〇 | 二八〇 |
| バルハシ  | 二、〇〇〇                    | 二七五                      | 一五〇                 | 鹹    | 無      | 五五〇 | 八五  |
| イシククル | 五七八〇                     | 一五五四                     | ?                   | 鹹    | 無      | 二〇〇 | 五三  |
| ナイアン  | 一八五〇                     | 一六二二                     | ?                   | 淡    | 有      | 一三〇 | 四八  |
| コソゴル  | 三三〇〇                     | 四〇〇                      | 一三七三                | 淡    | 有      | 六二〇 | 一〇〇 |
| バイカル  | 三、五〇〇                    | 四二〇六                     | ?                   | 淡    | 有      | ?   | ?   |

|                             |                          |      |     |   |   |     |    |
|-----------------------------|--------------------------|------|-----|---|---|-----|----|
| ロブノル <small>アラウクルテン</small> | 二二〇〇                     | 六七二  | 四   | 淡 | 無 | 一〇七 | 二一 |
| ココノル <small>(青海)</small>    | 五二〇〇                     | 三四一六 | ?   | 鹹 | 無 | 一〇七 | 六三 |
| テンリノル                       | ?                        | 四七〇〇 | ?   | 淡 | 有 | 八〇  | 四〇 |
| バルチ <small>(ヤムドク)</small>   | 四五〇〇                     | ?    | ?   | 淡 | 有 | 一三〇 | 五〇 |
| 都陽 <small>ウツン</small>       | 五〇〇〇                     | ?    | ?   | 淡 | 有 | 一二〇 | 六〇 |
| 洞庭                          | 一六〇〇                     | ?    | ?   | 淡 | 有 | 一二〇 | 四〇 |
| トンレサプ                       | 八〇〇                      | 三九〇  | 五   | 鹹 | 無 | ?   | ?  |
| ハムウン <small>ハラリド</small>    | 四四二〇                     | 一三二六 | 一四  | 鹹 | 無 | 一三五 | 四六 |
| ウルミア                        | 三六九〇                     | 一六二五 | 一〇〇 | 鹹 | 無 | 一二五 | 四五 |
| パン                          | 一三九三                     | 一九三二 | 一一〇 | 淡 | 有 | 七一  | 二七 |
| ゴクチャ                        | 九二六 <small>(海面下)</small> | 三九四  | 四〇〇 | 鹹 | 無 | 七六  | 一七 |
| 死海                          |                          |      |     |   |   |     |    |

地勢。本洲は高嶺秀嶺に富むを以て、全世界に冠たると同時に、高地と低地との配置に就きて、一種特別の状態を呈す、實にアフリカ及びオーストラリアは周圍に



山脈を繞らし、中央に低處を包む一塊の臺地なり。之れに反してヨーロッパに於ては山地は半島狀をなし、凹處は海水の浸す所となり、平野臺地の如きは其の廣袤甚だ大ならず、然るにアジアの地貌を觀るに、相連續せる數個の高原より成りて、其の主要なるものに至りては、廣袤敢てオーストラリアに譲らざるが如し、而して小アジアの三面とイランの南面とを除けば、其の他の高原は直接に海洋に面することなくして、廣漠たる平野は高原の周りを圍繞するか、或は其の間に侵入せり。此の特種の地貌は本洲をして風俗を同じうせざる數個の別世界の集合地たらしめたる所以にして、メソポタミア、印度、及び支那の三世界相互の關係が粗なりしは、實に本洲がヨーロッパ、アフリカ等の他洲に對する一般なりしなり。

本洲の山地はヒンヅークシ、カロコルム、ヒマラヤ、崑崙、雲嶺の諸山脈を始めとし、翰海即ちゴビ、西藏、パミルの高臺地より、西はカフカズ山脈、東は沿海シベリア、並にカムチヅカの高處にありて、概ね三千米突以上に達す、次に高地は本洲の主要なる部分にして、其の面積甚だ大なりとす、東にはゴビ沙漠、タクマラカン沙漠、高地支那あり、西にイラン、アルメニア、小アジア、アラビア南にデカン等の高地あり。

低地は北部のシベリアに廣漠たる平地あれども、多くは寒冷の地にして、中アジアにはキシルクム、カラクムの如き草原あり、之れに反して北支那平地、揚子江沿岸平地、印度支那平野、印度平野、メソポタミア平野は地味頗る肥沃にして、大に物産に富めり、されば之等の數平野は夙に人文の發達ありし所なり、此の外死海沿岸カスピ海、アラル海近傍には窪地あり、かくの如く本洲には山地、高地、低地、窪地の四種備はり、陸地の最高最低兩極點の地あれば、肥沃なる平野、礫礫なる沙漠、大高原、大低地と共に陸地の高度も亦趣味ある反對を呈せり、今此所に至りて思ふに本洲陸地の平均高度は九百五十米突にして、地球全陸地の平均高度より高きこと二百五十米突なれば、本洲は五大洲中最も高隆なる地勢を有せりと云ふべし。

氣候 本洲は概して溫帶に屬し、南の方熱帶にあるもの并に北の方寒帶にあるものは實に一小部分に過ぎず、大陸は極南地たるブル岬と雖も赤道に達することなく、唯、ソンド列島の中央に於て此の線の通過するあるのみ、然れども本洲が一大塊をなすと高低二地に特種の配置あるとに基づきて、氣候は大陸的となり、寒暑の差激烈なるを免るゝ能はず。即ち南東の地方及び小アジアの沿岸地方を除けば



本洲は一般に海洋の溫和なる影響を蒙らずして氣温變化の激なるは實に他に其の比を見ず。ペルシア灣沿岸の地の如きは北回歸線の北にあれども、炎熱の酷烈なる點より云へば稀有の地と稱すべく、シベリアのペルホヤンスクに於ける寒暑の差は六十五度(一月は零度下五度)に達し、最低最高兩温度の差は八十五度(七月は零度下五度)に及ぶと云ふ。然るにヨーロッパのスイーデンにある同緯度の海岸にては寒暑の差の平均は十五度乃至二十度なり。要するに年同温線圖の示す所によれば、本洲の東部は西部より稍氣温低く、南部は北部に比し高温なるに似たり。今主要なる同温線の位置を示せば大略左の如し。

(1) 二十度同温線 本線はシリア、メソポタミアの北方北緯三十七度に於て最も北進し、印度支那の北境より尙ほ北にありて支那の東部北緯二十六度に於て最も南下し、小アジアの南岸よりテヘランの南方へラト、ラサの北方琉球諸島の北部を通過す。

(2) 十度同温線 本線はカフカズの北方に於て北四十七度に達し、カスピ海、アラ

我が本州島の北端を過ぐ。

(3) 零度同温線 ウラル山脈附近に於て北上を極め、ボツタヤはオシタヤの北方、トムスクの南方を過ぎ、バイカル湖の西部に於て著しく北に凸出し、湖の南岸を經シ、ホタ山脈に至りて北緯四十八度に降り、カラフトの中部カムチヤツの南部を通過し、四線中最も屈曲多し。

(4) 零下十度同温線 本線はオプ灣を南部に於て横ぎり、畧ぼ一直線にシベリヤ(北緯六十二度)に至りて更に東北ベリソング海峽の方に向へり。

次に氣壓に就きて一言せんに、夏季に於ける最低氣壓七百四十八毫は、イラン西藏の兩高原地方にあれば、アジアの北部及び中部の最多風は北東又は北の方向を呈し、西アジアにては北西、印度并に南支那にては南西又は南なり、而して此等の風向中南西若しくは南の風は濕風にして所謂季候風なるが、其の他の風は乾風なり、又冬季にありては最高氣壓七百七十八毫は、東シベリアに存在するを以て、東部に北西又は北の風多く、南部に北東の季候風吹き荒む、其の他にありては風向區々たり、而して冬季の風は概して乾燥なり。



空氣乾燥に失し降雨の稀なるは、西方地中海、紅海より、東方殆ど太平洋に達し南はヒマラヤ山脈に界せらるゝ北地にして、南西部は冬季、北東部は夏季に降雨期の存するあれども、其の間至て短く、冬季と雖も雪線は五千五百米突を下る能はず、此の一帶の地は草原若しくは沙漠にして地味は礫確なれば、牧畜を以て最も適せりと云ふべく、住民は甚だ稀薄なり。而して耕作は絶對的に行ふこと能はざるにあらざれども、非常なる勢力によるにあらざれば、効果を奏し難し、若し人力の退くとあらんか、國土は一朝にして沙漠沼澤の地となること、西アジアの歴史の明示する所なり。

然れども眼を轉じて南東アジアの季候風地方を見よ、何を其れ情態の相反するの甚しきや、此の地方は降雨甚だ多くして其の量平均四米突に達し中には十二米突乃至十五米突に達しチエラプンジに於て一千五百五十種なり。斯の如く多量の降雨あるのみならず、氣温は炎熱に過ぐる嫌あれども、激變の憂少なくして、印度シンドガ列島より南東支那并に日本の南部に至るまでの地に熱帶的植物の繁茂を來し、南東地方をして大河支流に富ましむ。而して之れ等の河流は肥沃なる壤土を

輸送し來りて豊富なる平野を成生し以て全世界中人口の最も稠密なる地方たらしめたり、然るに時として此の地方に猛烈なる饑饉の現出するは何の故ぞ、蓋し此の貴重なる降雨は毎年夏季の季候風が勢力を逞しうする場合に降下するものなるが、風向の變化濕候の到來に多少の遲速ありて、温熱と降雨との關係即ち降雨の多寡と時機との適合ならざるが爲なり。

天産。生物即ち動植物の分布上、本洲の大部は舊北區に屬し、印度、印度支那、及び附近の島嶼は東洋區の中において、パリ、ロンボク及びボルネオ、セレベスの間を過ぐるウリス氏線は、アジア、オセアニア兩洲の生物境界線なり、而して生物分布の境界を比較せば、本洲はヨーロッパ洲に比し多少退縮せるものあるを見る。

|             |        |      |
|-------------|--------|------|
| 穀類          | 葡萄     | 椰樹   |
| アジア洲 北緯六二度  | 同 北緯四二 | 同 三八 |
| ヨーロッパ洲 同 六八 | 同 五二   | 同 四二 |

シベリア地方に於ては夏季の降雨多量ならざれども、其の降下は概ね適順なれば、樹木の繁甚だ盛にして、キルギス草原の北に於ける一帶の森林は北緯七十度には







人種。パミル高原は地勢上東アジアの境界をなすのみならず、人類の繁殖上より見るも亦蒙古人種とアリア人種との境界たりしなり。然れども人類の發達はかゝる天然の分界線を破りて互に侵入し蒙古人種の西アジア、ヨーロッパに往來するあり、インドヨーロッパ人種の東アジアに來住するありて、世が開明に赴くに從ひ各種民族の雜居する處となるは何れの地も同じきが如し、現今本洲には四種の住民あるを見る。

蒙古人種即ち黄人種(五億七千五百万)は太平洋沿岸の全部を占め其の境域は西の方に赴くに從ひて狹窄し以て本人種の居住區域を二部に分割せり。其の北部はツングイズ、ヤクリト、サモヤ、オスチヤク、フジの數種族を包括し、其の南部并に中部にあるものは朝鮮人、滿洲人、支那人、安南人、西藏人、トルコマン、キルギス人等の種族に分れ、本邦人の如きも此の派に屬するもの、如し、而して蒙古人種の一部はカスピ海の西なるカフカズ又は小アジアの地に於て他の人種と共に雜居せり。

インドヨーロッパ人種即ち白人種は本洲の南部に多くして印度の平野よりイラン高原アルメニア臺地に至るまでの地を占むれども、其の主要部はヨーロッパ洲に

あり、而して印度に居住するアリア種は他の人種の混化を受けたるが爲極めて不純粹なる種族をなし其の主要なるものはヒンズーラジ、ゴト、マラータ等なりとす。又スラブ即ちロシア人はシベリアの中部并に中央アジアに侵入して狹長なる一帯の地を占め以て二派の蒙古人種の間<sup>に</sup>棲息せり。此の外小アジアには少なからざるギリシア人、ルバン人ありシリア、アラビア并にエウフラトの流域にはセミト種族のアラビア人、ユダヤ人ありて、本人種に屬する住民の總數は二億二千萬に餘れりとなせり。

尙ほ黄人種に屬すべきものにして往、他種に屬し或は別種を構成すと考へらるるものあり、其の前者はドラビダ人、其後者はマライ人なり。ドラビダ人は印度最舊の住民なるが、他種族の來住ありし爲、今は僅に半島の南部及びセイロン島に生存するのみにて、其の數は二千萬に過ぎざるべし、而してマライ人は大ソンド列島并にマライ半島の一部に棲息し其の數は三千萬内外ならん。今本洲に居住する人民を分類すること左の如し。

### 一、蒙古派

蒙古族、通古斯族、滿洲族等



- 本種
- 2 支那派
  - 3 西藏派
  - 4 印度支那派
  - 5 ドライビダ派
  - 6 トルコ派

漢族、大和族、朝鮮族等  
交趾族、暹羅族、緬甸族等

一、黃種

- 亞種
- 1 アーリア派
  - 2 イラン派
  - 3 ギリシア派
  - 4 スラブ派
  - 1 アラビア派
  - 2 シリア派

印度族等  
タータ族等  
大ロシア族、小ロシア族等  
シリア族、ユダヤ族等

二、白種本種

言語 言語は吾人獲得のものにして人類と禽獸との殊別をして明確ならしむ

る技能の一なるが、太古より現時に至る間に於て幾多の變異を經て、各國各地特種の通語を生じたるものなり、然れども言語學上は於ては之れを單音語、連綴語、變動語の三種に大別するを得べしとなす。本洲に行はるる言語の種類大略左の如し。

- (一) 單音語 支那語 安南語 柬埔寨語 緬甸語 暹羅語 西藏語
- (二) 連綴語 ドラビダ語 フラン語 アルタイ語 マライ語
- (三) 變動語 セム派 ユダヤ語 アラビア語 シリア語  
インドヨーロッパ派 スラブ群 コーカシア群  
ギリシアヒラチン群

宗教 人類にして宗教的思想を有せざるものは殆ど稀なるが、蒙昧の時代において、は、拜物宗偶像宗の如き自然教の行はるるを常とすれども、文物の稍開くるに至れば、多神教となり、又二神教となり、更に進みて一神教に達するもの、如し、而して本洲は優等なる宗教の淵源たり、今之れより現時の宗教の概況を記さん。

印度住民の大多數は印度教を信仰し、アジアの東部并に中部の蒙古人種は概して佛教を奉ず、此の兩教は親子の關係ありて共にアーリア人より起れる宗教なり、次にセム人に起因せるもの三あり、其のユダヤ教、ヤン教は小アジア、アルメニア、シ



ペリア、シリア、印度、支那等の諸國に散居せる信者を有す。又ユダヤ、キリストの兩教に基づきたりと稱せらるゝマホメット教の信徒は、アジアの西部并に中部を占領して尙ほ印度地方及び支那の北部に侵入せんとし、マライ半島、ソンドラ列島にも本教徒の彌漫せるあり。

生業。本洲北部の林業、鑛業并に西部の牧業は、現今該地方の居民が唯一の業務となす所なり。然れども南部シベリア、トルキスタン、モンゴリア、小アジア、シリア等は勿論アラビア地方にも多少の沃土のあるありて、人力の補助と交通の開進とを待ちて將に穀類、烟草、珈琲等を産出せんとするものゝ如し。是れカスピ鐵道がアム河沿岸の地に一大變動を惹起し、シベリア鐵道がシベリアに於ける各種産業の勃興を來せるによりて明らかなり。而して今後アジアの北部并に西部が充分に發達して幾分の工廠あるに至るとも生産力上より觀れば該地方は、到底第二派の地位に立ざるを得ざるべし。眼を轉じて豊饒なる印度地方并に殷富なる東部アジアを見るに此の地方は夥多なる原料を供給するのみならず、又此の土に住居する稠密多數なる人民は製作したる物品を需要するが故に工藝的貨物の好販

路たり。是れヨーロッパの各強國が重きを本洲に置く所以なり。要するに本洲に於ける生業は原産業に屬するもの多く、工藝は日本、清、印度等に於て稍盛なるに過ぎず、て交通機關の發達も充分ならざれども、他日アジアの生業に大進歩を來し、石炭と金屬との無盡藏により、多量の原料に廉價なる人力を加へば優にヨーロッパ諸國の産物と競争するを得るは素より論を待たず。

分國。アジア洲には我が大日本帝國の外、獨立國と稱すべきは、韓、清、暹羅、ペルシア、オマーン、ネパール、ブータン等の數國に過ぎずして、其の他は大抵ロシア、イギリス、フランス、オランダ、ポルトガル、ドイツ等のヨーロッパ諸國及びアメリカ合衆國に屬し、ロシアは北部にイギリス、フランスは南部に各其の勢力を張れり。

| 國名 | 領土 | 面積                        | 人口                         | 首府 | 都邑 |
|----|----|---------------------------|----------------------------|----|----|
| 日本 |    | 四一、七四二二 <small>方里</small> | 四六五二、一三二四 <small>人</small> | 東京 | 東京 |
| 韓  |    | 二一、八六五〇                   | 五七一、三二四四                   | 京城 | 京城 |
| 清  |    | 一一一三、八八八〇                 | 三、三〇三、〇〇〇〇                 | 北京 | 北京 |

世界地理 あじあ洲 總論 政治之部







|            |          |           |     |        |
|------------|----------|-----------|-----|--------|
| サラワツク(保護地) | 一〇、三三二   | 三三、〇〇〇    | 三   | クチン    |
| 香港         | 七九       | 二九、七二二    |     | ピクトツア  |
| 香港租借地      | 一〇〇〇     | 一〇、〇〇〇    | 一〇〇 | 九龍     |
| カマラン島      | 一三〇      | 一〇〇       | 一   |        |
| 威海衛租借地     | 七三八      | 一三、三七五〇   | 一六八 |        |
| パレイン嶋(保護地) | 六〇〇      | 六、八〇〇     | 一一三 | マナマ    |
| フランス領      | 六六、三五〇九  | 一八〇七、三〇〇〇 | 二七  |        |
| 印支那        | 六六、三〇〇   | 一七八〇、〇〇〇  | 二七  | ハノイ    |
| 印度         | 五〇九      | 二七、三〇〇    | 五四四 | ボンヂシエリ |
| 廣州灣(租借地)   | 七〇〇      | 六、〇〇〇     | 八七  |        |
| オランダ領      | 一一六、四〇七九 | 三五〇七、〇四八  | 三〇  | バタビア   |
| ポルトガル領     | 三六七〇     | 六五、〇九一七   | 一七六 |        |
| マカオ        | 一二       | 七、八六二七    | 三   | マカオ    |
| 印度         | 三六五八     | 五七、二九九〇   | 一五六 | ボンジン   |

|      |        |         |     |     |
|------|--------|---------|-----|-----|
| 大韓領  | 二九、六三〇 | 七〇〇、〇〇〇 | 二七  | マニラ |
| 小呂宋領 | 五〇二    | 八、四〇〇   | 一六八 |     |

韓國

自然之部

韓、國は舊名を朝鮮と云ひ、アジア洲の東部にある狭長なる半島國なり、其の極南の地は濟州島の毛瑟浦にして北緯三十三度四十六分に當り、其の極北の地は豆滿江沿岸の永遠近傍にして北緯四十三度二分に當る、又極西は小乳巖角の東經百二十五度五分、極東は豆滿江口の百三十度五十八分なり、而して北は不咸(長白山脈)、豆滿江を以てアジアロシアに境し、鴨綠江を挟みて清國と隣し、東は日本海、南は朝鮮海峽を隔て、日本國と對し、西は黃海に臨みて清國に向へり。此の國の廣さは甚だ大ならず、長さは凡そ九百軒ありて、幅は凡そ二百四十軒以内、面積は殆ど二、三萬方軒あれば、我が帝國の半より稍大なりとす。



海部 港灣の主要なるものを擧ぐれば日本海に慶興灣、城津浦、咸鏡灣、元山、津迎、  
和灣あり、朝鮮海峡に釜山浦、馬山浦、鎮海灣、昆陽灣、津津灣、順天灣、寶城灣、康津灣あり、  
黄海に海南灣、米浦群山浦、舒川灣、浚州灣、京畿灣、(南陽灣、仁川灣、)朝鮮灣、(大同江口)あ  
り。

陸部 東海岸は曲折乏しけれども之れに反して南と西とは彎曲多く且つ島嶼  
の之れを環繞するあり。半島として掲ぐべきは大丘半島、左水營半島、興陽半島、海南  
半島、右水營半島、泰安半島、南陽半島、甌山半島にして、蔚卿は蒙白半島、牧東、應卿、冬  
外半島、登山半島、小乳、兼角、扶郎半島あり。島嶼には東に馬梁島、蔚陵島あり、南に絶影島、加德  
島、巨濟島、開山島、南海島、南西群島、(南島、羅毛島、巨文島、雲龍島)あり、濟州島あり、西に  
海南群島、(子群島、双安眠島、豊島、永宗島、江華島、喬桐島、大和島、身彌島等)あり。

海岸 韓國は三浦に海洋を環らすを以て海岸線の延長は一千七百餘裡に達す  
べし、而して其の東岸は屈曲に乏しけれども南岸には數多の灣屈あり、西岸は南部  
に於て出入及び島嶼に富めども北方に赴くに從ひて漸く單純なり。因に記す、此  
の國に於ける潮汐満干の差は非常に著しくして最も其の多き所即ち西岸の中部

にては十米突に達し、南下するに從ひて漸く減少し、忠清道地方にては七米突、全羅  
道地方にては四米突となす、釜山に於ては二米突に達す、元山津津に至れば三米突  
なりと云ふ。

山誌 韓國は山岳丘陵の多き地なり、主要なる山脈は北部に不成長白山脈の餘  
江南秋嶽妙香の三山脈ありて各、西西南より東東北に走り、南部に於ては蘆嶺、車嶺  
の二山脈西南より東北に向ひ、前者は太白聯脈に、後者は小白聯脈に交はれ、此の  
小白聯脈は北微東の方向を取りて太白聯脈と會し、太白聯脈は北微西の方向に伸  
びて半島の東部に偏在す、又半島の中部には滅惡山脈、慈悲山脈等ありて横行し、馬  
息山脈、九月山脈等は斜行せり、今之れを表示すること左の如し。

- 不成山脈 白頭山(二七〇〇米突)
- 江南山脈 緩項嶺(六四〇) 三稜嶺(八一〇) 牙得山 芑鷹嶺 衝天嶺
- 秋嶽山脈 天磨山 雪梅嶺(一四六〇) 秋嶽嶺(九七〇) 勿移山
- 妙香山脈 妙香山 狼林山 劍山 黃草嶺(一〇九〇) 赴戰嶺 厚致嶺(一四〇〇) 大元山(一四〇〇) 江陵山
- 中部 滅惡山脈 慈悲山脈 馬息山脈 九月山脈



- 車嶺山脈 車嶺
- 遼嶺山脈 遼嶺
- 南部
- 小白聯脈 天徳山 獅子山 徳裕山 知異山 秋豊嶺 小白山
- 太白聯脈 大關嶺(八〇〇) 太白山 五臺山 金剛山

前記白頭山は火山にして頂上に火山口を有せりと云ふ然れども本半島の内部に於ける火山脈は著からずして活火山の噴出あるを聞かず又温泉も多からざれども鶯岩山、金井里、密陽、温水坪、臥龍山等を著名なりとす。

氷結。主要なる山脈は北韓、南韓、南韓各其の趣を異にすること前述の如しされば日本海斜面は豆満江(江に作)あるに過ぎざれども海峡斜面には洛東江の如き巨流あり而して黄海斜面は廣袤の著しきを以て従ひて最も大河に富めり然れども朝鮮は元來一小半島に過ぎざれば大河巨流と稱せらるるものも其の長さは四百軒内外なりとす、今茲に三斜面に就きて主なる河流を擧ぐれば日本海斜面に豆満江(圖們江)海峡斜面に洛東江、岳陽江、鴨江あり、黄海斜面に榮山江、錦江、漢江、夫同江、清川江、鴨綠江あり、本斜面に屬するものにして舟航の便を興ふること顯著なるも

のあるは潮汐の關係に由ること少なからず。

以上諸川の中にて特に注意を要するは豆満江、洛東江、漢江、鴨綠江、豆満江は白頭山より發し長さは三百二十軒ありて、ロレナ及び精國と韓國との境をなす支流に布爾哈圖河、輝春河あり共に左岸より會流せり。洛東江は源を太白山に發し行々沿岸の地を潤し下流百二十軒間には通船の便あり、源委通じて三百八十軒に達し支流に澄江あり、漢江は源を金剛山に發する河流にして長さは二百軒に過ぎざれども其の支流臨津江と共に京城の附近を流るるを以て名を知らる、大同江は劔山に發源して二百八十軒の長さを有する巨流なるが、日清事件以來殊に有名になれり、普通江、載寧江等を其の主なる支流とす、鴨綠江は白頭山に發源し、河流滾々として四百餘軒に達し、韓國と清國との境界に當れり、支流には渾江、驤河等あり。

地勢。全國の地勢は北部に高く東部之れに次ぎ、西部と南部とは稍低くして高山秀嶺と稱すべきものなけれども丘陵は甚だ多くして平低の地は少なきが如し、而して其の平野と稱すべきものは、多きは河流の沿岸若しくは海濱にありて廣袤







稱し、日本海の産なり、鮮食又は鹽類し韓人共に食用す。

### 政治之部

沿革。朝鮮半島は其の始め君長なし、桓王儉なるもの自立して王となり、桓君と稱し、平壤に都して國號を朝鮮と云ふ、之れを前朝鮮とす、檀氏は繼ぎて此の土に王たりしものを箕氏とす、傳へて箕準に至り、衛滿の亂ありて箕氏亡び、(皇紀一四六三)後朝鮮は衛氏と共に亡びて、(皇紀一〇六四)漢の版圖に入れ、(皇紀五〇〇)而して京畿以南の地に於ては西部に馬韓、東部に辰韓、南部に三韓の三國即ち三韓ありしが、馬韓の箕氏最も強大なりき、此の三韓の亡ぶるや北部に高句麗、起り、南西に百濟、現はれ、南東に新羅ありて朝鮮半島に三國鼎立するに至りしが、(皇紀一四二二)高句麗は唐と力を併せて百濟、高句麗を亡びして統一の業を成せ、之れより先半島の南部にありて日本の保護の下に存せし任那を新羅の爲めは滅せられたり、新羅(皇紀六八八)九四三の後を受けたるは王建にして、國號を後高麗(九四二—一三九二)

と改め、松岳山の直(皇紀一〇六四)都せり、王氏は蒙古及び倭寇の爲めに苦められしが、其の衰ふるや李成桂立ちて王となり、國號を再び朝鮮と改め、(一三九二)漢陽に都せり、之れを新朝鮮と稱す、明の萬曆二十年日本の侵掠(一五九三—一五九八)を蒙りて國殆ど亡びんとせしが、明軍の援助ありて僅に存立するを得、明の亡びて清之れに代るや朝鮮は清國附庸の地となりて、(一六五三—二百餘年)を經過せしが、明治九年(一八七六)に至りて日本は此の國の獨立を認めたり、其の後アメリカ合衆國(一八八二—一八八三)、ドイツ(一八八三—一八八四)、イタリア、ロシア(一八八四)、并にフランス(一八八六)等も亦朝鮮を以て獨立國なりとし之れと條約を締結したり、然るに北京朝廷は此の國を以て自國の屬地なりと主張し、遂に日清の間に開戦を見るに至りしが、清國の連戰連敗は馬關條約となりて朝鮮の獨立は世界萬國の公認する所となり、明治三十年(一八九七)國號は大韓と改まり、王は皇帝の稱を用ふるに至れり。

以上記せる所に據れば朝鮮は開闢以來近隣強國の壓迫を蒙れること酷し、壓迫久しきに及ぶ住民の氣質が一大變化を蒙るは、固より其の所なり、從ひて國家の隆昌亦期して望むべからず、茲に於てか義侠の精神に富める日本帝國は韓及び清の



獨立保全を謀らんが爲めに近く明治三十五年一月日本と協約を結ぶる事はなれり。今後韓國の獨立を危うすべきは其れ何れの國ならん。種族。韓人は外觀上單純の種族にして蒙古人種に屬し、容貌骨格は殆ど日本兵に同じく唯毛鬚の少なきを以て異なる點とするのみ、然れども細に觀察すれば上流人士には頗る鼻染秀てたるもの多く、下等社會并に北方咸鏡平安等には眞柱低く額狭き者多く、平安道地方の人は身體較大なるが如く多少の差異あり、要するに韓人は數派の民族の混合より成れるに似たり、説をなすものは土人に交ふるに印度種族を以てせしと云ひ、或は土民と滿洲種族との混和したるものと云ひ或は扶餘、蘇軻、漢、大和、穢貊等諸種の血脈を有すとせるものあり。

人口。韓國の人口は五百七十一萬ありて其の内三百十六萬は男子、二百五十五萬を女子とす、されば此の國は女少國にして一方料に付き人口は二十六人の割合なり、然れども當國に於ける統計は極めて不完全なれば概數七百五十萬を以て算る眞に近しとなせる説あり、之に従へば一方料の人口は三十四人となるなり、在留外人(一九〇〇)は凡そ二萬五千人にして日本人(一九〇〇)支那人(五〇〇〇)を以て主とす。

言語。言語は國內到る處同様なれども地方に依りて語調に多少の訛あり、其の語法は日本語と同じく、單音も頗る一致せる所あり、文學は中流以上の社會には多く漢字、漢文を使用すれども、普通には諺文と稱するもの専ら行はるゝが如し、而して今日の諺文は十四の父字と十一の母字(父字と五箇の母字)とを組合せて語音を現はせり。

教育。往昔は文化の盛なる國なりしが今は百事衰頹し、學問の如きも僅に虛文を尊崇するあるのみにして、外國語(日本語、英語、フランス語、ドイツ語)學校、師範學校、及び少數の小學校等に於て普通學を授くるのみにして、字房と稱する私塾に於ては、經書詩文習字等を授くるに過ぎず、而して上記の外武官學校、醫學校あり、日本人が韓人教育の目的を以て設立せる學校次第に増加するの傾あれども、語學の才に富める韓人は未だ古風の陋習を墨守し徒に舊時の事蹟を慕ふに止まりて、内外の事情に通じ自國の改良進歩を計るが如きは、殆ど其の念頭に存せず、教育の目的は畢竟官吏を養成するにありと信ぜらるゝものゝ如く、女子は裁縫其の他の家事を業とす。



するのみにして文字を學ぶもの甚だ稀なり。  
 宗教 現今韓國に於て最も勢力を有する宗教は一種の鬼神教なれども普通稱する所に従へば韓人の多數は儒道を信奉し孔孟の教を以て人倫道德の基となし、冠婚葬祭の儀式の如きも概ね儒式と稱するものを用ふるなり、佛敎は昔時に於て甚だ盛なりしが現時にありては衰微の極に達し僧侶自身の外は殆ど顧みるものなく、僧侶にして抄紙、菓子賣、大工等の業を營みて生活するもの稀ならずと云ふ、耶蘇敎は近來其の信徒漸く増加し、信者の數は新舊兩派を合せて八萬三千に近く其の五萬六千はカソリック教徒とす。

氣質 韓人は往昔にありては半島に獨立し學を勵み業を勤めし人民にして文化の度も高かりしが、中古以來近隣強大國の侵略を蒙りて漸次に衰へ、遂に今日あるを致せり、されば此の土の住民の氣質に就きては實に詳言するに忍びざるものあり、蓋し韓人が今日の如き氣質を有するに至りし原因は強國の壓迫の外、長幼嫡庶及び階級制度によりて甚しく人心を束縛せるによること多からん。

風俗 韓人には兩班中人常漢の階級なり、兩班とは東班、西班を合せ稱したるも

のにして、東班即ち文班は朝儀に際して東に列し、西班即ち武班は西に列し、共に王族以外に社會の上流に位し生れながらにして官吏となり政權を掌握するを得るの制度ありしが、此の特權は近年廢棄せられたり、中人は兩班常漢の間に位するより起れる稱呼なるべきが智識は他階級のものに比して一頭地を抜けるを以て、今日に於ては下級の官吏たるに止まらざるなり、常漢とは我が國の平民の如きものを云ひ農工商等の實業に従事する被治者たりしが、亦近年政治上に於ても兩班と同等の權利を得たり、然れども未だ之れを事實に表現する能はず、以上三級の外奴婢、僧尼、皮漢、才人等ありて社交上常漢の下位に立てり。

衣服には緩濶なる筒袖の上衣と膝下に於て括約せる廣濶なる袴とを用ふ、布地は概ね粗織の綿布、麻布を以てし、稀には紗、絹、綸子を用ふることあり、服色は白色青色多くして小兒は紅青紫等を用ふ、而して寒氣の凜烈なるにも拘はらず厚く綿を入れたる衣服を用ひざるは、蓋し平常温室内に起臥するが故ならん、履物は藁を以て造るを常とし、上流者に非ざれば革沓を穿たず、冠は階級によりて各、其の趣を異にすれども男女は一般に之れを着用し、冠と婚とは同期に行はる、食物は米麥を主



とし魚鳥蔬菜獸肉等を副とするは恰も我が國に似たり唯、肉類を食すること稍多しとす、殊に普通の人民には犬肉を食ふもの甚だ多し、飲料には米麥より製したる酒類又は茶、蜜水を用ふ、住居は概ね矮小にして層樓なき藁葺なり、故に官廡若しくは富貴の家に非ざれば瓦を用ふることなく、通常の家屋は三室より成り一を居間と座敷とに宛て一を物置とし一を竈のある所とす、殊に奇なるは屈爐の築造にして其の法床下に石を疊みて細路を縦樓に設け、室を温むるに便ならしむ、而して官舎寺院の建築には頗る廣大なるものあれども其の結構は甚だ粗なるを免れざるが如し。

**政體** 此の國の憲法とも稱すべき大韓國制に據れば、大韓國の政治は萬世に亘りて變ぜざる專制政治にして大韓國皇帝は無限の君權を有す、而して現行の制度に従へば議政府なるものありて皇帝を補佐翼賛し、百般の政務を處理す、議政府は議政及び外部、内部、度支部、軍部、法部、學部、農商工部、警部に長官たる各大臣、并に贊成(五)參贊(八)等より組織せられ、中央の政權を掌握す、又地方には觀察使、郡守、府尹、等ありて各地の行政を司れり、此の外、法規校正所、議政府の諮問所たる中樞院等あり。

司法に關しては京城に平理院、控訴院、各道に地方裁判所を設け、京城并に各開港場に特殊の裁判所を置き、皇族の犯罪に對しては特別法院を開くの規定あり。

**行政區劃** 往古は道に分ちしが現今は十三道に大別して、毎道に觀察使を置き、各道を若干郡に細分して、毎郡に郡守を置く、而して或る道には郡と並びて府を設くる所あり、廣州、開城、江華、仁川、東萊、德源、慶興、三和、務安の九府之れなり、府の長官を府尹と稱し、濟州島には特に牧使を置けり、此の牧使、府尹、郡守は觀察使に統率せられ、間接に内部に隸すれども、京城即ち漢城府の判尹は直接に内部に屬し、各開港場の行政を掌る監理は外務大臣の監督の下にあり、又我が國の市町村に當るものに面、洞、里の三自治團體あり、洞(長を尊位と云ふ)里(長を所任と云ふ)は七八百戸乃至五六戸に過ぎざれども、面は二千餘戸より五六十戸を有し、その長を風憲と稱す、今漢城府を除き韓國の行政區劃を表示すること左の如し。

| 面名  | 道名 | 觀察府所在地 | 府 | 郡  | 面   | 戸    | 人口   |
|-----|----|--------|---|----|-----|------|------|
| 京畿  | 水原 |        | 四 | 三四 | 四三六 | 一七、二 | 六七、六 |
| 忠清北 | 忠州 |        | 一 | 一七 | 一七五 | 七、四  | 二七、二 |



兵備 舊式の兵卒は一萬以上ありたれども兵器なく訓練なくして、更に實際の用をなさざりしを以て之れを廢し、今はヨーロッパ風に教練せられたる一萬七千許

|    |     |    |     |     |      |       |       |
|----|-----|----|-----|-----|------|-------|-------|
| 三南 | 忠清南 | 公州 | 1   | 三七  | 三七五  | 一五、三  | 四四、〇  |
|    | 全羅北 | 全州 | 1   | 二六  | 三一〇  | 一〇、八  | 四一、六  |
|    | 全羅南 | 光州 | 一校一 | 三三  | 三九二  | 一一、〇  | 四五、〇  |
|    | 慶尙北 | 大邱 | 1   | 四一  | 四九五  | 一五、九  | 五九、二  |
|    | 慶尙南 | 晋州 | 1   | 二九  | 三九九  | 一三、〇  | 四九、四  |
|    | 黄海  | 海州 | 1   | 二三  | 二七七  | 九、五   | 三六、八  |
| 關西 | 平安南 | 平壤 | 1   | 二二  | 二六八  | 一〇、二  | 三九、九  |
|    | 平安北 | 寧邊 | 1   | 二一  | 一八七  | 九、六   | 四〇、四  |
|    | 江原  | 春川 | 1   | 二六  | 二二三  | 八、〇   | 二七、八  |
| 關北 | 咸鏡南 | 咸興 | 1   | 九   | 一六六  | 五、九   | 四四、〇  |
|    | 咸鏡北 | 鏡城 | 1   | 一三  | 八二   | 四、四   | 二八、七  |
| 計  |     |    | 九   | 三三一 | 三七七五 | 一三六、一 | 五五二、六 |

の兵を備ふべく規定せられたり、即ち京城に侍衛聯隊、親衛聯隊、扈衛隊(以上近衛)砲騎工、輜重の諸兵隊を置き、江華、水原、大邱、平壤、北青の五箇所に鎮衛聯隊、濟州島に鎮衛大隊を置くの制なり、然れども實際には五千有餘の雇兵を有するに過ぎずと云はざるべからず、又海防に關しては二十八箇所に砲臺を築造すべく豫定せられたり。

外交 韓國と修好條約を締結して通商貿易をなす國は、日本、清、アメリカ合衆國、ドイツ、イギリス、イタリア、ロシア、フランス、オーストラリア、ベルギー、デンマーク等なり。

財政 韓國の財政は從來不整頓を極めしが、近年に至り豫算表の調製あるを見るに至れり、其の會計年度は一月に始まり十二月に終り、一千九百二年度の豫算左の如し。

|    |                       |     |                       |
|----|-----------------------|-----|-----------------------|
| 歳入 | 七五八、六五三〇 <sup>元</sup> | 歳出  | 七五八、五八七七 <sup>元</sup> |
| 地稅 | 四四八、八二三五              | 皇室  | 一二二 <sup>萬元</sup>     |
| 家屋 | 四六〇、二九五               | 議政府 | 三七                    |
|    |                       | 軍部  | 五、七                   |
|    |                       | 學部  | 一七                    |



|     |        |     |     |      |    |
|-----|--------|-----|-----|------|----|
| 海關稅 | 八五〇〇〇〇 | 外部  | 二九  | 農商工部 | 四  |
| 貨幣  | 三五〇〇〇〇 | 内部  | 九七  | 臨時   | 五三 |
| 繰越金 | 三一八〇〇〇 | 度支部 | 五八  | 豫備   | 六〇 |
| 雜收入 | 一一二〇〇〇 | 法部  | 二七九 | 其他   | 七八 |

生業 往昔は百業稱發達し産物にも陶器等觀るべき多かりしが外には強大國の壓抑を受け内には苛法重斂の餘弊を被りて遂に今日の如き悲况を現出するに至れり。

農業は其の耕種法の不完全なると灌漑法の不整備なるとに拘らず生産の主力たるを失はず而して農産物は米を第一とし其の年産額は七八百萬石に達すべし米の主産地は小麥、蠶豆、煙草等の如く南部にありて北部は大麥、稷、燕麥等に富めり又人蔘は開城の産を以て第一とし其の蒸溜を施し火氣によりて乾燥せしめたるものを紅蔘と稱へ然らざるものを白蔘と名づく牧畜は農業に次ぎて此の地の生産力の一要部を占め牛は各地に産し其の種も佳良なり馬は體軀矮小なれども能く力役に堪ふるが如し水産業は其の利權殆ど我が漁業者の手にありて慶尙、江原

咸鏡、全羅、忠清、京畿の沿海は我が漁船の往來せざるはなく、毎年の漁利二三百萬圓に達すと云ふ魚類は本邦の近海にあるものに似て其の主要なるものは鯨、鱈、鰯、鱒等にして元山の近海に産する明太魚は此の地方の名産たり、鑛業も亦此の國の重要な生業にして將來頗る有望なり、砂金は國內諸處に産出し雲山、殷山、永興、端川、稷山等の金鑛最も名あり、稷山は本邦人の手によりて採收せらる、又砂鐵は頁質にして价川、文川、新川、洪川等より多量に産す、其他甲山の銅、平壤、鏡城、咸興等の石炭亦名聲あり、銀は産せざるにあらざれども其の採掘未だ行れず、玉藝は極めて振はずして紙、簾、扇子、團扇、花蓆、茵、蓆、紬類等を産するに過ぎず、商業に就きて記さん、に内國商業は微々として殆ど見るに足らず、其の原因は主として物産の饒多ならざるに基づくべしと雖も、道路、水路等交通機關の整備せざると他に種々の情弊の存するあるとに因らずんばならず、然れども外國貿易は漸次進歩して二千萬圓を超ゆるに至れり。

|        |                       |                        |                        |
|--------|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 年次     | 輸出                    | 輸入                     | 合計                     |
| 明治三十一年 | 八六三、八二四〇 <sub>円</sub> | 一五〇〇、二六五〇 <sub>円</sub> | 二三六四、〇八九〇 <sub>円</sub> |



|        |          |           |           |
|--------|----------|-----------|-----------|
| 同 三十年  | 九四三、九八六七 | 一一〇一、三五九四 | 二〇四五、三四六一 |
| 同 二十九年 | 四九九、七八四五 | 一〇三〇、七八二八 | 一五三〇、五六七三 |
| 同 二十八年 | 五七〇、九四八九 | 一一八二、五二六七 | 一七五三、四七五六 |
| 同 二十七年 | 八九七、三八九五 | 一〇〇六、七五一四 | 一九〇四、一四〇九 |
| 同 二十六年 | 二六一、七〇〇〇 | 三八八、〇〇〇〇  | 六四九、七〇〇〇  |
| 同 二十五年 | 三二九、六〇〇〇 | 五五九、八〇〇〇  | 七八九、四〇〇〇  |
| 同 二十四年 | 三三六、六〇〇〇 | 五二五、四〇〇〇  | 八六二、〇〇〇〇  |
| 同 二十三年 | 三五五、〇〇〇〇 | 四七二、八〇〇〇  | 八二八、〇〇〇〇  |

重要輸出品は砂金、米穀、豆類、牛革、人蔘、海藻、魚類等にして輸出品中の重要なものは綿織、綿布、金屬、絹織物、石油等とす。

貿易港は從來仁川、釜山、元山の三港なりしが、近時に至り新に木浦、鎮南浦、馬山浦、群山、浦城、津浦を開き、京城及び平壤は開市場たり、而して輸出入の金高より觀れば仁川は首位にありて釜山之に次げり。

交通 道路の設備は至りて不完全にして交通上極めて不便なり、所謂王路は國

内の主要都會を連絡すれども之れを修繕改築すること絶えてなく、行路の難き實に名狀すべからず、然れども地方によりて多少の差異ありて京城より開城、平壤等を経て義州に至る街道は稍、良好なるが如し、王路の外には村落を連絡する通路あるも多くは踏み分け道なれば、到底普通の道路として使用し得べきものにあらず、水路に就きては陸上に洛東江、大同江、等航行し得べき大河あれども、河道を改修し土砂を浚渫することなきを以て充分其の効を奏する能はず、海路に就きては凡そ一千七百哩の海岸線あるに拘らず、脆弱なる帆船と二三の小汽船とを有するに過ぎざれば、輸出入の貨物の運搬を始めとし主要なる沿海の航行に至るまで等しく外國船特に日章旗船に依頼せざるべからず。

鐵道は京仁、京釜、京義の三線あり、京仁鐵道は四十三軒にして既に開通し、京釜鐵道四百六十二軒は目下建造中なり、此の兩鐵道は我が日本人の經營に係れり、又京義鐵道は其の敷設權韓廷の手にあり、嘗て工事に着手せしも今は之れを中止せるに似たり、郵便は凡そ五十個所の郵便司の設けあり、電信は凡そ二十個所の電報司を設け、京城、仁川、義州、元山、大邱、釜山、鎮南浦、群山、浦城、馬山浦間に通ずる電線は合はせ



て三千五百軒に達す、又韓國内の各開港市場には大抵我が郵便局あり、京城、釜山間及び京城、仁川間の電線は我が國の架設に係る、電話は唯京城内にあるのみならず、仁川、麻浦、水原、開城、平壤間にも開通せり。

○**處誌**。京畿道を中心とし他の十二道を分ちて三面とす、其の三、南面は南部に位する南と北との忠清、全羅、慶尙合はせて六道を、其の關、西面とは北西にある三道を云ひ、其の關北面は北東に於ける三道を云ひ稱する名なり。

○**京畿道**。京畿道は韓國の中央部に位し西は黃海に面す、漢江、臨津江之れを潤し交通の便は比較的に備はれり。

○**京城**。北緯三十七度三十分は一名を漢陽と云ひ又セウルと稱す、今を去る五百年前、李氏の立ちて朝鮮王となるや都を此處に定め今尙ほ韓國の首府にして人口十九萬を有す、此の地は漢江、西江の二水に挾まれ三方に山脈を控へ、海岸を距る二十軒の處にありて要扼の區なり、氣候は我が札幌地方に類すと云ふ、市街は東西三軒餘、南北凡そ三軒ありて周圍には胸壁を備へ其の延長十八軒、高さ三米突許なり、興仁門即ち東大門、崇禮門即ち南大門等の八門を構へ夜中には之れを閉鎖し、東大門、南

大門は諸道に通ずる大路の起端なり、城内を分ちて東、西、南、北、中の五署となし更に之れを坊(通)、契(町)に細分するを以て通計四十七坊、三百四十契あり、道路に大路中路、小路の三種あり、街衢は宏濶ならざれども其の本街は頗る端麗にして東大門より鐘路を経て西大門に通ずるもの、鐘路より南大門に至るもの等は其の幅十八米突を下らず、市内の四分の一は官殿、官街、公署、貴族の邸宅之れを占め古宮殿には昌德宮、景福宮あり、昌德宮は殿宇今や傾敗して往昔の壯觀を存せず、景福宮は市の北西部にあり其の外廓は四軒餘にして墨壁の高さは四米突餘なり、河流を引きて壘濠をなし其の幅四米突許あり、宮は東西南北に各一門を設け其の南にあるは正門にして光化門と名づく、門前の大街の左右には諸官衙相並べり、景福宮の南方、西署貞洞西南の一隅に慶運宮あり、現時の大闕にして規模宏大ならず、正門を大安門と稱す、大闕の附近に各國の公使館あり、獨り日本公使館は木瓦山即ち南山の麓形勝の地に位す、又南大門に近く日本領事館あり、俗に日本人居留地と稱せらる、泥曠の邊には日本守備大隊本部あり、京城在留者中日本人は三千餘人を以て其の首位を占め山口縣人、長崎縣人最も多し、之れ等は貿易、其の他の雜業に従事し居留地役



所商業會議所、學校、病院、社寺等を有せり、京城は目下開市場にして外國貿易も行はるれども又固有の商業にも見るべきものあり、泥岨、貞洞は共に商業の中心なれども殊に電氣鐵道の通じたる鐘路街には六矣廬ありて織物、紙、魚類等を賣捌き雜踏甚し、其の家屋は普通の矮屋と構造を異にし皆二階造なりとす、而して南大門の朝市も亦盛大なり、京城内外の名勝舊蹟には倭將臺、關羽廟、孔德里、南漢山、清涼里、文廟、獨立門、北漢山等ありて、城内一の寺院も存するあるなし。

龍山は京城を距ること六軒、漢江に瀕す、水運の便多くして三南の米穀多く此の地に輸致せらる、麻浦は仁川に往來する舢舨又は小蒸汽船の發着地なり、仁川港即ち仁川府、濟物浦北緯三十七度二十八分、東經百二十六度三十七分、(一五〇〇)は明治十六年を以て開港せし所なり、往時は寂莫たる小漁村なりしが開港の舉あるや乍ち變じて繁華なる小都會となるに至れり、此の地は京城を距ること鐵路四十五軒、我が長崎を距ること四百五十餘裡にありて、月尾島と相對し、其の間は船隻の碇泊に適せり、本港輸出品中の重要なるものは米、紅參、大豆の外、小麥、牛皮、毛皮、小豆、黍、砂金等にして、綿布、毛布、雜貨等を主要輸入品とす、市街は其の形勢我が神戸に類似せる所ありて、朝鮮町、外

國人の居留地に分る、日本居留地は清國居留地と各國居留地との間に位し、五千餘の在留同胞は商店を開き、倉庫を設けて盛に貿易を營み、領事館の外、學校、病院、公園等ありて、恰も内國に於ける市街の如し、而して日韓貿易殊に阪神貿易の發達と居留民の増加とは居留地の擴張を促し、遂に海岸埋立工事を起すに至りき、月尾島(周長一軒二軒)の北岸に日本海軍貯炭庫あり、南岸にロシア海軍の貯炭庫あり、永宗島(長一軒二軒)は明治九年我が軍艦雲揚が砲撃を受けし處なり、江華島(東北四十四餘軒)に離宮あり、皇帝の避難所なり、本島には建築石材、石灰、莞草、蓆を産す、水原は觀察府の所在地たり、商業稍見るべきものあり、南陽は一小灣を有す、安城には金鑛あり、廣州は要地にして王城堡障の一なり、驪州は商業盛に行はれ、京城との交通至りて便なり、楊州、清涼里には故閔后の陵あり、洪陵と云ふ、碧蹄館は礪石嶺の北にあり、文祿の役、明將季如松の大敗せし所なり、長湍は臨津江の要津にして大豆の輸出多し、開城(五〇〇〇)は一は松都と稱す、高麗の王氏四百年間の舊都にして王城堡障の一たり、現今開城府廳を此の地に置く、城の内外の構造京城に似て規模小なり、人參、油紙の産ありて、金、煙草紙、大豆を輸出し、商業上仁川と親密なる關係を有せり、而して仁川に對す



る貨物の運輸は堂湖と稱する浦口に由れり。

關西面 關西面とは黃海道及び南と北との平安道とを云ふ、滅悪妙香、狄龍、江南の諸山脈之れを横ぎり、大同、清川、鴨綠の三江西に流る。

黃海道

海州(一〇〇〇〇)は觀察府の所在地なり、市街は城壁を繞らし四門を備ふ。

汽船の碇泊場は龍塘にありて本市の南四軒に位す、延安は農業地にありて米穀大豆を産す、浦口を那津浦と云ふ、白川は黒田長政が明兵を破りし處なり、禮成江の西岸にあり、河口の祖母灘は穀物を集散する所なり、金川は大豆の産地なり、助邑浦は商業に従事す、銀波は綿花黍等を集散し沙里院と共に知名の市場たり、載寧は商業交通の要地たり、されば物貨輻輳し市况頗る盛なり、黃州は綿花大豆生牛等を集散し西北部の要地たり、豐川の近傍には鐵鑛沙金多し、長淵の附近には亦多く大豆の産あり、白翎島は古來兩班の重罪犯を流謫する所とす。

平安南道

平壤(三〇〇〇〇)は關西屈指の都會にして觀察府の所在地なり、此の地は大同江に瀕し大城山に據り天險稀に見る要害たり、往古箕氏、衛氏此處に都し、

文祿の役には小西行長が祖承訓に勝ち(元年)李如松に破られ(二年)日清戦争の際

には我が軍が敵軍を包圍攻撃して大勝を得し地なり、市街は内城、中城、外城、東北城の四區に分れ大同門通り、朱雀門通り等は商業最も盛なる處とす、又此の地は明治三十一年以來開市場となり我が領事分館あり、輸出品には砂金、大豆、小豆、米、牛皮、煙草等あり、輸入品には紡績絲、綿布、摺付木、紙卷、煙草等あり、名稱舊跡には箕子廟、牡丹臺、玄武門最も著はる、鎮南浦(東經百二十五度四十分、北緯三十八度)は明治三十年より開港の一なり、大同江に瀕し平壤の下流三十七哩にありて二千噸内外の巨船は容易に碇泊し得べし、然れども冬季二三箇月間は結氷するの不便あり、本港の貿易は著しく發達せざれども綿布、石油、摺付木、陶器等を輸入し米穀、金、牛皮、木材等を輸出し漸次好況を呈す、日本領事館は旭岡公園を負ひ眺望絶佳なり、成川は煙草、人參を以て有名な川、价川は豊富なる金鑛のある所なり、般山亦然り、寧遠は鐵鑛と號せられ平安南道第一の堡障とす。

平安北道

寧邊は觀察府の所在地たり、雲山には金鑛あり、定州には海産物、絲を産す、義州(一〇〇〇〇)は鴨綠江に臨み丘陵に據り實に海東の第一關たるに恥ぢず、

此の地に柵門、大市を開く百貨の輻輳すること夥しと云ふ、龍巖浦は鴨綠江口を溯



る二連にあり碇泊に便なり、渭原は李世梁の祖地なり、江界は人參の産多し、  
關北面 關北面は日本海に面す、北部に秋險妙香等の山脈の横はるあり南部に  
大白聯脈あり従て平地港灣に乏しけれども天産は少なからず、

咸鏡北道

鏡城は觀察府のある所なり、茂山は六鎮（茂山、會寧、鐵城、慶源、慶興）の一なり、鴨  
綠江の上流に位し森林蒼鬱たり、會寧は加藤清正が二王子を擒にせし所なり、慶源  
は水運の便あり商業稍盛に行はる、慶興は豆滿江の左岸に位しロシアと陸路貿易  
行はる、雄基は一小部落たるに過ぎざるも有望の地なり、城津は明治三十一年來、開  
港の一たり貿易には未だ見るべき者なしと雖も交通の機關は備はり、此の地に我  
領事分館あり。

咸鏡南道

咸興には觀察府あり、此の地の近傍には梨を産す、松田灣に錨地あり、  
元山北緯三十九度十分、東經百二十九度二十六分（一〇〇〇）は一千八百八十年來開港の一なり、港内  
北風の際は起浪の恐あり然れども貿易は漸次發達し大豆、小豆、明太魚、砂金、麻苧布  
等を輸出し綿布、綿絲、石油、摺付木等を輸入す、日本居地は北長徳山に據り東海に瀕  
し領事館の設あり、在留本邦人の數は一千五百に餘り學校、醫院、寺院等を有す、又守

備隊の駐劄するあり、我が海軍の石炭庫あり、此の地は長崎を距る四百六十連、下關  
より三百八十連の所に位し近海は水産に富めり、北青は北境に通ずる要路に當る、  
甲山には銅を産す、安邊は一小都會に過ぎざれども太祖の建立せる釋王寺あるを  
以て有名なり。

江原道

春川は觀察府の所在地、穢貂の古都たり、鐵原は古來鐵を以て名あり、新  
羅の王子泰封弓裔の都せし處なり、堂岘に金の産出あり、原州は交通の要衝に當り  
租、繁華の地なり、江陵は山海の景勝を以て著はる、鬱陵島は杉、松等の良材を産し魚  
産多し。

三南面 三南面は日本海、朝鮮海峽、黃海に臨み南部より西部には島嶼に富み又  
屈曲多し、而して大白聯脈、小白聯脈の外車嶺、蘆嶺の二山脈ありて洛東江、岳陽江、榮  
山江、錦江の流域には平野あり。

慶尙南道

晋州には木綿、棉花、麻布、紙を産し觀察府あり、泗川は島津義弘が大捷  
を獲たる所なり、閑山島は壬辰の役海戰のありし處なり、固城は一大灣を有し形勝  
の地たり、巨濟島には良港多く殊に竹林浦は大軍港たるに適せり、鎮海は同名の灣



に瀕し交通の要地たるべき所なり、馬山浦（北緯三十五度八十分）は明治三十一年以來開港せられたる所にして、舊馬山浦を距ること約四軒にあり、日本及びロシアの專管居留地には家屋未だ建設せられず、各國居留地に在住するもの、多くは日本人にして、此處に我が領事館あり、當港は米、大豆、銅鋼、砂金、牛皮等を輸出し、綿絲、綿布、石油、線綿等を輸入す、金海は洛東江口の西に位し、舟楫の便ありて、百貨輻輳せり、此の地は古の羅洛國の都たりし處なり、龜浦は洛東江に沿ひ、江口の下端浦と共に商船の集合する所なり、釜山（北緯三十五度十分）は我が對馬島と相對し、其の間僅に四十哩なり、されば兩地の關係は古來密接なるものあり、西曆一千八百七十六年日本との通商地となり、其の後一千八百八十年に至りて一般の互市場となれり、港は東と南との兩部に分れ、淺き南灣は漁船の根據地となり、深き東灣は三千噸の汽船をして自由に碇泊せしむれども、北風の起る時は波浪高さを缺點とす、當港の貿易に就きては米、大豆、小豆、海參、干鮑、干鯛、天草、布海苔、牛皮等の輸出あり、綿絲、綿布、摺付木、食鹽、煙草、陶器、繩類、石油雜貨等を輸入し、仁川の開港以來少しく衰頹せるの傾なきにあらざれども、此の國屈指の要港たるを失はず、行政上釜山は東萊

府の管轄に屬す、本邦の居留地は龍頭（高さ四〇米）龍尾二山の麓にありて、絶影島（日本、ロシアの石炭貯蔵所あり）に對す、人口は山口縣人、長崎人を首とし、總計一萬に餘り、本町北濱町、幸町、辨天町は商賈軒を並べ、頗る繁華なり、領事館、居留地役所、商業會議所、學校、寺院等のあること、仁川の如くなれども、彼れに比すれば釜山は一層日本的に發達せり、東萊は稍繁華の地なり、梵魚寺と稱する巨刹あり、梁山にも巨刹あり、通慶寺と云ふ、蔚山は壬辰の役、加藤清正が明の三十三將と韓の七將との合圍を受けて苦戦せし處なり、三浪津は貨物集散の要津なり、密陽は形勝の地たり、溫泉を有す。

**慶尙北道**

大邱（一八〇〇）には觀察府あり、此の地は舟楫の便を有し、百貨の集散行はれ、商業頗る盛なり、毎年四月及び十月に會市を開く、慶州は鷄林君子國と稱せし新羅の都たりし所なり、高靈は舊地の一にして、安羅と稱せし處なりと云ふ、星州は古の星山伽耶國にして、山水明媚の地たるのみならず、兵事上の要區たり、善山は英秀なる人物を出し、地なり、諺に曰く、朝鮮の人才は半嶺南にあり、嶺南の人才は半善山にありと、當今の善山果して如何の感あるか、尙州は水陸の要衝に當り、般



販の地なり、洛東は洛東江上流の要津にして江口を溯ること凡そ九十湮に位す、  
東は名所舊蹟に富み文人墨客の來賞するもの多し。

全羅南道

光州は觀察使の駐劄する所なり、米穀、木綿、紬、生糸等を輸出す、羅州は

商業地なり、米穀、竹器、扇、簾等を産す、榮山浦は錨地たり、沙浦は水運の便あり、木浦は  
東經百二十六度四十七分三秒、西經百二十六度二十七分七秒、は明治三十年以來韓國開港の一なり、港内浪靜にして  
水深く、錨地は水深十三米突を下らず、汽船は直ちに岸際に泊するとを得、誠に天成  
の良港たり、重要輸出品は米、大豆、小豆、海藻等にして綿布、綿糸、石油、摺付木等を輸入  
品の主要なるものとす、而して群山開港の舉ありしより稍衰ひしもの、如し、居留  
地は諭達山の南東にありて凡そ一千名の日本人は居留民の殆ど全部を占め、領事  
館、商業會議所等あり、市街の中、領事館通りの東部、務安通り等は最も繁華なる所と  
す、海南は壬辰の役に日本水軍の敗れし所にして、珍島と共に水路の要扼に當れり、  
古今島北緯三十四度二十五分、東經百二十四度五十分には最良の碇泊地あり、長直路と云二十七八年の役  
我が海軍が據りし處なり、濟州島は往古耽羅と云ひ近海は鮑、海鼠、海菜等に富めり、  
日本人の往漁するもの多し、巨文島北緯三十四度一分、東經百二十四度十八分は一時イギリスの艦隊

之れを占領せしことあり。

全羅北道

全州は觀察府の所在地、後百濟の都せし所にして魚鹽の利と舟楫の便

とを併有す、市街は繁榮にして全羅地方第一の都會たり、産物は簾殊に著はる、此の  
地に李太祖の墳墓あり、祖陵と稱す、益山は形勝の地なり、黃江は舟楫の便あり、商業  
地として有名なりとす、西浦に錨地あり、物貨の輸出少ならず、群山北緯三十九分十五秒、東經百二十六度四十分は明治三十一年より開港の一なり、錦江の南岸にありて港口は  
西北に開け、貿易は仁川或は木浦との間に行はるゝもの多し、其の主要輸出品は米、  
桐材、麻布、牛皮、紙等にして綿絲、摺付木、陶器、酒、石油等を主要輸入品とす、日本居留地  
には凡そ五百の在往者ありて、木浦領事館の分館、居留民會學校、寺院の設あり、龍華  
山は箕準の舊都なりと云ふ、竹島は漁業の一中心なり、南原は一都會にして城郭を  
構ふ、壬辰の役に激戦ありし處なり。

忠清南道

公州一〇〇〇は觀察府のある所なり、此の地は水陸交通の要衝に當

り、春秋二季の大市には全市の家屋殆ど皆旅商の宿泊する所となり、取引甚だ盛大  
を極む、扶餘は百濟の都城ありし所なり、江景は交通の便に富み韓國南部の商業地



たり、恩津に瀧燭寺あり彌勒の石像を以て有名なり、長岩は鎮江の咽喉たり、成歡は  
明治廿七八年の役我が混成旅團が大勝を獲し所なり、牙山は明治二十七年清國海  
軍が朝鮮救援兵を上陸せしめし所たり、豊島の近海は明治二十七八年の役に日清  
の軍艦が初めて砲火を交へし所なり、稷山には金鑛あり。

**忠清北道**

忠州は觀察使の駐在する所にして壬辰の役に日本諸將が勝戦せし所

なり、此の地は交通の要區に當り人家稠密商家輻湊して市街頗る盛なり、可興は金  
遷とともに漢江上流の要津たり、清州は南北往來の衝に當りて兵備上の要地なり、  
沃川は綿産地にあり。

**清國**

**自然之部**

境域 清國は支那と通稱す、アジア洲の東部より起りて中央部に達する一大帝  
國たり、其の極南の地は海南島の南端にして北緯十八度十三分に當り、其の極北の

地は蒙古の噶爾奇克達爾嘎克山脈の北端にして北緯五十六度四十分、極西は喀爾喀の西界葱嶺にありて東經七十一度五十一分に位し、極東は黒龍江と  
烏蘇里河との合流の地たる東經百三十三度五十二分なり。

此の國の形狀は東部の海岸線を底とし、中央部のタガルマ山を頂點とする所の  
一つの弧狀線三角形なり、而して境界は北西及び北に天山、阿爾泰、塞揚、噶爾奇克達  
爾嘎克等の山脈并に黒龍江によりてロシアのシベリアに接し、東は烏蘇里河、長白  
山脈、鴨綠江を挟みてロシアの沿海州及び韓國に隣り、黄海、東海、東支那海に瀕す、又  
南は南海、南支那海を受け、フランス領印度支那并に印度帝國のバルマに接し、南西  
は比馬拉耶、喀喇崑崙の二山脈、巴密爾高原等を隔て、印度に接す、廣袤は南北凡そ  
三千五百軒、東西凡そ五千二百軒あり、面積は一千一百十四萬方軒を有し、イギリス、  
ロシア、フランスに次げる大國にして我が日本の二十六倍、アジア洲の四分の一に  
當れり。

海部 清國は東部の外海洋を控ふる所なければ、邦土の廣大なるに拘はらず、港  
灣海峡は甚だ多からずして悉く太平洋に屬せり、而して沿海には北海、黄海、東海、南



海等の名稱あり、黄海は朝鮮海岸を以て東界とし、山東半島より揚子江口に至る海岸を以て西界とし、廟列島以内を北海と云ふ、東海は揚子江口より朝鮮の南西端に至る虚線以東、九州島、琉球列島以西を云ひ、臺灣海峡以南の海を南海と稱す。

北海(渤海)

直隸灣 遼東灣 萊州灣

黄海

朝鮮灣旅順口 烟臺灣(芝罘灣) 榮城灣 膠州灣

海灣(東支那海)

揚子江口 杭州灣 寧波灣 臺州灣 温州灣 福州灣

福建海峡(臺灣海峡)

泉州灣 廈門灣

南海(南支那海)

詔安灣 海門灣 廣東灣 廣州灣 東京灣 北海港

海峡

直隸海峡老鐵山 廟列島海峡 福建海峡(臺灣海峡) 海南海峽

陸部 陸部に就きて主要なるもの左の如し

半島 遼東半島 山東半島 雷州半島

地角 旅順角 長山角 山東角(成山角) 楊子角 冠頭角

桃花島 光祿島 長山列島 廟列島 崇明島(長六四浬) 舟山列島(長九四浬)

島嶼 海壇島 金門島 廈門島(四浬) 南澳島(長一二四浬) 大濠島(長二一八浬)

海南島(長二八〇浬)

海岸 前述の如く、此の國は海洋に面する部分の比較的にかからざるのみならず、海岸が概して屈曲に乏しきを以て、海岸線の發達は充分なりと云ふを得ず、其の延長は凡そ三千五百浬に過ぎざるべし、而して彎曲の大なるものは北部に存し、遼東山東の二半島は渤海を抱きて遼東、直隸、萊州の三灣を形成すれども、良港と稱すべきものなし、中部の東海并に福建海峡に瀕する海岸には、顯著なる出入を見ざるも亦佳良なる港形を呈せざるにあらず、又南部の南海に接する海岸にありては、廣東灣其の他二三の小灣を見るのみ。

海流 支那近海の海流は北東信風及び南西信風に因りて起る皮流と日本海流とを主とす、北東信風中臺灣と支那海岸との間に於ては海流南西に流走し、一時間一海里乃至二海里の速力を有す、其の南西信風中にありては一時間一海里乃至四海里に及ぶ、而して南西信風皮流の支派中、南海より來りて臺灣海峡を過ぎ、臺灣の北方に於て日本海流と合するものあるに似たり、又日本海流は臺灣の南岬附近にて一支流を分岐す、此の支流は臺灣の西方を過ぎ、澎湖水道を經、臺灣の北側を繞り



て日本海流の本脈に合す、因に記す、支那近海の潮汐は香港より舟山に至るまでは殆ど同時に襲來し、其の潮升は北に進むに従ひて勢力を加ふ。

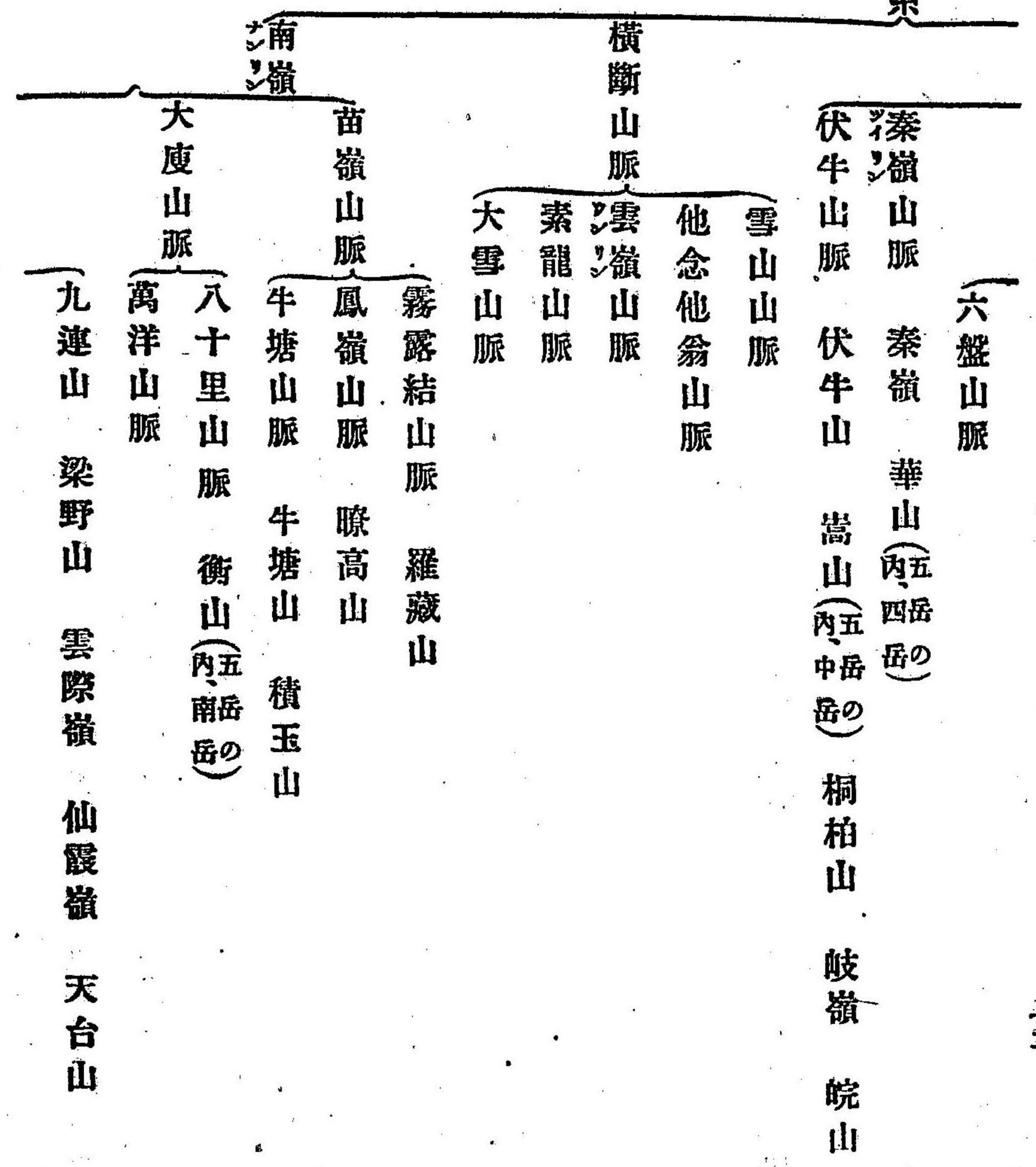
山誌 世界の屋棟と稱せらるゝ巴密爾高原の南東部に於ける葱嶺、喀喇崑崙山脈より發する數條の大山脈は、開きたる扇の骨の如く、或は北東に行き、或は東に向ひ、又南東に赴きて以て、此の廣大なる支那の國土を抱括せり、其の北東に行くものは天山山脈、阿爾泰山脈の一派にして、中部に於けるものは崑崙山脈に屬し、南東に走れるものは喜馬拉耶山脈なり、今左に一表を作りて主要なる山脈と顯著なる山岳とを列記せり、而して括弧内の數字は米突數なり。

- 阿爾泰山脈
  - 西部 幾日爾牙得山 由斯北爾山(五〇〇〇)
  - 東部 那喇特山
  - 北部 塞揚山脈
    - 噶耳奇克達爾曼克山脈
  - 南部 必拉克山(三一〇〇) 唐努山 碼拉哈山 杭愛山 肯特山
- 天山山脈
  - 北部 準加爾阿拉陀山脈 塔爾巴哈臺山 馬斯大山(三七〇〇)

- 本脈
  - 南山山脈 祁連山 合黎山 亦不刺山 葛西爾山(四二四〇)
  - 賀蘭山脈 阿拉善山 巴克丁山(三五二〇) 乞伏山
  - 陰山山脈 恒山山脈(恒山は五) 大行山脈
    - 燕山山脈 察漢托羅海嶺
    - 七老圖山脈
  - 興安山脈
    - 内興安山脈 東興安山脈 海喇喀山(四八〇〇)
    - 外興安山脈 西興安山脈
  - 遼東山脈 額敦山 大嶺山脈
  - 長白山脈 山東山脈 泰山 (内五岳の)
  - 巴顏哈喇山脈 巴顏哈喇山 烏哈那哈達山 年尼芒起山
  - 西傾山脈
  - 雪欄山脈
  - 北嶺山脈 巴山山脈



崑崙山系



仙霞山脈

四明山 樓臺皸角山 括蒼山 舟山列島

喜馬拉耶山脈

西部 南喀哈爾哈土山(八〇七〇) 南他地威爾山(七八一三)  
 達窪刺吉利山(八七一六) 葛利桑加爾山(八八四〇)  
 康珍單葛山(八四八〇)  
 知馬刺里山(七九〇〇)

天山山脈は幾日爾牙得山より起り、由斯北爾那喇特の如く雪線以上に聳ゆる高峯を戴き、イルチシ河の上流に於て阿爾泰山に接続す、而して哈密と巴里坤との間に於ける各斯的達斑の山道は二千八百米以上の高さを有せり。  
 阿爾泰山脈はイルチシ河、イニセイ河の兩水域間に於ける諸山脈の總稱なり、脈中三千米突に過ぐる高峯も存すれども平均高度は凡そ一千五百米突にして雪線以上に聳ゆるものは唯、必拉克山あるのみ。  
 崑崙山系は西の方喀喇崑崙山脈に隣接し、喜馬拉耶山に比すれば一層古代に於て成立せし者にして、實にアジア大陸の脊骨たるものなり、分ちて本脈、北嶺、橫斷山



脈、南嶺の四大部とす、崑崙山脈は西藏の北部、青海の中部を貫きて漢土の北西部に入り更に出て、内蒙古の域内に連亘し又漢土の北東部より滿洲に蜿蜒たり、北嶺は崑崙山脈の阿爾金山部より分れ、一は肅喀(五〇〇〇)拔爾肯哈達(四八〇〇)山となり、一は巴顏喀喇山脈となり、黄河、揚子江の水源地を走り東に進みて漢土に入れり、而して此の三脈を東崑崙(崑崙山、秦)中央崑崙(崑崙山、秦)西崑崙(崑崙山、秦)の三部に分つことあり、横斷山脈は北嶺の巴顏喀喇より分岐し、西藏の東部、漢土の南西部より印度支那半島に向ひて連亘し、其の方向は崑崙山脈に屬する支脈と異なりて南北に奔波す、地勢は最も高くして、金砂谷地の東に聳ゆる靈山は凡そ六千米突に及び、或る處に於ては山道の高さ五千米突を超ゆるものあり、南嶺は横斷山脈の雲嶺部より分派し、漢土の南部に綿亘して海中に伏し、再び舟山列島となりて現はる。

喜馬拉耶山脈に就きて既に前に記述せることあるを以て今は省略せり、而して藏布河の北方に連亘する山脈はガシリ或はトランス、ヒマラヤ(喜馬拉耶)と云ひて西部のガリン山(六六五四)は名を知らる。

水誌 清國は土地廣大にして高巒秀峰に富めるを以て、長流巨川に乏しからず、

特に降雨積雪の盛なる地方に水源を發する江河は多量の氷を輸送するを以て、漚既の利と交通の便とを與ふるもの甚だ多し、而して山脈の趨勢と流域の状態とに據りて江河を類別するときは、北氷洋、太平洋、印度洋の三斜面と中央閉塞地とに屬し、北氷洋斜面、印度洋斜面にあるものは大抵其の上流のみ清國內にあるを見る。

- 北氷洋斜面 伊犁河 イルチシ河 イニセイ河 薛靈哥河(以上上流)
- 黑龍江 烏蘇里河 鴨綠江 遼河 濛河 北河 白河 子牙河 黄河
- 太平洋斜面 汾河 渭河 揚子江 珠江 湘江 漢江 嘉陵江 浙江 閩江 珠江
- 東江 眉公河(瀾滄江)
- 印度洋斜面 怒江(サルウィン) 龍川江(イラワディ) 藏布河(ブラマプト) サトレチ河(上流)
- 印度河(上流)

中央閉塞地 塔里木河(葉爾羌河)和闐河、喀黑龍江は一にアムル河と稱す、アジア東部の一大河にして其の源流に二派あり、其の一をインゴタ河と云ひロシア領のチコンド山より發し、其の二を敖嫩河と云ひ、外蒙古の肯特山より出づ、此の二流の相合するや、什勤喀河となり、額爾古納河を



容れて始めて、黒龍江と稱す、本江は松花江、松嘎里烏喇と云ふ巨大なる合流を受け、て江身を増大し、曠野の地を過ぎて或は多くの合流を生し、或は湖澤の状を呈す、而して烏蘇里河の本支二流を合せたる後は、江身愈々廣濶となり、方向を北に轉じて、森林地を潤し、處々に洲嶼を形成せり、下流は甚だ濶大にして、波濤の起ること恰も海洋の如く、水層は極めて重厚なりと云ふ、兩岸は高隆にして、樹木鬱蒼たり、江口はタタル海峡のデバフ岬とブロンク岬との間にありて、カラフト島に對せり、本流の長さ凡そ四千四百料流域凡そ二百萬方料あり。

遼河は西部滿洲の大河なり、其の上流に二派あり、西派を西喇木倫河と稱し、東派を赫爾蘇河と云ふ、二派の相合したる後を俗に巨流河と稱す、遼陽の附近にて、遼河を容れて大に水量を増し、營子口を経て遼東灣に入る、本流の全長は凡そ七百料なり。

北河は其の源を五郎海山に發し、獨石、水潮河を容れ、天津に至りて、大清河、子牙河、衛河を合はせて、北河となり、大に水量を増加し、鹹水沽、葛沽、木沽を経て直隸灣に入る、本河の長さは凡そ六百料にして、河幅は天津に於て凡そ一百米突あり、河道は至

りて屈曲に富み殊に下流に於て甚しく、下流凡そ百三十料は通舟の便を與ふ、本河は實に直隸省の要流なり。

黄河は青海蒙古の南西巴顏喀喇山脈の北東の高地より流出する諸水相合して、阿爾坦河に匯し、鄂敦、他拉、香靈、鄂靈の三湖を經、甘肅省に入りて始めて、黄河(青海にト云ふ)と稱す、蓋し河水溷濁なるを以て此の名あり、黄河は山地を流下して、沙漠の地に行き、一大彎曲をなして、河套を繞り、龍門の險を過ぎ、孟津を経て平坦なる沙原を流るゝや、水勢漸く散漫し、河水愈々黃濁を加へ、之れより以下沿岸の地に損害を蒙らしむること屢あり、元來本流の河道には十數回の變化あり、現今の河道は西曆一千八百五十五年の大洪水後のものにして、大清河の古道に依れるものなれば、河口は直隸灣頭にあり、本河の全長は凡そ四千二百料にして、流域は九十八萬方料に達し、實に清國第二の巨流なれども、水勢の急激なると河道の一定せざるとにより、灌漑上多少の利便を與へざるにあらざれども、要するに大害小益の河流なるを免れず、而して支流には多量の水を輸送し來るもの少なく、左岸の汾河と右岸の渭河、洛河とを以て稍顯著なりとす。



楊子江は世界有数の大河にしてアジア第一の大河なり源流は青海高原なる巴額喀喇山脈の南西、噶爾布乃日山に發する那木齊圖、烏蘭木倫、托克托乃、烏蘭木倫、喀齊烏蘭、木倫の三流相合して木魯烏蘇となり次に布壘、楚河、巴楚河と呼ばれたる後四川省に入りて金沙江となる而して鴉龍江を受けたる後は大江又は長江と稱せられ山間の地を流れ行きて河幅縮少し、峽江(湖北、歸州の東に至る凡そ二百四十海里、珠に四川、瀘州府治の東より湖北、宜昌府治の三峽あり)と唱ふるの實を呈する所あれども岷江、嘉陵江、湘江、漢江、等を容れて江身愈廣大となり頗る水量に富めり江寧府即ち南京を經過したる後は楊子江と云ふ河口は崇明島の爲めに二つに分たれ南口は廣濶にして巨船の航通に適し北口は稍狭小なれども蓬船の出入を妨げず本流は百八十萬方杵の流域を有し源委通じて五千一百杵ありて河口より約一千杵の上流なる漢口に於てすら河幅は一千六百米突に餘り増水季には吃水六米突の船を通ず江水の積漲は支那曆六七月の頃に至りて其の極に達し十二月の候に至りて減退の極度を示す而して本流并に支流は土壤の佳良なる沿岸の地を潤して灌漑の利を與ふるのみならず航通の便を與ふること恰も地中海の如き感あり下流は宜昌

漢口の上流(凡そ六百杵)に至るまで汽船自由に馳行し殊に九江以下は四時大船上下す又宜昌以上も舟楫を通ぜざるにあらずして小汽船は重慶(宜昌の上流凡そ九百七十杵)に到るべしと云ふ。

閩江は南臺江とも云ふ福建者の分水嶺に發して東流し更に南東に流れて江東西峽と合し福州を過ぎて海に入る。

珠江は西江、北江、東江の合流より成れる粵江の下流なり西江には北盤江、南盤江の二源流あり相合して江水河となり柳江を容れて都泥江と呼ばれ鬱江を合せて潯江と稱せられ桂江と合して始めて西江となり北江、東江を合せたる後は粵江と云ふ珠江は素より黄河、楊子江に比すべき巨流にあらざれども漕運の便と灌漑の利とを與ふる點に於ては又南部支那の一大江たるを失はず。

沼湖 清國は邦土の廣濶なるに拘らず著大なる湖澤を有せず然れども其の數は少なからずして沼湖の多き地は東部の沿海の地楊子江畔并に北西、南西の高原等なりとす。

北極洋斜面 烏布薩湖周回四〇方杵 庫蘇克爾湖面積一〇〇方杵

世界地理 ありあ洲 清國 自然之部







羅布諾兒は長さ百二十軒幅六十軒ありと稱すれども、乾燥の地にあるを以て水量は甚だ多からざるが如し。

庫々諾兒(青海)は海拔三千米突以上の高地にあり、周回は五百軒に達し楕圓の形狀をなせり、而して大通河其の他の河流を受くれども、出水口なきを以て鹹湖をなし、水色青緑を呈す、湖中に魁孫陀羅海察罕哈達の二小島あり、島中に喇嘛廟あり、又湖の周圍には峯巒蟠互して風色明媚なり。

地勢。北西地方は七百五十萬方軒の面積を有して帝國全土の五分の三に當り、一大高原をなして周圍には高山秀嶺に富める山脈を繞らせり、其の喜馬拉耶山脈の北面にありては平均四千米突以上の高臺をなせるが數個の階段をなして漸次に低下し、戈壁の沙漠、蒙古の草原となれば、海拔は一千一百乃至九百米突なりとす。東部并に南東地方にありては、中央の臺地より分派せる數多の並行山脈は高地より流れ來る諸水の流域谷地を形成し、黄河と大江との流域は殊に廣大なりとす。而して南東地方は殆ど漢土の全部に當り、西江、閩江、錢塘江等の小流域を除く外は、概して黄青の二大河流に屬せり、黄河の流域に當れる北支那は陝西、山西の山地の

外、低地若しくは臺地にして一般に黄土に蔽はれ、河流乏しくして通舟の便、灌溉の利共に少なく、地味乾燥に失することあれども、亦麥類の好耕地たり、夫の直隸灣と黄河との間に於ける山東山麓は、舊と長白山脈に屬する一孤島たりしものならんが、黄河其他の河流が輸送し來れる泥沙は、沖積層を形成して、遂に現時の半島を形成するに至りしなり、南支那(中支那と稱す)は、青江即ち揚子江の勢力を逞うしする所なり、此の地方山岳繁谷多く平地少なくして、地貌は極めて錯綜し、河湖の數至りて夥しければ、灌溉交通の利便甚だ多し、加ふるに氣候溫暖にして、植物頗る盛に繁茂し、殊に水田に富めるを以て此の地方は世界屈指の産米地たり。

今之れより前記の戈壁沙漠及び黄土に就きて少しく説明する所あらんとす、戈壁沙漠は一に瀚海と稱す、北緯凡そ三十七度なる黄河の北岸より同四十八度なる庫倫に達し、西は東經凡そ百度なる甘肅省の北西部より東は同百十七度の貝爾諾兒に至る全長凡そ三千四百軒幅六百乃至百二十軒、地積は大約三百十萬方軒に達し、地勢概ね平坦にして一望際り無く、巖嶮丘陵は大洋中に於ける島嶼の如く起伏す、而して河流、鹽湖處々にあれども、沙漠の中央部にありては夏日大雨の後と雖も



數時間にして其の痕跡を見ざるに至る所あり、されば此の沙漠は其の大部不毛の地たり、是れ地質高度の然らしむるに因るもの多し、黄土即ちレニスはアジアの内  
地より風の爲めに運搬せられて堆積せるものにして、時としては其の厚さ六百突  
米に達することあり、土質は普通の粘土に比して石灰分を含むこと多く、又極めて  
肥力に富めりと云ふ。

氣候。清國の版圖は甚だ廣大なれば其の氣候の一樣ならざるは勿論なれども、  
元來海洋に瀕すること多からざるのみならず、又中央アジアの高地に關連せるを  
以て、自然の結果として氣候は大陸的たらざるを得ず、されば氣候は概してシベリ  
アの凜烈候にあらざれば熱帶的の炎暑候にして、中和を得たる好氣候の地は殆  
ど缺乏せるに似たり、本帝國の外海部并に漢土の黄河以北の地は冬季寒威極めて  
強く夏季には炎熱烈しく、極寒極暑の差著しくして温度の變化も亦甚だ急激なり、  
降雨は春夏の候に多からずと雖も冬季降雪は少なからずして、河水は凍結するを  
常とす、又此の地方は風多くして風力強く戈壁沙漠に於ては殊に甚し、即ち戈壁に  
於ては烈風屢起りて沙礫を飛ばし白晝爲めに咫尺を辨せざるに至る、大江并に南

部河江の流域は熱帯に屬するを以て、夏季には酷暑を覺ゆれども冬季は溫暖にし  
て氷雪に苦めらるゝことなく、春季は降雨多けれども秋季は無上の好氣候たり、然  
れども立春立秋の頃に於て季候風が方向を變ずる際には大風と稱する旋風の起  
ることありて國土に損害を與ふること少なからずと云ふ、附記す、年平均温度は北  
京に十二度、廣東に二十度にして北京の各月平均温度は一月に零下五度、七月に二  
十六度なり。

天産。清國は土地廣大にして山岳多く河流少なからず、高原あり沙漠あり、草原  
森林あり、嚴寒の地炎暑の土の存するあり、是れ各種の天産物をして此の地に現出  
せしめたる所以なり。礦物には金、銀、鐵、銅、錫、鉛あり、石炭、陶土、石材あり、又火井あり  
て石油を湧出す、特に水晶、翡翠、石其の他數種の玉類の産出するありて古來有名な  
り、植物に就きては北部并に西部の地には松杉科に屬するものあれども、概して草  
木豊富ならず、之れに反して南部東部は濕潤にして溫暖なる天候の下にあれば植  
物は大に繁茂して其の種類も亦極めて多きが如し、されば單に著名なるもののみを  
擧ぐるも紫檀、黑檀、桑樹、漆樹、竹類、籐、沈香、丁香、龍眼、柑類、橄欖、甘蔗、芭蕉、鳳梨、番薯等あ



り、其の他米、麥、高粱、玉蜀黍等の穀類、并に綿茶等の産多し、動物は北部に熊、虎、豹、駱駝、果像、騾、驢等あり、南部に猿、犀の類あり、西部には麝、鹿、羚羊あり、其の他牛、馬、水牛、山羊、綿羊、豚等は中央并に北西の臺地に産す、又鳥類は南部に多くして殊に金銀雉、鸚鵡、孔雀、鴛鴦、海東青、鷓鴣等を以て顯著なりとす。

「ヒスイセキ」斐翠石は硬玉 (Nephrite) の一種なり、濃綠色の斑條を有す、耳環、手鏡、簪、珠、文房具等に製し、清國人殊に賞用す、又「ナンキョク」軟玉と云ふものあり、質堅硬ならず、普通の飾器に製す。

「シタン」紫檀 (Pterocarpus santalinus) 「荳科」は熱帶地方に産する名樹の一にして、木質堅硬、木色紫黒なり、唐木細工用に供す。

「コクタン」黒檀「烏木」(Diospyros peregrina) 「柿樹科」は我が黒柿に近き植物なり、熱帶地方の産にして、木質堅硬、木色深黒なり、貴重木材の一にして、裝飾的器具を作るに用ふ。

「チンカウ」沈香 (Excoecaria agaloea) 「瑞香科」は一に「キヤラ」と稱す、木材は脂質に富みて濃褐色を呈す、焚香用として佳良の原料たり。

「チャウシ」丁香 (Eugenia aromatica) 「桃金娘科」は熱地に産する常緑木にして、蕾、子(子)を香料に供す。

「リウガン」龍眼 (Nephelium longana) 「無患樹科」の果實は乾晒して食用に供する外、支那人は藥料に用ひ、核仁を除き去りたるものを桂圓肉と稱す。

「カンラン」橄欖 (Canarium) 「橄欖科」は三十米突以上に達する喬木にして、白欖 (C. album) 烏欖 (C. Pimela) の二種あり、子實、欖仁を食料又は藥料に供す。而して木材に多少の用あり。

「アナナス」鳳梨 (Bromelia ananas) 「鳳梨科」は一に「バインネブル」と稱す、其の果實松の實に似て味頗る佳なり、又其の葉より纖維を採收して織物を製し得べし。

「サツマイモ」甘藷「蕃藷」(Ipomaea batatas) 「旋花科」は重要蔬菜の一なり。

「モチキビ」黍「高粱」(Holcus sorghum) 「禾本科」は子實を食用に供し、酒を醸すべし、又稿を牛馬の飼養料と爲す。

「シヤカウシカ」麝 (Moschus moschiferus) 「麝族」は鹿に似て稍小なり、下腹部に一線あり、麝香と稱する香料を分泌す。



「キンケイテウ」彩鷄「錦鷄」金雉 (Phasianus Picta) は雉屬の一種にして羽毛頗る婉麗なるが故に寒冷ならざる地に於て飼養して愛玩に供す。

「シラキシ」白鷓「銀雉」(Gallophasias nycthemerus) は温暖の地にて容易に飼育し得べく肉は食料に供し得べし。

### 政治之部

人口 清國は土地の廣大なるのみならず人口も亦極めて多く、其の數は三億三千萬又は四億二千餘萬と稱せられ世界總人口の五分の一以上に達せり、然れども本帝國を組織する各部に就きて考ふれば人口の配付に非常の差異あり、或は稠密にして一方料に付き二百二十一人を有するあり、或は十方料に付き僅に六七人を有するに過ぎざる部分あり、殊に戈壁沙漠、若しくは西部の山地に於ては殆ど無人の地たるが如き處あり。

|       |                            |                             |                              |
|-------|----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 清國全部  | 一、二一三、八八八、 <sup>積</sup> 八〇 | 三、三三〇、一三三、〇〇〇 <sup>人口</sup> | 三、三三〇、 <sup>人口</sup> 一三三、〇〇〇 |
| 漢土十八省 | 三、八七七、〇〇〇                  | 三、一九五〇、〇〇〇                  | 八二                           |

|    |    |           |           |     |
|----|----|-----------|-----------|-----|
| 1  | 直隸 | 三、一四八、〇〇〇 | 八六〇、〇〇〇   | 五九  |
| 2  | 山東 | 一、四九六、〇〇〇 | 三、三二〇、〇〇〇 | 二二一 |
| 3  | 山西 | 二、〇七三、〇〇〇 | 九九〇、〇〇〇   | 四八  |
| 4  | 河南 | 一、七三五、〇〇〇 | 二、〇一〇、〇〇〇 | 一一六 |
| 5  | 江蘇 | 九、九三〇、〇〇〇 | 一、八三〇、〇〇〇 | 一八四 |
| 6  | 安徽 | 一、四二八、〇〇〇 | 一、八五〇、〇〇〇 | 一一九 |
| 7  | 江西 | 一、七九五、〇〇〇 | 二、〇五〇、〇〇〇 | 一一四 |
| 8  | 福建 | 一、一一二、〇〇〇 | 一九六〇、〇〇〇  | 一七六 |
| 9  | 浙江 | 九、二二〇、〇〇〇 | 一、一三〇、〇〇〇 | 一二四 |
| 10 | 湖北 | 一、八一四、〇〇〇 | 二、八三〇、〇〇〇 | 一五六 |
| 11 | 湖南 | 二、〇〇五、〇〇〇 | 一、五二〇、〇〇〇 | 七六  |
| 12 | 陝西 | 一、九九三、〇〇〇 | 七九〇、〇〇〇   | 四〇  |
| 13 | 甘肅 | 三、五一四、〇〇〇 | 一、〇五〇、〇〇〇 | 三〇  |
| 14 | 四川 | 四、六一〇、〇〇〇 | 四、五二一、〇〇〇 | 九八  |



|                          |          |                        |                          |     |
|--------------------------|----------|------------------------|--------------------------|-----|
| 15                       | 廣 東      | 二四,三〇〇〇                | 二二二〇,〇〇〇                 | 九一  |
| 16                       | 廣 西      | 二一,七三〇〇                | 五二〇,〇〇〇                  | 二四  |
| 17                       | 雲 南      | 三九,六七〇〇                | 一一七〇,〇〇〇                 | 二九  |
| 18                       | 貴 州      | 一五,七二〇〇                | 三四〇,〇〇〇                  | 三三  |
| 滿州(東三省)                  |          |                        |                          |     |
|                          | 蒙 古      | 九三,九二八〇                | 五五三,〇〇〇                  | 六六  |
|                          | 蒙 古      | 二七八,七六〇〇               | 一八五,〇〇〇                  | 〇六  |
|                          | 新 疆      | 一四二,六〇〇〇               | 一〇〇,〇〇〇                  | 〇七  |
|                          | 西 藏(圖伯特) | 二一〇,九〇〇〇               | 二二五,〇〇〇                  | 一   |
| 尙ほ他の調査に據れば人口并に面積の概算左の如し。 |          |                        |                          |     |
| 清國全部                     |          |                        |                          |     |
|                          | 漢 土      | 二〇七,七八七 <sup>積</sup> 一 | 四,二六〇,四七三 <sup>口</sup> 五 | 三八  |
|                          | 滿 洲      | 三九六,八九六八               | 四,〇七三,七三〇五               | 一〇三 |
|                          | 蒙 古      | 九四,一七五〇                | 八五〇,〇〇〇                  | 九   |
|                          | 新 疆      | 三五四,二〇八四               | 二五八,〇〇〇                  | 〇七  |
|                          | 西 疆      | 一四二,五三八一               | 一一〇,〇〇〇                  | 〇八  |

九〇

西 藏 一一九,九六八八 六四三,〇〇〇 五

附記す一千九百一年に於ける開港在留外人の數は一萬九千餘人にして商戸は一千一百二十戸なるが其の内譯左の如し。

|        |        |      |
|--------|--------|------|
| 總 計    | 一,九一一九 | 一一〇二 |
| イギリス人  | 五四一〇   | 四二七  |
| 日 本 人  | 四一七〇   | 二八九  |
| アメリカ人  | 二二九二   | 九九   |
| ロシア人   | 一六四八   | 一九   |
| ドイツ人   | 一五三一   | 一二二  |
| フランス人  | 一三六一   | 六四   |
| ポルトガル人 | 一一三九   | 一四   |
| 其 他    | 一五六八   | 六八   |

人種 國土の廣大なる人口の饒多なる支那の如き國にありては住民は勢ひ單一の人種なる能はずさればカシガル、ゾンガリア等に少數の白色人數ありと雖も、



大體に於ては地理學者の所謂黄色人種即ち蒙古人種に屬す而して之れを大別すれば漢族、通古斯族、蒙古族、東干族、苗族の五族となるべし。

漢族は其の面貌平潤にして鼻低く頬高きを常とす而して五族中にありては最優等に位し、智力に富み、着實にして堅忍なる、勤勉にして儉嗇なる、實に天下無比なり、然れども有爲高尚なる理想に乏しく、家あるを知りて國あるを知らず、安逸の中に死を俟つても有事の際に命を捨つる能はず、徒に祖先の遺蹟を重んじて眞に子孫の繁榮を謀らず、娛樂を熱望して止らざるも苦境に沈淪するを厭はず、要するに古來の慣習を保守し又進化發明せんとするの念慮殆どなきが如し、而して此の種族は漢土、滿洲の南部并に内蒙古の一部に居住して其の數は三億五千萬に近し、故に漢族は陽に清朝即ち滿洲人の壓抑を受くるが如きも、實際は却りて帝國の主力を握り居れり。

通古斯族は身體中幹、顔面は圓く額廣平、顴骨突出し皮膚稍々赭し、滿洲種族の外、瓦爾喀、瑪涅克、爾鄂魯、春、素倫、達瑚、爾費、牙喀、滿、瑣、等の諸種族を包含せり、其の性概して驍勇にして騎射を好み、古より女真、渤海、金、清等の名稱の下に近隣の諸國を征服したり、然れども獵漁と牧畜とに従事するの外、殆ど他の生業を營まざるが如し、此の種の人民は旗兵となりて漢土に註在するものあれども概ね東三省に棲居し其の數は一百萬餘に過ぎざるべし。

蒙古族は喀爾喀、厄魯特、烏梁海、唐古特等の數種族に分れ、其の性質概ね勇悍にして能く勞に堪へ、猜疑の念少く極めて質朴なり、其の生業は主として遊牧を營み、居住の地は區域極めて廣けれども乾燥に失する高原にあらざれば山岳に閉塞せらるゝ高地なれば人口稀薄にして總數は四百萬に達せざるべし、其の喀爾喀種族は内外の蒙古に居住して凡そ二百萬あり、身體強壯にして其の面は平偏低鼻、顴骨秀て肌膚赤色を帶ぶ、其の厄魯特種族即ち加爾瑪克は準噶爾、上爾扈特、和碩特、杜爾伯特等の總稱にして、主要部は新疆地方に居り、總數百萬に近し、其の唐古特種族は漢人の所謂西蕃或は西藏と稱するものにして青海地方に棲居し、其の數は六七十萬を超えざるべし、而して現今の圖伯特の住民は皆此の種族に屬すべしと云ふ説あり、其の烏梁海種族は容貌より云へばトルコ族に屬すれども、風俗、言語、習慣より觀れば恰も喀爾喀種族の如し、獵獸、牧畜、耕作に従事して大に他の種族に勝れる所



あり、色楞格河の上流、古蘇庫爾湖畔等の山間の地に棲息し、其の数は二十萬内外なるべし。

九四

東干族はトルコ族の歸化せしものなりと稱せらる。容貌は全く漢人と異なりて蒙古人に類せず、身體肥大にして色白く髮黒し、顔は長くして額高く目黒く、眉毛濃密にして眼角は下向し、小耳圓領、鬚甚だ多し、言語、風俗は漢人と交はり蒙古人に接するを以て、稍之れに類似せる點なきにしもあらざれども、辨髮するを好まず、勇壯の氣質を有し、節儉力行を勤め、獨立心に富めり、宗教はマホメット教を奉ずるを以て、漢人は此の種族を稱して回教徒と云ふ、其の数は甚だ多からざれども、新疆、甘肅地方より滿洲中部に散居せり。

苗族に漢人の所謂化外の蠻民にして其の性極めて慍悍なり、南西部の諸省に屬する山間の地に棲居するが殊に廣西、貴州の境界たる南山山脈中に多し、清國政府の權威を恐れず、掠奪殺戮を事として屢、附近の漢人を苦ましむ、此の種族は漢族に先ちて漢土に住せしが生存競争の結果今の地に退けられしものにして人類學上はタイ語派に屬するラオ(老撾)人に近しと云ふ。

獯獯族(Tolo)は當國先住者の一種にして四川の南部、雲南の東部、貴州の西部等に散居するが印度のドラビダ人に近しと稱せられ又コーカスの種族に似たる所多しと云ふ、貴賤若しくは生熟に據れるか風俗習慣等の差異に基つけるか黑白の二派に分たる、特殊の表意的文學を使用し山間の地に住みて獵農を營めり。

磨些族(Mossos)は雲南の北部に棲む所の蕃民にして亦特殊の表意的文學を用ふるが人種上はトルコ人に類すと稱せらる。

前記の三蕃族の外に尙ほリス族、ルツ族等ありてメコン河并にサルキン河の上流に棲息する前者は磨些と同族なるも文化の度は一層低く後者は印度人に類する所多く性質溫和なるも勞働するを好まずと云ふ。

言語。言語は種族によりて差異の存すべきは勿論なり、而して漢族の言語は所謂單音語にして一聞單簡なる感あれども、實際に使用するに當りては極めて不便にして明瞭を缺き、漢族の多數なると國土の廣大なるとの爲に、言語に著しく異同を生じ、遂に主要なるものゝみを擧ぐるも五十餘種あるを致せり、其の北京語は直隸、山東、山西、陝西等の地方に行はれ、南京語は江蘇、安徽、江西等の地方に、湖廣語は湖



南湖北の二省に用ひらる、獨り官話と稱するものは、帝國內一般に通ずる普通語なれども、官吏、文人、富裕者の如き中等以上に位する人士にあらざれば、此の種の言語を知らざるなり、又言語を代表する文字は所謂變、躰、象、形、文、字(總字數四、三、四、九、六、〇、〇、〇、凡て四、〇、〇、〇、〇、〇)にして一見利あるが如しと雖も、之れを習得するには至大の困難あり。

教育 漢人は古來文字を好み學問に熱中せし人民なるが、保守的思想は一變して往古を追慕して止まざるの念慮となり、毫も進歩發達を意とせず、教育の如きも時世に應ずることなく亦極めて不振なり、普通の教育を以て目すべきものは、義學、家塾等の塾舎にて讀書習字を修得せしむるの一事あるのみ、而して中等以上の教育を受くるは、仕官を求むる徒或は富豪の子弟に限れり、其の學校には府、州、縣の三學及び國子監と稱する大學等ありて、修むる所の課業は經書史類の講讀、詩文の製作、文字の書方等に過ぎざり、然るに咸豐以來同文館、醫學校、電信學校、武備學堂等洋式の學校次第に起り、近年に至りては日本の學制に倣はんとするの機運漸々熟せんとし、留學生の海外に派遣せらるゝもの少なからず、されど一般漢人が空文を避けて實利的知識を研磨するの日は、未だ遠き將來にあるなり、滿洲人は漢人と雜

居するもの多きが故に、其の風に習ひて文書を修むれども、漢人に比すれば拙劣なるが如し、蒙古人は古來游牧のみを事とし、學術を修め知識を研ぎ又は子弟を教育する等の念は殆どなく、酋長所在の地或は人口稠密の處には學校の設あれども、普通教育を以て目すべきものにあらずして、其の教ふる所は漢語、滿洲語、蒙古語等に過ぎず、草昧の風は依然として存せり、又西藏地方にありては宗教的學校以外には見るべきものなし。

宗教 現今清國にて行はるゝ宗教には祭天教、風水教等種々あれども、通常儒道、大成門、道教、佛教、白蓮教、喇嘛教、回々教、基督教の八とす、儒道即ち孔孟の教は各種の宗教中にて最も勢力を有し、中等以上の人士は概ね之を尊信するを以て、天下に普しと云ひて可なり、大成門は儒道の變派にして廣く各地に行はれども、就中旺盛を極むるは湖北、湖南、四川、貴州等の地方とす、其の徒は大學、中庸の理を附會し弊害は多からざるに拘らず、政府は之れを禁ずるも人民は却て信奉す、道教は老子の道德經に出てしが、後世に至りて佛教に擬して偶像を設け、修養、仙丹、符籙等の術を説けり、信徒の數少なからず、佛教は往古隆盛なりしも元明に至りて漸々衰へ、清朝に至



りては壞敗の極に達したり、白蓮教は舊と佛教の一變派にして在裡教とも云ふ、民心を惑亂するの恐あるが故に政府は之れを禁制せんと欲すれども、教徒は死を恐れずして其の數は漸次に増加するの傾向あり、目下盛に行はるゝ地方は直隸、山東、山西等の北支那なりとす、喇嘛教も亦佛教の一派なり、西藏に起りて蒙古又は漢土に傳來し、現今二派の別あり、其の一を紅教と云ひ其の二を黃教と稱す、兩教の異なる所は紅教は妻を娶りて子に傳へ、黃教は黄色の衣冠を用ひ、妻を娶らずして化身轉生を以て傳燈するにあり、而して黃教は最も勢力ありて、清朝も政略上之れを庇保す、喇嘛教の盛なる地方は、本教の宗師たる達賴喇嘛及び班禪喇嘛の居住する西藏を始めとし、蒙古、滿州並に漢土の北西部即ち直隸、山西、陝西、甘肅、四川等なりとす、殊に蒙古に於ては嫡嗣を除くの外、概ね僧徒となり、嚴に殺伐を誡めらるゝを以て、蒙古人の風昔日の如く強からず、回々、教即ちマホメト教は帝國の西部及び北部に行はるゝも、主として甘肅、陝西、直隸、山西の地方を以て盛なりとす、其の教徒の數は三千萬に過ぎざれども、不穩の民にして屢々亂を起し、害毒を流すが故に、清國政府の深く嫌忌する所なり、基督教は天主教、希臘教、並に其の他數派の耶穌教に分れ、宣

教師は各地にありて傳道するを以て漸次に隆昌に起き、天主教に百二十萬人、耶穌教に七八萬あるも、希臘教は西北部に多少の信者を有するに過ぎず。

風俗。漢人と滿人とは元來種族を異にせるものなれば、言語を始めとし、氣質、風俗等は勿論同じからざりしが、清朝の滿洲より起りて漢土を席捲したりしより、滿洲人は權威を逞しうせしと雖も、敗者の多數なる爲に實際勝者は壓倒せられて其の言語風俗を一變し、遂に滿漢二種族の混同を來し、殆ど差異なきに至れり、衣服は官服、便服、總て滿制を用ひ一般に上衣と下裳との二に分つ、男子は頭髮を辮して之れを背に垂れ、手爪と共に其の長さを以て美とす、女子の頭髮は各地其の風を異にして、漢土の女子は小足を貴びて歩行し能はざるの奇風あり、履には靴、鞋の兩様あり、飲食は頗る發達して、東南各地にては稻米を主とし、西北各地にては粟、燕麥、蕎麥、高粱の類を食す、又蔬菜、肉類等を用ひ、熊掌、燕窩、魚鱗、海參、海帶等山海の珍味を食し、調理極めて精妙にして一般に油脂多き物を好む、而して阿片を喫する惡風あり、家は地方と貧富とによりて差異あれども、構造は瓦屋、木屋、土屋の三種にして、瓦屋、木屋は富豪のもの之れを造り、土屋は最も地方に多し、而して孰れも親族の一家内



に聚居團戀するには頗る適當せり、此の外山西陝西地方には穴居し、南方には舟居するものあり、要するに滿漢人の衣食住は甚だ進歩して、娛樂と便利とを併有せる生活をなし、物質的開化は案外に發達せるが如し。

「カラスムギ」燕麥 (Avena sativa) 「禾本科」は寒地に適す、子實を食用に供し、稗びを養畜用とす。

「燕窩」は「キンシエン」金絲燕 (Collocoria esculenta) 「繭口類」が唾液に海藻を混じて營みたる特種の巢窩なり、其の組織は海綿に似て白色の纖維より成れり。珍味として賞用せらる。

「魚鱈」即ち「鱈鱈」は「シモクザメ」 (Zygaena nallens) 「マラザメ」 (Lamna glauca) 等の如き鱈族に屬する動物の生鱈を煮、皮肉を去りて乾燥せしめたるものなり。風味ありと稱せらる。

「海帶」とは「ナガコンブ」長昆布 (Laminaria astrearia) より製したる長切昆布のことなり。

蒙古人の衣服は滿漢人と大差なし、夏季には綿布絹布を用ひ、冬季には羊裘を用

ふ、頭髮は男女とも一條に辮して背に垂れ、處女は二條に辮して左右に垂る、而して耳環指環、手釧、等を用ふるは蒙古婦人一般に喜ぶもの、如し、日常の飲食物は獸肉、麵粉、酥酪、煎茶、燒酎、等にして魚鳥の肉を厭ふ、而して頗る奇とすべきは蒙古人の食量の多きと數日間絶食するも飢色なきことなり、住居は極めて簡單にして游牧の人民は家屋を構造することなく、皆帳幕に栖息す、其の制一大輪形の圓屋をなし、轉徙の民に適せり、之れに反して土着の風をなせる農民は皆土屋を構へ、蒼くに茅藁の類を以てす。

「酥酪」は馬乳より製せらるゝ酪の一種なり。

政體 清國は中華と自稱す、開闢以來屢革命ありて、國名の如きも漢と云ひ晋と云ひ唐宋元明と唱へ、其の數實に枚舉に遑あらず、當朝は滿人愛親覺羅氏の世祖順治帝の創立(我が正保元年西曆一六四四年)に係り、君主專政によりて廣大なる帝國を統治せり、政府は京官と外官とより成り、別に宗人、内務の二府を置きて皇族の法規と帝室の庶務とを監理せり、軍機處は軍國其他内外の機務を參決し、軍機大臣を長官とす、内閣は國政を贊理するの府にして大學士、協辦大學士を以て組織す、六部、衙門は國政を



分掌し、毎部に管理尙書、左右侍郎等を置く、其の吏部は職官の詮劾黜陟を掌り、其の戸部は土田、戸口、財穀等の事を掌り、其の禮部は禮樂、教育、朝貢國の事を掌り、兵部は武職、驛傳の事を、刑部は法律、刑名を、工部は土木、建築、兵船、軍器の製造等を扱ふ、而して外交の事務を總理する事務、各國總理衙門は近年外務部と改稱し、今年新に商務部の設置を見るに至れり、以上の外、三法司あり、其の都察院は官常に察覈し、綱紀を整飾し、其の通政使司は章奏を達し、冤民の越訴を理め、其の大理寺は重辟を平反し、刑事を肅立す、尙ほ理藩院ありて、蒙古、西藏等の政令、刑賞を掌る、又翰林院、詹事府ありて、各編史、講經、制誥、文章等の事を掌り、國子監ありて、文武官を養成せり。

次に外官の主要なるものを擧げんに、第一を總督とす、一省若しくは數省より成る管轄地の民治、軍務を節制し、直隸、兩江の兩總督は南洋或は北洋通商大臣を兼ね、總督に次ぎたる重官は巡撫にして、省務を節制し、四民を撫養し、民治を督す、又漕運總督は各省の漕運を掌り、河道總督は各省の河江修築の事を掌る、其の他鹽政大臣、鹽運使は鹽事を布政使は租稅の事を管理し、按察使は刑名を肅し、罪案を判す、又順天、奉天の二府に府尹を置き、各省の府、州、縣に知府、知州、知縣を置けり、而して新設の

官衙には南洋、北洋の通商衙門、船政大臣あり、各開港場に道臺あり。

行政區劃 漢土を十八省に分ち、一省若しくは數省に就きて總督を置き、各省に巡撫を置く、但河南、山東、山西の三省には總督なく、直隸、四川には巡撫を置かず。

| 漢  |    | 土  |    | 總督 | 省名           | 省名の異稱 | 巡撫衙門所在地 |
|----|----|----|----|----|--------------|-------|---------|
| 直隸 | 兩廣 | 兩湖 | 閩浙 | 保定 | 直隸           | 燕京、薊州 | 天津(夏季)  |
| 江蘇 | 江寧 | 福建 | 福州 | 江蘇 | 姑蘇、吳、虎邱      |       | 南京      |
| 安徽 | 江西 | 福建 | 福州 | 安徽 | 淮南、皖         |       | 安慶      |
| 浙江 | 江西 | 福建 | 福州 | 浙江 | 南臺、閩         |       | 杭州      |
| 湖北 | 湖南 | 湖北 | 湖南 | 湖北 | 上杭、餘杭、西湖、浙、越 |       | 杭州      |
| 湖南 | 湖北 | 湖南 | 湖北 | 湖南 | 江夏、楚、郢都、楚荆   |       | 武昌      |
| 湖南 | 湖北 | 湖南 | 湖北 | 湖南 | 星沙、湘         |       | 長沙      |











等の各要處に駐在せり、綠旗兵は漢人より成りて漢土の各地に駐屯せり、其の總數は五十萬内外と稱す、然れども戰時に於て多少の用をなすべきものは、勇兵五萬と練軍十五萬人なりと云ふ、而して直隸江蘇の二省には特に洋式の練軍を置き、新式の銃砲を備へて防備を嚴にせり、然れども眞の戰鬥力を有する練軍は、其の數凡そ一萬二三千に過ぎざるべし、蒙古兵は二百五十五旗より成り、之れを内外蒙古百九十八旗、内屬游牧部五十五旗、回部二旗に分ち、總兵員十一萬と稱せり、新疆省には凡そ三萬の兵勇あれども、實力は一萬餘人に止まるべし、要するに清國陸軍の兵員總數は一百萬以上に達すれども、實際に於ては多少戰鬥に堪ふるものを加ふるも二十萬を超過せざるべし。

海軍は四個の艦隊より成り、其の北洋艦隊は直隸總督の配下において渤海の守衛に任じ、其の南洋艦隊は兩江總督の配下において、揚子江近海の防禦に當り、其の福建艦隊は閩浙總督の管轄に屬し、其の廣東艦隊は兩廣總督の管轄に屬したりき、然るに日清戰爭の際、北洋艦隊は殆ど全滅せしを以て、爾來支那の海軍力は著しく減じ、今日に於ては二十二隻、四萬餘噸の軍艦を有するに過ぎずして、之れを南北の

二艦隊に分てり、又海岸の防備としては各處に砲臺の築造あり、渤海の咽喉に於ける旅順口、大連灣、威海衛、并に直隸の太沽、福州の馬尾等を以て最も堅牢なる砲臺の所在地なりとせり、然れども此等の中、今は外國人の手にあるものあり、或は破壊せられたるものあり、造船所は三箇處にあり、其の馬尾船政局は福州に設置せられ、規模稍大にして清國第一の船造所なりとす、其の江南造船廠は上海の近傍にあり、其の黃埔造船廠は廣東にあり、又兵器の製造は北京、天津、保定、濟南、上海、杭州、廣東、南京、安慶、雲南、成都等の各地に於て行はれ、規模の稍大にして製作力の顯著なるは、上海の江南機器局、天津の兵器局、南京の機器局、廣東の兵器局とせられたりしが、天津の兵器局は北清事件の際に破壊せられたり。

財政 清國は邦土の廣大なると人口の饒多なるとに拘らず、税源は至りて乏しく、歳入は比較的僅少なり、其の額は八千八百二十萬兩にして、地租、海關稅、厘金稅、鹽稅等を以て主要税源とす、又歳出は一億一百万兩を超え、軍事費、國債費、地方費等を以て主要費目とす。

清國歳出歳入概算表(萬海關兩を單位とす)



| 歳入    |      | 歳出      |       |
|-------|------|---------|-------|
| 地租    | 八八二〇 | 地方費     | 一〇一一二 |
| 地方稅   | 二六五〇 | 軍事費     | 二〇三〇  |
| 地方雜稅  | 一六〇  | 首府費     | 三五〇〇  |
| 穀物稅   | 一〇〇  | 旗兵費     | 一〇〇〇  |
| 鹽稅    | 三一〇  | 宮室費     | 一三八   |
| 厘金稅   | 一三五〇 | 稅關燈臺防岸費 | 一一〇   |
| 內關稅   | 一六〇〇 | 公使館費    | 三六〇   |
| 海關稅   | 二七〇  | 江河工事費   | 一〇〇   |
| 普通貨物  | 二三八〇 | 鐵道費     | 九四    |
| 外國產阿片 | 一七〇〇 | 國債費     | 八〇    |
| 內國產阿片 | 五〇〇  | 豫備費     | 二四〇〇  |
|       | 一八〇  |         | 三〇〇   |

又國債は從來其の額甚だ大ならざりしが、西曆一千九百一十一年清國は諸強國に對し、北清事件に關する償金四億五千萬兩即ち六千四百萬磅を、一千九百四十一年ま

てに支拂ふべきことを約せり、而して一千八百九十四年より一千九百一十一年までに生じたる國債一億一千九百七十五萬餘磅に對する利子と、此の償金とを合算せば、清國の支出する金額は凡そ一億三千萬磅即ち我が十三億圓の多大なるに及べり。因に記す、支那各地に行はるゝ通貨に數種あり、銅錢は官設の造幣局にて鑄造し、品位形狀を一定するの制なれども、今日は有名無實にして私鑄の惡貨大に行はる、銀兩は一般に通用すれども元來民間私爐の製出するものなれば、重量形狀とも亦一定せず、之れを授受するに當りては品質、重量を估定するの必要ありて、實際上極めて不便なり、又墨銀即ちメキシコより輸入せられたる銀貨は支那各地に通用し、其の補助貨たる小銀貨は日本、香港より多く輸入したり、而して十數年以前より支那に於て鑄造する圓銀は、墨銀と性質、重量を同じうす、要するに支那には本位貨幣なくして商業上の取引には、銀塊を受渡するものと云ふべし、更らに支那の銀兩と我が貨幣とを比較するに、上海に通用する銀兩一兩は我が一圓十四錢四厘(明治十六年三月六)に相當し、其の百兩は海關兩及び各地の銀兩と、左の如き割合を有せり。

海關兩 一一一、四〇〇 漢口銀兩 九七、六二〇



天津銀兩

九四、二五四

廈門銀兩

九一、三三八

生業。清國は創立以來三千餘年を経過したる舊邦にして夙に開明の域に進み、百般の業務に就きても大に見るべきものありしなるべしと雖も、爾後徒に往昔の遺風を固守して、更に新意改良を加ふることを務めざりしを以て、遂に今日の如き不振を來たせり、然れども國內には各處に肥地沃土あり、住民は饒多にして能く勤むるの風あるを以て、往昔の盛況を目撃し得ざれども、尙ほ多少の留意を促すものあり。

漁業は古來行はるゝものなれども、此の國が比較上魚類に乏しきと漁法の極めて拙劣なるに由りて、著しき生産力を有する能はず、而して本業の稍盛なるは福建、廣東、浙江、江蘇等にして、魚翅、海參、鮑、鰻、鰕等の外に、淡菜、鱈等數種の貝類を與ふ。牧業は清國の生業としては重要なるものゝ一なり、豚は黑白斑と淨黒なるものとの二種あり、其の飼養極めて盛にして至る所豚肉を用ふるが如し、馬には二種あり、其の張家口(綏)並に殺虎口(四)の地方に産するを口馬と稱し、四川地方に産するを川馬と云ふ、而して馬の主産地は漢土の北部と西部とにして、滿洲、蒙古も亦良馬を

産せり、羊には四種あり、其の綿羊、山羊は蒙古と漢土の北部とに産し、其中古羊、羚羊は蒙古に産す、牛には黄牛、水牛の二種ありて各地に産すれども、農獸として力役に使用するに止まり、食用に供すること少なし、而して黄牛は蒙古地方と北支那とに産し、水牛は漢土の南部に産す、又青海、蒙古、西藏地方には犛牛を産す、此の外、陝西、甘肅、河南、四川に驢、馬の産あり、北支那に騾、馬の産あり、蒙古には駱駝の産あり、又家禽の中鶏は盛に各地に産するが如し。

「ガヒ」淡菜「貽貝」瀬戸介 (*Mytilus crassirostris*) 「薄腮類」は清人の賞食するものなり。「アゲマキ」鱈 (*Siliginaria constricta*) 「薄腮類」も亦清人の大に賞食する介類の一なり、浙江、福建等に於ては鱈田と稱する特殊の場所にて養殖す。

「ヤク」犛牛 (*Bos grunniens*) 「牛族」は滿身長毛叢生す、力役に堪え、乳肉を食料に供し、良質の皮を與へ、毛は織物、綱具に作るべく、尾毛を裝飾に賞用す。

林業は濫伐の餘弊を受けて大に衰頽せり、現時にありて森林の稍多き地方は廣西、湖南を始とし、北西の諸省、蒙古の東部、滿洲の北部にして、松柏、杉、柳、梧桐、楠、柚等の木材を與へ、又藥品としては樟腦、桂皮を與ふ。



鑛業は未だ盛ならざれども頗る有望の業なりとす、金は雲南、滿洲、新疆、直隸、甘肅、四川、兩廣等に産し、銀は雲南、兩廣、四川等に産す、又鐵は山西、福建、廣東、雲南、四川等に産し、湖北の大冶鐵山は我が枝光製鐵所に原料を供給す、右の外銅、鉛、錫、水銀等諸所に産出し、石炭は直隸、山東、山西、河南、四川等の各省に産すれども、目下盛に採掘せらるゝは直隸の開平、唐山、林西、并に山東の博山等とす、又鹽は山西、河南、雲南、蒙古等より出づ。

農業は清國人が生業中にて最も得意とする所なれども、培養宜しきを得ざるもの多く、農具もまた甚だ便ならざるが如し、米は南部諸省殊に江蘇、湖南、湖北等の水田(耕地の八分を舍む)に産し、麥は北部諸省の乾田に生ず、高粱、并に豆類は各地に多少の産あれども、滿洲の奉天省地方を以て最とす、甘蔗は兩廣、江西、四川を主産地とし、福建も亦其の産少なからず、棉花は中部の各地に産し、殊に江蘇、湖北の地方は良種を産す、其の江南地方に産するものを紫花と云ふ、麻は滿洲、兩湖、四川地方より出づ、蠶絲は各地に多少の産あれども、就中江蘇、浙江、廣東、四川、湖北は佳種を産し、山東、湖南のもの之れに次ぎ、山東には柞蠶絲多し、茶には紅茶、綠茶、磚茶、茶末等數種あり、産地は

漢土の南部と東部とにして、就中浙江、安徽、福建の地方を最も盛なりとす、人参は有名なる藥品にして、滿洲地方に良種あり、鴉片即ち洋烟は身命を蠶害するの毒烟たるにも拘らず、近來各地に其の産を見るに至れり、殊に西南部を以て主産地とす、楮は浙江、貴州、四川等に産す、此の外、南支那に蘭草の産あり、四川に白蠟、陝西に黃蠟の産あり、又果樹には橙、柑、甘蔗、龍眼、棗、梨等ありて、産地は廣東、福建等なり。

「サクサン」(Sericata Pernyi) 蠶蛾族は半野生の性質を有し、屋内を好まず、楮(柞)の葉にて飼ふべし、繭の大きさは天蠶繭に似て、家蠶繭の四五倍に近し、色は淡褐色を呈し、絲質は光澤に乏しく、染色に便ならず、用ひて繭綢を製す。

「ハクラフ」(Ericerus Cerifer) 蠶蛾族の分泌物より製せられ、優良なる蠟燭の原料となり、又木具の琢磨に用ひらる。

「ワウラフ」(Apis) 膜翅族の分泌物即ち蜜、蠟なり、學術殊に醫學に關する模型の製作、優等なる蠟燭の原料等に供せらる。

工藝は甚だ盛なるにあらざるも、亦多少の製作品は各地に産す、特に江蘇、浙江、廣東の地方は最も隆昌なり、絹布の産地は江蘇省の震澤縣、蘇州、大儀鎮、並に浙江省の



湖州府、杭州府、紹興府、寧波府等を以て主要なるものとす、而して種類は縐子、縮緬、紗、羅等を多しとす、又、繭綢は山東省の名産たり、紫花布は江蘇、湖北、浙江、福建、廣東の各地に産す、紙類は兩湖、江西、四川の各處に産し、磁器は江西の景德鎮より出て、瓦器は江蘇、廣東、福建等の各省に産す、漆器は蘇州、福州、廣州等の各地に、角器、骨器は江蘇、廣東に産し、籐器は廣東の特産たり、銅器は江蘇、福建、廣東に産し、錫器は汕頭より出て、銀器は廣東の名産たり、皮槓は江蘇、廣東に産し、地蓆は廣東省の東莞縣、蓮塘縣、羅定州に於て製作せらる、墨は徽州府最も著はれ、廣東の蜜餞、浙江の紹興酒は著名の産物たり、又、扇子は江蘇、浙江、廣東の各地に産す。

「ラ」羅は絹絲を以て織りたるものにして、絹よりは薄く、有紋、條紋等あり、男女とも夏時の衣服に用ふ。

「ケンチウ」繭綢は柞蠶絲を用ひて平織にせしものにして、紬に似たり。

「シカフ」紫花布は江南地方に産する棉花、即ち紫花を以て織りたる綿布なり。

「ビコウ」皮槓は一種の皮箱にして、甚だ強固なり、我が國にては俗に支那「カバン」と云ふ。

「ミッセン」蜜餞は鳳梨、西瓜、柑橘、梅、桃等の如き、種々の果物の砂糖漬なり。  
「シヨリコーン」紹興酒は主として米穀を用ひて醸造せる「アルコール」的飲料なり。

商業に就きては清國內部に於けるもの、情況は記すに由なしと雖も、貿易は漸次に隆盛に赴くもの、如し。

| 年次   | 輸 入                        | 輸 出                        | 輸出入合計                      |
|------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 一九〇二 | 三、一五三、三九〇 <small>五</small> | 二、二四一、八一五 <small>八</small> | 五、二九五、四五四 <small>九</small> |
| 一九〇一 | 二、六八三、〇二九 <small>一</small> | 一、六九六、五六七 <small>七</small> | 四、三七九、五九六 <small>七</small> |
| 一九〇〇 | 二、二一〇、七〇四 <small>二</small> | 一、五八九、九六七 <small>五</small> | 三、七〇〇、六七一 <small>七</small> |
| 一八九九 | 二、六四七、四八五 <small>六</small> | 一、九五七、八四三 <small>二</small> | 四、六〇五、三三二 <small>八</small> |
| 一八九八 | 二、〇九五、七九三 <small>四</small> | 一、五九〇、三七一 <small>四</small> | 三、六八六、一六四 <small>八</small> |
| 一八九七 | 二、〇二八、八六二 <small>五</small> | 一、六三五、〇一三 <small>五</small> | 三、六六三、八九八 <small>三</small> |
| 一八九六 | 三、〇二五、八九九 <small>四</small> | 一、三二〇、八一四 <small>二</small> | 三、三三三、六七一 <small>五</small> |
| 一八九五 | 一、七一六、九六七 <small>一</small> | 二、四三二、九三三 <small>一</small> | 三、二四九、九二六 <small>六</small> |



本表に記入せるものは清國貿易の全體を表出せず、蓋し海關の管理に屬せざる船舶にて、百貨の輸出入に従事するものあればなり、而して一千九百一年に於ける外國貿易の價格を國別にして、其の主要(一千万以上)なるものを列記すれば左の如し。

| 國名      | 輸 入    | 輸 出    | 輸出入合計  |
|---------|--------|--------|--------|
| 香 港     | 一、三三五二 | 八二六五   | 二、一六一八 |
| イギリス    | 五七六二   | 一〇三四   | 六七九六   |
| 日 本     | 三五三四   | 二八七三   | 六四〇七   |
| アメリカ合衆國 | 三〇一四   | 二四九四   | 五五〇八   |
| 印 度     | 三三〇四   | 二八三    | 三五八七   |
| ロシヤ     | 一二三    | 一〇九一   | 一二一四   |
| 港名      | 輸 入    | 輸 出    | 全 計    |
| 上海      | 一、八二二八 | 一、六七八五 | 三、五〇一三 |
| 九龍      | 二、三〇九  | 一、七六八  | 四、〇七七  |
| 天津      | 一、八八五  | 一、八八五  | 三、七七〇  |
| 厦門      | 一、四一六  | 一、四一六  | 二、八三二  |
| 汕頭      | 一、四一六  | 一、四一六  | 二、八三二  |
| 芝罘      | 九五七    | 九五七    | 一九一四   |
| 福州      | 五七八    | 五七八    | 一一一六   |
| 漢口      | 三八七    | 三八七    | 七七四    |
| 梧州      | 二八二    | 二八二    | 五六四    |
| 北海      | 一八七    | 一八七    | 三七四    |
| 其他      | 三三八    | 一四〇八   | 一七四六   |

次に貿易高を港別にして、其の主要なるもの(百萬以上)を列記せんに、

|    |       |       |       |
|----|-------|-------|-------|
| 汕頭 | 一、四一六 | 一、四一六 | 二、八三二 |
| 牛莊 | 五三五   | 八七五   | 一、四一〇 |
| 刺巴 | 五五七   | 五九三   | 一一五〇  |
| 漢口 | 五〇〇   | 三八七   | 八八七   |
| 梧州 | 三三四   | 二八二   | 六二六   |
| 北海 | 一八七   | 一四一   | 三二八   |
| 其他 | 三三八   | 一四〇八  | 一七四六  |

前記の外、開港并に開市場には、秦皇島、吳淞、蘇州、江寧、蕪湖、九江、鎮江、膠州、寧波、三水、江門、甘竹、岳州、九江、沙市、宜昌、重慶、杭州、温州、福寧、三都澳、龍州、思茅、亞東等あり。

又輸入并に輸出に就きて重要なる品種を列記すれば、

| 輸 入  | 輸 出  |
|------|------|
| 綿 布  | 生 絲  |
| 綿 絲  | 茶 類  |
| 鴉 片  | 綿 花  |
| 米 穀  | 皮 類  |
| 七二七五 | 六八五九 |
| 五四七九 | 二二八六 |
| 三五四五 | 一三二六 |
| 二三六一 | 一一〇〇 |
| 一九四六 | 一一九  |



|     |      |       |      |
|-----|------|-------|------|
| 砂   | 二〇七一 | 絹     | 一〇三六 |
| 石   | 一一五六 | 豆及び豆餅 | 九七八  |
| 石   | 六八三  | 胡麻    | 四一八  |
| 炭   | 三八六  | 地     | 三九七  |
| 棉花  | 三八四  | 編物    | 三九〇  |
| 麥粉  | 三八三  | 油     | 三四九  |
| 魚類  | 三八二  | 紙類    | 三一〇  |
| 鱗寸  | 三六九  | 食料菜類  | 二八八  |
| 毛織物 | 二八〇  | 生毛    | 二三八  |
| 錫   |      | 砂糖    | 二三〇  |
|     |      | 烟草    | 二一九  |

交通 清國の交通上の發達は概して不充分なれども、地方によりて大に其の趣を異にせり、東部の沿海の地并に長江一帶の地にありては水運の便あれども、北部の臺地并に西部の山地にありては水脈に乏しうして、勢ひ車馬の力を借らざるを

得ず、是れ俗に南船北馬と稱する所以なり。

道路は十八省を始めとし、滿洲、蒙古の邊境に至るまで通ぜざるはなく、省城所在地は勿論各地の間を連絡せり、然れども其の建造は不完全にして修繕は不整備なれば、車馬の往來、旅人の通行には極めて不便なるが如し、殊に夏季を以て然りとす。鐵路の發達は從來極めて遅々たりしが、近時に至り、外國の資本によりて經營せられしもの少なからず、一千九百一年末に於ては一千五百軒以上の既設線ありき、清國の經營せる關内、津榆鐵道は、天津に起りて北京及び山海關臨榆に至り、山海關よりは關外、榆營鐵道となる、後者と接續せる東清鐵道は、ロシア之れを經營し、ルビンを中心としてカイドロフスカヤ、ウラヂボストク、旅順口に通ず、此の外ドイツの經營せる山東鐵道及びベルギー人、フランス人の經營せる京漢(北京—漢口)鐵道の如く、其の一部の既に竣功せるものあり、又粵漢(廣東—漢口)鐵道等の如く未着手のものも數線あり。

水路に就きて記さんに、此の國は東に海を控ふるのみならず、内地には大河巨流に富めると航行し得べき沼湖の少なからざるとにより、地方によりては水運の便



大に發達せる處あり、特に大江の流域に當れる江蘇、安徽、江西等の地方を以て然りとす、大江には上海漢口線、宜昌漢口線、漢口長沙線、湖州上海線等の航路あり、又有名なる運河は本支合せて二千四百料以上あれども、近時舟行し難き所ありと云ふ、此の運河は北京、天津、臨清州、彭口、揚州、常州、杭州等を連ね、江蘇に屬する地方にありては分派幾百條なるを知らず、海路は沿岸の要港を連絡するに止まり、汽船會社の如きも一の招商局ありて、上海より南は寧波、廈門、福州、温州、汕頭等を経て廣東に通じ、北は芝罘、天津、牛莊等に至る航路を開けるに過ぎずして、海外との交通はイギリス、ドイツ、日本、ロシア等の船舶に依頼すと云ふも過言にあらず、然れども古式の構造に係る帆船即ち蓬船は其の數極めて多くして、内部の各地間を航行せり、左に掲ぐる表は一千九百二年中に於ける、各港出入船舶の概況を示すものなり。

| 旗    | 國名   | 隻數     | 噸數        |
|------|------|--------|-----------|
| イギリス | イギリス | 二、四七五八 | 二六九五、〇二〇二 |
| 清    | 清    | 二、六三〇三 | 九三四、一〇八二  |

| 種  | 船  | 章   | 噸數        |
|----|----|-----|-----------|
| 汽船 | 汽船 | 日 本 | 六〇四六      |
| 帆船 | 帆船 | 其 他 | 七二二、〇一四六  |
| 合計 | 合計 |     | 七三五、〇五一五  |
|    |    |     | 二四九四      |
|    |    |     | 三一二、八〇五七  |
|    |    |     | 五二八〇、六三九三 |
|    |    |     | 一一八、三六〇九  |
|    |    |     | 五三九九、〇〇〇二 |
|    |    |     | 六、六四九八    |

驛站即ち官設郵便は兵部の所轄にして専ら官信の遞送を司り、各省要衝の地に局を設く、其の數は二千四十箇所ありて之れが爲に毎歲凡そ二百萬兩を費すと云ふ、此の他に信局と稱する私設の郵便局ありて、公用以外の信書を發送するを以て營業とせり、又各税關内にありて公私信書の遞送を取扱ふ官設の郵便局は、近年大に擴張せられて本局三十六箇所、分局六十九箇所に達したり、以上の外十八省の各地に漕運局なるものありて、各種の公用貨物を輸送するを司り、其の數は凡そ八千あり、而して北京及び重要なる開港には、日本、イギリス、ロシア、フランス、ドイツ等、諸



外國郵便局の設あり。

電信は中央局を上海に設け、北には東三省線、蘭州線あり、西には成都線、雲南線あり、南には廣東線、東京線あり、電線の延長は二萬三千軒にして、電信局は二百五十ヶ處なり、又沿岸の海底電線(太北電信會社、東方擴張電氣會社は日本とも連絡せり、然れども清國の電信は政府専ら之れを使用し、私信には使用するを許されざる地方ありと云ふ。)

今交通の條を終るに當り、清國に關して我が國人の經營せる航路を記さん、横濱、上海線、神戸、韓國、北清線、神戸、北清線等(郵船會社、以上日本)、淡水、香港線、安平、香港線、香港、福州線、福州、三都澳線、福州、興化線、廈門、石碼線、上海、漢口線、漢口、宜昌線、神戸、牛莊線(以上大東會社)、上海、杭州線、上海、蘇州線、杭州、蘇州、鎮江線(以上大東會社)、長沙、湘潭線(湖南會社)等あり。

處誌 十八省 京師順天府即ち北京北緯三十九度四分東は一に燕京と云ふ、皇城を包むを皇城と云ひ、城垣周圍凡そ十軒、大小六門を設く、城内に大廟あり、社稷壇あり、景山あり、皇城は内城によりて包まれ、内城に九門の設あり、内には數多の官衙公署建ち、訂盟諸國の公使館の存するあり、旗兵の駐在するあり、内城の南に外城あり、一に南城と云ひ、七門を設く、市街の地にして商估は軒を列ねて百貨を賣買し、正陽大街、鼓樓大街殊に繁盛なり、市内街區の規模大なれども、道路整はずして不潔なり、天壇并に先農壇、祈年壇等は市の南部にあり、而して永定門外馬家堡に車站を設け、鐵路によりて天津、保定等に通ぜり、北京の製造工藝に就きては更に見るべきものなく、單に一大消費地たるに止まるが如し、府の近郊には南苑、暢春園、圓明園あり、萬壽山、昆明湖と共に名勝の地として著はれ、天寧寺の高塔、白雲觀、亦著名の建造物たり。

天津北緯三十九度九分東は直隸省城の所在地にして北清最要の通商港とす、我が長崎を距る七百七十哩、水陸の要衝に當り、百貨輻輳して市街極めて殷賑なり、殊に紫竹林は家屋の構造、街路の整備等を以て名を知らる、然れども冬季は氷結して航通の便なきこと三箇月に及ぶ、本港は主として荳餅油、敷物等を輸



出す此の地に我が總領事館あり、太沽は白河の口にあり、對岸の地と共に砲臺の所在地として名ありし處なり、塘沽は白河の河口を距ること九裡にあり、交通の要地たり、河間は漕運の便あり、景州は開福寺のある所なり、保定は省城の舊地にして、京漢鐵道の開通以來市況稍回復せり、正定は鑄鐵の業を以て知らる、張家口一六〇〇〇は一にカルガンと稱せらる、ロシアに向ひて磚茶を輸出し各種の生毛を輸入す、多倫諾爾は佛像の鑄造を以て名あり、市中に喇嘛の大寺あり、依りて一に喇嘛廟と稱す、天壽山は北京の北四十裡にあり、明の十三陵の地として名を知らる、通州は交通の衝によりて繁華なる地なりしが北清事件以來未だ復舊するに至らず、開平は唐山、林西、西山等と共に炭田を有す、秦皇島は渤海灣の一半島にあり、灣内水深く且つ不凍港なれば交通上の要津に數へられ、現今通商港たり、山海關は滿洲の咽喉にして長城は其の北より起れり、承德は一に熱河と稱せられ清帝蒙塵の地として知らる、直隸。

濟南は省城の所在地にして他日鐵道の中心たるべき地なり、泰山府に東岳廟あり、曲阜縣の尼山の麓に宣聖廟あり、濰縣二五〇〇〇〇は交通上の要衝に當り煙草

石炭等を集散し、山東第一の都會なり、青州は往昔の盛況を呈せざるも亦炸藥業の中心たるの望みあり、博山は産炭地にありて鑛業に従事す、登州は居民多けれども港は便ならず、芝罘六〇〇〇〇は一に烟臺の名あり、貿易港の一にして風景絶勝なると、碇繋に便なる良港を有するとを以て名あり、麥稈紐、山繭、絹綉、豆、豆油、豆餅等を輸出し、我が領事館の所在地なり、威海衛、膠州灣は外國の租借地なり、山東。

開封は省城の所在地にして五代の梁宋の舊都なり、彰德府、臨漳縣は魏の鄴都なり、歸德府、商邱縣は舊都の地にして夏の商邱、殷の亳たり、陳州の南に厄臺あり、孔子の絶糧に苦みし所なりと云ふ、河南は舊名を洛陽と云ふ、成周の舊都にして洛水の北にあり、近郊には天津橋、白馬寺等の古蹟少なからず、臥龍岡は諸葛亮の草廬のありし所なり、陝州に函谷の舊關あり、周家口は當省屈指の商業地として知らる、河南。

太原は省城あり、軍事上の要地たり、平定は無烟炭の産地にありて鑄鐵に従事す、潞安には潞酒の産あり、汾州には汾酒の産あり、平陽は炭田地として名あり、堯の古都たり、蒲州は舜の舊都の地なり、朔平は險要の地なり、歸化城は一にククホトと云ひ、商業地として名を知らる、山西。

西安四〇〇〇〇〇は舊都の地にして唐代の長安



なり、今は此處に省城を設く、潼關は一に東關と云ふ、交通上の要區にして商業盛なり、咸陽は阿房宮の跡あり、臨潼に坑儒谷あり、漢中は昔時天下の要區たりし所なり、榆林は邊要の地なり、陝西。蘭州(五〇〇〇〇)は省城の地なり、兵器并に毛織物を製す、西寧は交通并に軍事上の要區にして青海地方を管理す、涼州は商業地にして甘州は繁華の地なり、肅州に嘉峪關あり、邊要の關口なりとす、河州はズンガリア人の根據地たりし處なり、中衛は長城に接する商業地にして、寧夏は往昔の隆盛を觀る能はざるも地方の巨鎮たるを失はず。

成都(四〇〇〇〇)即ち錦城は蜀漢の舊都にして今は省城の所在地となり、商工共に盛にして般販を極め、市街の整備せること清國第一と稱せらる、松潘は打箭爐と同じく西藏との通商地にして、打箭爐は磚茶を輸出す、裏塘、巴塘はいづれも西藏の通路に當れる要地なり、嘉定は商業の中心にして、白蠟、金等に富めり、叙州(一五〇〇〇)は亦商業の中心なり、重慶(三〇〇〇〇)は嘉陵江と大江との相會する所にあり、上海よりの航程凡そ一千六百哩あり、此の府は農産饒多にして庶民殷富なる地方の中心なれば、工藝も多少進歩せるが如し、且つ又水運の便多く百貨の集散

に適するが故に、通商碼頭としては頗る有望なりとす、洛陽は洛陵江と長江との會する所にあり、商業上交通上の要地たり、萬縣(一五〇〇〇)は商業盛にして民船の製造甚だ多し、夔州に瞿塘峽あり、四川。雲南は省城のある所なり、商業稍盛に行はれ、其の五華寺には日本の僧の建設せし聚遠閣ありと云ふ、蒙自は盤江の上流に位し、フランス領印度支那に對する陸路貿易場なり、河口は紅河とナンシ河との會する所にあり、亦東京との互市場たり、思茅は東京及びバルマとの互市場たり、貴陽は省城の所在地なれども、商工業共に振はずして、一小市街をなすに過ぎず、長沙は省城の所在地にして、商業上の要地たり、湘潭(七〇〇〇)は湘江に臨み、商業盛に行はれて有望の地なり、岳州は開港の一なれども、商業未だ盛ならず、此の邊は名勝の地多く、瀟湘八景世に名あり、常德は沅江に瀕し、商業上の要地たり、沅州、寶慶、衡州等は苗疆にあり、湖南。武昌(二五〇〇〇)は省城の地にして、南清の最も要用なる通商區にあり、製糸、紡績、織物等の諸業行はる、其の大冶には鐵山あり、漢陽(一五〇〇〇)には鐵政局、機器局あり、近傍なる大別山上に禹王廟あり、漢口(八五〇〇)は漢水と長江との相會する所にありて、江口を距る六百哩、武昌、漢陽と鼎立し







は錢塘江に瀕し省城の地なり、開港として茶絹織物、繭、生絲、杭扇等を輸出し、水利至りて便なり、乍浦は杭州灣に臨み元以來外船の入津せし所なり、嘉興は農業地にして商業上の要區たり、湖州も亦水運の便に富みて生絲を産し、菱湖、南湖等には其の取引盛なり、紹興(二〇〇〇)は繁盛なる商業地にして酒の産あり、寧波(二五、五〇)は一名を四明と云ふ、甬江に臨む貿易港にして、棉花、蔴、明甫、茶等を輸出す、天臺山に方廣寺あり、温州(八、〇〇〇)は貿易港なり、木材、雨傘、蜜柑を輸出す。

福州(六五、〇〇〇)は閩江の口を溯ること三十四哩にあり、省城の地にして、通商港たり、茶を第一とし、木材、紙等の輸出あり、延平は閩江に沿ひ茶、木材等を産す、建寧も閩江に臨み、茶に次ぎて木材、穀物等を集散す、福寧は茶を産し、通商港なり、三都澳中の小島にして良港を有し、通商碼頭となれり、興化は商業地なり、泉州(一五、〇〇〇)は同名の灣を控へ、今日に於ては往昔の盛況を呈せず、廈門(九、六〇〇)は北緯二四度二七分、東經一〇八度四分、は同名の小島の西端にある貿易港なり、水深十二三米突を有し、船舶の碇泊に便にして、茶を主とし、砂糖、紙等を輸出す、實に臺灣との關係に於て親密なるものあり、漳州(一〇、〇〇〇)は砂糖を産す、汀州(二〇、〇〇〇)は汀江の上流に

沿ひ、煙草、木材、竹細工等を産す、以上。

桂林は省城の地なり、平樂は商業地たり、龍州は東京に通ずる邊要の地にして、陸路貿易場なり、南寧(五、〇〇〇)も亦潯江も亦潯江に沿ひ開港豫定地なり、梧州(五、〇〇〇)は西江の畔にある貿易港にして、廣西の咽喉に當り、砂糖、手皮、藍等を輸出す、以上。廣州(八五、〇〇〇)は北緯二三度六分、東經一一三度一七分、は一に廣東と稱す、省城の所在地たるのみならず、一千八百五十九年以來通商港となり、商業は勿論各種の工藝も盛なれば極めて殷賑の地たり、而して本港は海岸を距ると五十六軒なるも、東江、北江の貫流するありて、大船巨舶も容易に出入し、百貨の集散頗る盛にして、生絲、絹布、砂糖、蔴、陶器等を輸出し、南清貿易の中心たり、市街は新舊二城の内外にあり、殊に河上の船舶に居住するもの三十萬人ありと云ふ、三水は西江に沿ひ麻袋、團扇、蔴等々を輸出する貿易港(九七)なり、肇慶(六、〇〇〇)は西江航路の錨地たり、德慶(四、〇〇〇)は肇慶の上游にあり、亦船舶の碇繫地たり、江門、甘竹は孰れも西江下流の貿易港なり、刺巴は澳門の近傍にあり、亦開港なり、九龍は香港の對岸にありて、外國の租借地となれり、汕頭(三八、〇〇〇)は汀江の口にある貿易港にして、砂糖、煙草等を輸出す、廣州灣に外



國の租借地あり、北海は東京灣に沿へる貿易港にて有望ならざるにあらず、瓊州は海南島にあり其の附庸港を港口と云ひ、通商碼頭の一なり、以上、廣東。

**東三省** 奉天二五〇〇〇〇〇 北緯四一度五分 東は一に盛京或は穆克德音と稱し清朝の舊都滿洲第一の都會にして、省城の地たり、内城は方形にして宮城、官衙等を圍繞し、外郭は長さ六軒餘の方形にして、全府を包めり、市街は城内にありては四條の大街をなし、城外にあるものは外關市街と名づく、街衢は稍清潔にして、物貨の集散盛に行はれ、大豆、豆餅、雜穀、獸皮等を輸出す、興京は清朝創業の地なり、鐵嶺三〇〇〇〇は遼河に沿ひ大豆の集散盛なり、通江子は東西遼河の會する所に位し、亦豆類の市場たり、昌圖一五〇〇〇〇は煙草の産地にあり、新民は稍著名の地なり、法庫門は蒙古に對する貿易の要區たり、錦州、義州、寧遠は孰れも商業地なり、

遼陽七〇〇〇〇は家具を産す、海城は二十七八年の役我が軍が數度勝戦せし所にして、商業地なり、田庄臺は我が軍の大捷を得たる地なり、營口五〇〇〇〇は俗に牛莊と稱せられ、遼河に沿へり、二十七八年の役に我が軍の占領せし通商港にして、商業繁榮し、豆類、豆餅、豆油等の輸出あり、頗る有望の地とす、蓋平は日清兩軍激戦の

地なり、金州二〇〇〇〇は碼頭を大連灣に控へ商業稍盛なり、大連灣及び旅順口に借租地あり、皮子窩は黃海に面する不凍港にして、山嶺を集散す、花園口は明治二十七八年の役我が軍の上陸せし地なり、大孤山は豆餅、豆油、山嶺等を集散す、岫巖三〇〇〇〇、鳳凰城は山嶺を産す、賽馬集は鳳凰城の北東に當り交通の要地なり、大東溝五〇〇〇〇は鴨綠江の下流に沿ひ木材の集散盛なり、安東三〇〇〇〇は煙草、麻、豆類等を集散す、以上、奉天。

**〔黒龍江域〕** 吉林一五〇〇〇〇は松花江に沿ひ水運の便を有し、省城の地にして商業頗る盛なり、集散品は煙草、麻、人參、皮類を主とす、長春は一に寛城子の名あり、豆油、豆類、獸皮等を輸出し、商業頗る隆昌なり、伯都訥は一商業地なり、阿勒楚喀は農産物の集散盛なり、哈爾濱は松花江の岸にあり、交通上重要な所とす、市街は舊哈爾濱、新市、松花江岸の三區に分れ、東清鐵道技監市の行政を司れり、三姓は松花江と瑚爾喀河との相合する所にあり、商業上の要地たり、寧古塔二〇〇〇〇は四通八達の地にて、交通の要扼たり、琿春城は圖們江の岸にありて、ロシアと朝鮮とに對する邊防の地なり、以上、吉林。 齊々哈爾五〇〇〇〇は省城の地なり、嫩江を控へ、道路は四方に



通じ百貨は輻湊して商業盛なり、呼蘭、巴顔、蘇々(以上中酒)、爾根の各地に城あり、  
瑛、即ち黒龍江城は黒龍江に沿へり、大薩、哈連、烏拉はブラゴベシチンスクの對岸に  
位し、商業上の一要地なり、海拉爾は交通上の要地たるべき地なり、呼倫貝爾城は呼  
倫池の近傍にあり、以上黒龍江。

**蒙古** 買賣城は清國とロシアとの界にある陸路貿易場なり、庫倫三〇〇〇〇即ち  
ウルガは蒙古の最大都會にして喇嘛街と買賣街との二部より成りて、キアフタ  
を距ること二百五十軒、北京を距ること一千二百軒の地にあり、交通の要衝に當り  
て貿易盛に行はる、烏里雅蘇臺は定邊左副將軍の駐在地にして百貨を集散す、科布  
多も亦衛戍地にして商業も稍盛なり、以上外定遠營は王爺府とも云ふ、甘肅寧夏府  
の北西に當る一小市なり、以上內蒙古。

**新疆** 曲城一三〇〇〇即ちクルヂ北緯四三度五五分は商業の中心なり、製紙に  
従事し阿片、穀類等を集散す、迪化即ち烏魯木齊は新疆の首府にして哈密と同七、  
商業稍盛なり、吐魯養、哈喇沙爾等も稍名を知らる、喀什噶爾五〇〇〇〇は海拔一千  
三百八十三米突の地にありて軍事上並に通商上の要港たり、葉爾羌六〇〇〇〇は

海拔一千三百三十六米突の地にありて、數多の回教寺院を有せり、和闐四〇〇〇〇  
は泉地にありて穀物、果實、砂金、玉類を集散す、

**西藏** 拉薩北緯二九度五七分は雅爾藏布の左岸に於ける一支流に瀕し、海拔三  
千五百六十六米突の高地にあるも、西藏の首府なれば人口は三萬以上に達せり、喇  
嘛教の法王なる達來喇嘛は此の地に居住せるを以て僧侶の數は極めて多く、市街  
は殆ど宮殿と寺院とを以て充たさる、デガルシ即ちシガツは海拔三千六百二十一  
米突の高地に於ける一都會なり、人口は凡そ三萬ありと云ふ、耶東は互市場の一な  
り、トクヤルンは海拔四千九百八十米突の高地にある一村落なり、金を産す、蓋し此  
の地は人類の定住所中最高のものなるべし、以上西藏。

**租借地** 清國は一定の年限を以て外國に貸與せる所あり、大連灣、旅順口、威海衛、  
膠州灣、九龍、廣州灣之れなり。

大連灣には不凍港あり、旅順口には清國屈指の軍港ありて二十七八年の役我が  
軍の占領せし所なるが、現時此の二港は附近の地域と共にロシアの租借地二五と  
なりて、關東州と稱せられ、旅順の軍港并に大連灣の商港の設定を見るに至れり、而



して大連の市街は清泥窪にありてダルニーと命名せられたり威海衛は軍港として有名にして嘗て我が軍の爲に陥れられしが今はイギリスの租借年間となり、膠州口の青島は對岸の地域と共にドイツの租借地年間となり自由港として落花生油類等を輸出す市街の廣袤東西凡そ十八軒南北約十三軒ありと云ふ山東九龍年間はイギリス廣州灣九龍間はフランスに貸與せし所なり。

### 香港

香港島北緯二二度一〇分東經一〇七度一〇分は清國の領土たりしが鴉片事件の爲め一千八百四十二年以後イギリスの屬地となれり面積は對岸の地を合するも七十七方軒に過ぎず島内丘陵多くして平坦の地に乏しく地味は礫礫にして樹少なく氣候は溫度最高三二度七最高も健康を害ふに至らず平均年雨量は二千五百九十九軒なりピク最低五度六七高さも健康を害ふに至らず平均年雨量は二千五百九十九軒なりピクトリア市を建設して自由貿易を許しより爾來長足の進歩をなし人口は既に三十萬に達せんとす船舶の出入百萬噸頻繁にして百貨は盛に輻輳し市街は熱鬧を極む實に東洋屈指の自由貿易港なり鴉片砂糖穀粉食鹽の外茶絹の取引大に行は

る而して此の地は常に商業上の大中心なるのみならず亦支那艦隊の根據地なれば三千餘人の陸兵を置きて防備を嚴にせり行政長官を知事と云ひ行政部と立法部との補佐によりて各般の政務を處斷す行政部は殖民書記官駐軍司令官知港事其の他より成り立法部は其の部員少しく之れと異なれり。

### 瑪港

瑪港(澳門)北緯二二度三三分東經一〇二度三三分は往昔本邦人の天川と稱せし地なり香港の南珠江の口に於ける小島并に市にして附近の二島コロバヌタイバを合せ面積十二方軒人口七萬九千に過ぎず十六世紀の中葉以來ポルトガルに屬し往古は繁華の地なりしが香港の開けしより頓に勢力を失ひ貿易高の如きも二千二百萬ドルに達せず鴉片を以て主要貿易品とす。

### 印度支那

參照圖野口保典著世界地圖  
總覽第二號印度支那

位置。印度支那は一に後印度と云ふアジアの南東に於ける一大半島にして二



この部分より成れり、其の一は北方にある卵形の一大土塊にして北西より南東に走り、其の二は卵形部の南西より發して狹長なる半島を形成し殆ど赤道に達せんとせり、而して此の地方の四極を擧ぐれば、極北は北緯二十七度十五分、極南はマライ半島の南端ブル岬の北緯一度十七分なり、又極西はブラマブトラ河畔の東經九十度五十分にありて、極東は安南の東南パレラ岬の東經百九度四十五分にあり。

境域。北は清國と印度とに接し、東と南東とは南支那海を控へ、西と南西とはベトナム海、印度洋に瀕し、マラカ海峽を隔て、スマトラ島に對せり、面積は凡そ二百十餘萬方呎ありて我が國の五倍大に當り、廣袤は南北二千八百六十呎、北西—南東二千七百七十五呎、東西一千六百呎なり。

海部。南支那海即ち南海は多少内地に侵入して東京灣アロン灣暹羅灣等をなすも、印度洋はベトナム海、バルマ海、マルタバン灣をなすに過ぎず、而して此等の二海洋を連絡するはマラカ海峽なり。

陸部。半島には顯著なるマライ半島あり、クラ(四一呎)の地峽を以て大陸に連る、地角にはバンダム、パレラ、サンジャク、カマオリアント、パタニ、ロマニア、ブル、ネグライ等の諸岬あり、島嶼にはケバオ島、コンドル島、コイトロン島、コークット島、ペンナン島、サムイー島、トンタラム島、チマン島、シンガポール島、ビナン島、ランカウ島、サラン島、メルギ群島、アンダマン列島、ニコバル列島等あり。

海岸。江河の下流に於ては三角洲をなせる平低の沖積地あれども、其の他に於ては概ね岩礁に富みて懸崖絶壁ならざる處少なく、海岸線の延長は六千呎に達するも良港に乏し。

山誌。印度支那半島の山脈はチベット高原の南東に於ける横断山脈の餘派を、受け北西より南東に走るものを多しとす、今茲に主要なる山脈を東部より西部に至るの順を以て列記せんに、交趾山脈はソンコイ河を始とし、南支那海沿岸の諸流とメコン河との分水界たり、カオドンレク其の他二三の山彙はメコン河とメナム河との分水界たり、タンネキイ山脈は二千米突に達すること稀なるも南走してマライ半島の骨髓となる、而してクラ河とチャンポン河との水源が相接して一の低處をなせる部分は、支那海と印度洋とを連絡すべき一大運河を開掘するに適せりと云ふ、シアンヨマ山脈はサルウィン河とイラワヂ河との流域を分ちて、最高點は三千一百九



十四米突に達し南走してマライ半島に入る、ペグーヨマ山脈は最高六百米突に過ぎざる一小山脈なり、アラカンヨマ山脈は最高處マルセラモンに於て二千一百六十四米突に達しアラカン海岸の細流とイラワヂ河との流域を分ち、ネグライス岬に至りて海に没し、再び顯れてアンダマン、ニコバルの二列島をなせり、而して火山脈は顯著ならずして西岸のラムリ島附近に於て僅に噴泥山を現出せしむるあるのみ。

水誌。印度支那半島の河流は概ね山脈の方向に従ひて北西より南東に流れ、メコン、サルウィン、イラワヂ等を長流とす、而してソンコイ河は別に東流せり、此等の中メコン(眉公)河は本半島第一の巨流にして水源を西藏に發し、其の上流を瀾滄江と稱す、中流にありては激湍奔流の存するが爲に航行し難きも、コン瀑布より河口までは佳良の航路を與へ、南旺附近に於て四肢流となりてトンレサプ湖に通じ、チュンギン(前江)ハンギン(後江)の三派に分る、而してドンナイ其の他の細流は此の二分流に合して下交趾の低地を潤せり、主要なる支流はナムウ、ナムカン、ナムサヌ、セムン等とす、サルウィン河は源を西藏に發し、上流をルッキン(怒江)と云ふ、南走すること約一

千八百軒、マウルメイン附近に於て海に入る、イラワヂ河は半島の北部に發源し、モグン、タピン、ドキン等を合せ、ブROOMに至りて二派に分れ、東派を本流とし、西派をパッセイン河と稱す、而して本流も再數多の分派を生じ、一大三角洲を抱きて海に朝す。

次に、沼湖は其の廣袤の大ならざるものは各所に存在すれども、最も大なるものはメコン河畔にありて、トンレサプ即ち大湖と稱せらる、今本半島の河流に就きて一表を作ること左の如し。

| 本流        | 水源      | 河口     | 河長   | 支流        |
|-----------|---------|--------|------|-----------|
| 太平洋斜面     |         |        |      |           |
| ソンコイ(紅河)  | 雲南      | 東京灣    | 一一二七 | 黒青河       |
| メコン(カンボジ) | 西藏      | 南支那海   | 四五〇  | ナムウ、ナムカン等 |
| メナム(滇南)   | 暹羅      | 暹羅灣    | 九六六  | メカン、メニン   |
| 印度洋斜面     |         |        |      |           |
| サルウィン     | 西藏高原南東面 | マルタバン灣 | 一七八〇 | ナムウ、ナムカン  |

世界地理 あじあ洲 印度支那



地勢 印度支那半島の地貌を案ずるに數派の江河は並行谷地の間を流れ、之れを挟む山脈は概ね二千米突以下なるにも拘らず、或は森林の繁茂するあるによるか、或は氣候に激變あるによるか、人類の繁殖には意外の障害たりしものゝ如し、されば本半島の拓地殖民を企圖せるものには印度人、支那人、フランス人、イギリス人、なるとに拘らず、何れも河流を溯りたり、而して現に人口蕃殖して拓地の業を進めるはソンコイ、メコン、メナム、イラワヂ等の河口、下流の地に限り、之に次げるは沿海の地なりとす。

氣候 氣候は熱帶的にして、印度に於けるが如く季候風の方向によりて一年を二季に分てり、南西風は四月より九月まで吹きて濕候を生じ、九月より三月までの北東風は乾候を生ず、而して風向を變ずるの際には溫度の甚しく上昇するを覺ゆ、要するに本半島は概して高温を呈するも南部にありては寒暑の差少なし、例令は柴棍の平均氣温は二十七度強にして最高最低の差は僅に二度八五あるに過ぎず、北部にありては寒稍著しく、河内の平均は二十四度なるも最高は三十五度にして最

低は七度に降ることあり、又内部にありては氣温稍低くして屢七、八度の低温を呈することありと云ふ。

雨量は多くして其の配布は一様ならず、西部は最も多量の雨水を受け、アラカン地方は三米突内外にして、アラカンヨマの西斜面は六米突以上に達すれども、東斜面は一米突半に過ぎず、又マライ半島の西岸も雨量に富み、ピナン島には八米突の降雨を見ること稀ならず、バンコクの雨量は一、四九にして柴棍は一、七四を示せり、而してメコン河とソンコイ河との分水山脈に於けるも、亦西斜面は東斜面より多くの降雨を受く。

天産 動物并に植物は支那に類するあり、印度に似たるあり、然れども之を細別すれば、東京交趾は支那的にして、東埔寨、暹羅にありては支那的と印度的とを混同するを見るも、緬甸地方にありては印度的なり、而してマライ半島に於てはマライ群島固有の種類多きが如し、要するに印度支那の森林は「チーク」「カッチャ」「椰樹」の類に富み、動物には象、犀、虎、野牛等を以て最も著しきものとすべく、鐵、鉛、銅、錫、銀、金等の礦物は本半島の山脈に多く埋藏せられ、マライ半島の錫、緬甸の玉類、東京の石炭、ア



ラカンヨマの石油等は稍著しきものなり。

「チーク」蘇栗 (Teetania grandis) 「馬鞭草科」は印度支那半島、印度半島等に於て廣大なる天然林をなす、木質堅硬緻密にして淡赤黒色を呈し、濕氣に堪へて容易に腐蝕せず、故に船艦材として最良の聞あり。

人種 印度支那の住民は數多の種族より成れるも、之を五群に大別することを得、其の第一群は安南人、タイス人、(暹羅人、老、等より成りて、元來支那種族なるも多少の變差を生じ、緬甸人殊にアラカン人は著しく印度種族の混淆を受けたり、其の第二群はクメル人即ち柬埔寨人にして甚しく印度的感化を受けたり、其の第三群は蕃人にして、交趾にありてはモイ或はムンと云ひ、緬甸にありてはカキエンと稱し、支那に於ける苗族の如し、其の第四群はオランダ種族にしてマライ半島の蕃民なり、其の第五群はマライ人なりとす、其の居住する所はマライ半島に限らずして大陸の部分にも生存せり、右の外支那人殊に清國南部の廣東、福州地方の人は本半島に來住して東京、安南、交趾、暹羅、シンガポール等の各市街地に定居し、其の勢力侮るべからざるものあり、西洋人の數は著しからず。

分國 印度支那半島はフランス、暹羅、イギリス三國の分領する所なり、此の中本半島唯一の獨立國なる暹羅は、東西より壓迫を蒙りて境域漸く退縮するの觀あり、現今三國に屬する地積大約左の如し。

| 國名    | 地積                      | 人口                        |
|-------|-------------------------|---------------------------|
| フランス領 | 六六、三〇〇 <small>カ</small> | 一七八〇、〇〇〇 <small>人</small> |
| 暹羅    | 六三、三〇〇                  | 六三二、〇〇〇                   |
| イギリス領 | 七八、五〇〇                  | 一一九〇、〇〇〇                  |

### フランス領印度支那

境域 フランス領印度支那は印度支那半島の東部にありてS字形を呈せり、北は清國の雲南、廣西、廣東に接し、東南は支那海を帯び、西は暹羅、及びイギリス領の緬甸と境を交ふ、面積は六十六萬方料を超ゆるが一殖民地、二屬地、二保護國より成れり。

地方 地積 人口 疎密 首府

世界地理 あじあ洲 フランス領印度支那



|              |                     |                       |    |       |
|--------------|---------------------|-----------------------|----|-------|
| 印度支那         | 六六三〇〇〇 <sup>カ</sup> | 一七八〇〇〇〇〇 <sup>人</sup> | 二七 | ハノイ   |
| とんきん(東京)     | 一一九二〇〇              | 七〇〇〇〇〇〇               | 五八 | ハノイ   |
| あんなん(安南)     | 一三五〇〇〇              | 六一二四〇〇〇               | 四五 | フエ    |
| こしんしーぬ(交趾支那) | 五六九〇〇               | 二九六八五三〇               | 五二 | サイゴン  |
| かんぼぢ(東寨埔)    | 九六九〇〇               | 一一〇三〇〇〇               | 一一 | フノムヘン |
| らぢす(老撾)      | 二五五〇〇〇              | 六〇五〇〇〇                | 二四 | ビンツアン |

一四八

海岸線 フランス領印度支那は東京灣、南海、暹羅灣に面すれども海岸の屈曲は敢て多しと云ふ能はず、灣にアロン、ツラヌ、サイゴン、ハチン等あり、半島にコシエンシ、リスあり、地角にブンクイワ、ライ、バンタム、バレラ、センジツク、カマオ等あり、島嶼はケバオ、コンドル、コートロン稍著し。

山誌 交趾山脈は北西より南西に走りて分れ嶺をなし、プロイ二〇〇〇(ヂサン二七六〇)アイツアト二五六〇(タムホン二一〇〇)等の諸山を載き、別にブラバット山(二二〇〇)はトンレサップ湖の西方に聳えたり。

水誌 印度支那半島の最長流なるメコンは本半島の最大湖なるトンレサップと

共にフランス領印度支那の地を潤せり、而して河流には尙ソソコイ、ソソマ、ソソカ、ドンナイあり、ソソコイ河即ち紅河は水源を雲南地方に發しソソタイに於て數派に分れ、一の三角洲をなして海に入る、支流には青河、黒河等數多あり。

地勢 フランス領印度支那は南北の兩部に平地を有せり、其の北部はソソコイの流域にして、其の南部にあるものはメコン河の下流に立す、之等孰れも地味佳良なれども其の中部安南には礫礫なる處多く土地の高燥、瘠共に一様ならず。

人誌 人口は一千七百八十萬なれば一方料に付き二十七人となる、而して密度に於ては東京交趾支那安南を以て第一流とすべきものなるが、其の居住者も互に相似て共に支那種族に屬するが如し、然れども東埔寨のクメル人は別に一種族をなせり、一般に印度支那の住民は軀體矮小にして容姿舉がらず、其の性自負驕慢にして敢爲の氣に乏しく、時に快言壯語を放つも其の實卑屈怯懦の心を蔽ふに過ぎず、徒らに舊習を慕ひて國を愛するの情切ならず、外人の配下において安逸を貪るも亦故なきにあらず、宗教に就きては、居民の多數は祖先を祭り英傑の士を敬ふと恰も神佛に事ふるが如くし、中流以上の人士には孔孟の教を尊信するもの多く、普



通の人民中には佛教を奉ずるもの亦少なからず而して四十二萬の天主教信者は各開市場の附近に散在せり。

政誌 本領地は東京、安南、交趾支那、東埔寨、老撾の五部より成り交趾支那は副總督を頂くも其の他は印度支那總督の配下にある、施政上共に本國殖民省の管理に屬し、各部は自治制に基づきて財政を異にせり、總督は東京の河内にありて本國殖民省の監督と印度支那高等會議の補佐とによりて領地の行政を司れり、兵備は陸兵に二萬七千ありて海軍は絶東艦隊、交趾支那分艦隊に屬す。

東京は一千八百八十三年フランスの屬地となれり、此の地は古の交趾の地にして、河内、興安、南定、寧平、海陽、海防、廣安、山西、宣光、北寧、北江、河、太原、永安の十四州、ムカ、ン、フン、ボンの新州、諒山、高平、順廣、老開の四軍政地に分たる。

安南王國は一千八百八十四年以來フランスの保護の下にあり、國王は順化に都し、國は十二州に分たる、廣平、廣治、廣德、廣南、廣義、平定、富安、平順、河靖、又安清和、慶和之なり。

交趾支那は一千八百六十七年以來フランスの殖民地となりたるが、分ちてサイ

ゴン(柴棍)、ミト、キンロン(永隆)、バサックの四州となし、副總督は柴棍にありて本殖民地の行政を司る。

東埔寨王國は八州に分たる、が一千八百六十三年以來フランス國の保護の下に置かれたり、國王は南旺に都し、フランス政府は同處に駐在官を置く。

老撾即東老撾は一千八百九十三年以來フランスの屬地と成れり、駐在官はピアンチアヌに居りて十六區を監督す。

財政に就きて一言せんに一千九百二年の豫算によれば、歳出入共に二千七百萬ピアストルを我が一圓に當るを越えたり。

| 歳入    | 歳出     |
|-------|--------|
| 間 税   | 海關及徵稅費 |
| 海關 税  | 陸軍 費   |
| 利 子   | 公債 費   |
| 登 録 税 | 土 木 費  |
| 生業    |        |

世界地理 あじあ洲 フランス領印度支那



雜魚を捕ふ、林業はチーク等の木材を給す、而して工藝は極めて不振なれども、團扇、漆器、彫刻物、家具等數種のもの、を供呈せざるにあらざる、貿易は漸次發達するもの、如く、一千九百一年には輸入に二億二百三十萬、フランスク、輸出に一億六千七十五萬、フランスクありたり。

| 都名    | 輸出入             | 輸 入      | 輸 出 |
|-------|-----------------|----------|-----|
| 東 京   | 四五〇一七           | 二〇三六五    |     |
| 安 南   | 四一七三            | 六五六七     |     |
| 東 支 那 | 六六二三、四          | 一一一〇〇、五  |     |
| 東 支 那 | (二八九九)一、二五四、二、四 | 一、三七九三、七 |     |
| 合 計   | (二九〇〇)一、八六〇、四、四 | 一、五五六〇、六 |     |
|       | (二九〇二)二、〇二二、九、六 | 一、六〇七五、二 |     |

又鐵道は二千三百九十八軒ありて、河内、海防間、河内南定間、柴棍、ミト、間等を連絡し、東京の鐵道は之を清國の雲南省、廣西省に延長するの權を有せり、而して郵便局は二百二十三ありて、電信線は一萬八千軒に達し、電話線の延長は一千百三十軒なり。

りき。

○**東京** ハノイ河内(二〇、〇〇〇)北緯二一度一〇分、東經一〇五度四〇分、は一にケシ、とも稱し、古の交都にして今の總督府の所在地なり、ソンコイ河に瀕し、交通上の要區なるが、絹布、漆器、紙類、雜嵌細工等を製し、百貨の集散に従事す、市街は整備せざるも、販に於て、フランス領印度支那第一の都會たるに耻ぢず、ナムヂン(南定)五、〇〇〇は東京第二の都會にして、軍事上の要處なるが、商工業も稍盛なり、ハイヅオン(海陽)は娛樂の地として繁昌せし地なるも、一千八百八十三年の戰役後未だ全く挽回するに至らず、ハイフォン(海防)一、〇〇〇〇は一千八百七十五年の創設に係るも、現時は東京第一の通商港たり、生絲、木綿、米穀、染料等を輸出す、ケバオはホンガイと共にアロン灣の勝地にありて、石炭を産出す、ランソン(諒山)は戰地として名あり、ソンチイ(山西)は舊黒旗兵の根據地として三萬以上の住民を有せしが、目下は一小都會をなすに過ぎず。

○**安南** フェ(順化)五、〇〇〇〇北緯一六度三〇分、東經一〇七度三五分、は安南の王都にして、トルオンチエン河に瀕す、官衙公署は城内にありて、市街は運河の沿岸にあり、チャンアン(順安)は



フエの附庸港なるも暗沙の横たはるありて船舶の出入便ならず、ツラオ即ち廣南は同名の灣に瀕し、ハンキアン河の左にあり、水底深く風難の患なきも船舶の出入に便ならず、開港の一なり、ビンケン(平定)二五〇〇〇は落花生、甘蔗、烟草等の産地にあり、クイン(歸仁)は開港の一なりしも商業振はず、クソンデイは開港の一にして船舶の碇繋に便なり、キン(永)二五〇〇〇はソソカ河に瀕す、船舶の來往多く、胡椒、肉桂、生絲等を輸出す、タンホア(清華)一六〇〇〇は城地にして港も繁昌せり。

コシンシーヌ サイゴン(柴棍)五〇〇〇〇北緯一〇度四七分 東經一〇六度四二分はコシエーシーヌ殖民地の首府にしてドンナイ河に瀕す、港は良好にして市街は繁昌せり、ビエンホア(邊和)二〇〇〇〇は木材、甘蔗を集散す、ミト(一五〇〇〇)はメコン河の東流に瀕す、重要な河港にして鐵路はサイゴンに通ぜり、シロン(四〇〇〇〇)はサイゴンに次げる商業地にして盛に米を輸出す。

カンボデア プノンペン(南旺)五〇〇〇〇北緯一〇度三五分 東經一〇五度はカンボデアの王都にして四肢流の中心にあり、百貨の集散に従事す、カムボット(二〇〇〇〇)は王國唯一の沿海州の首邑なり、港は狹隘にして小船を容るゝに過ぎざるも米穀、胡椒、烟草等を輸出す。

ラオス ビエンチアヌはメコン河に瀕す、フランス領ラオス即ち東ラオスの首邑にして駐在官の居住地なり、ルアン普拉バン(一五〇〇〇)はメコン河とナムカン河との合流地にありて交通上の要衝に當り、頗る有望の處とす。

シナム

境域 シナムは一にサヤム(暹羅國)と云ふ、印度支那半島中唯一の獨立國にしてタイ部とマライ半島の一部とより成れり、其のタイ部は東并に南東にフランス領の老撾、安南、柬埔寨等を控へ、北及び西はイギリス領の緬甸に隣り、南は暹羅灣に臨めり、其マライ半島に於ける部分は東に支那海、西に印度洋を控へ、南はイギリスのマライ保護國に接し、狹長なる地なり、面積は本領並に屬地を合はすれば六十三萬三千方呎に達すと稱せられ、我が日本の一倍半に當ると雖も東部にはフランスの勢力圏に屬する地あり、西部並に南部にはイギリスの勢力範圍に屬する處ありて眞の領土と云ふべきものはメカンの流域に限られんとするの恐あり。



海岸線 海岸は亦屈折多からず、暹羅灣更に盤谷灣をなせり、而して地角にはリアント岬、北東岬、バタニ岬、南岬あり、島嶼にはコークト、ベンナン、サムイ、トシタラ、テンカキ、テルト、サランあり、地峽はクラリゴルを以て著しとす。

山誌 主要なる山脈はチベット高原の南東部に於ける横断山脈の餘勢を受けタシネキイ山脈等の如きは南北の方向を取れども、タイ部の東部に於てはカオドン、ク等の如く東西の方向に走るあり、従ひて河流も二つの方向に流る。

水誌 主要なる河流はタイ部の西部にメナム、タチン、メクロン等の數流ありて、盤谷灣に注ぎ、東部にはナムシ、ナムムンありてメコン河に入る、又西部にはサルエ、ン河の支流あり、マライ半島にも河流少なからず、メナム河は當國の最長流なり、源を國の北部に發し、メイン、メビン等の支流を容れ、盤谷、バクナム等を過ぎて海に入る、長、一千軒弱あり、毎歲河水溢れ沿岸の地をして肥沃ならしむるを以てメナムの母の名を有せり、又沼湖にはトンレサップの外、ラオス地方に沼池の存するあるを觀るのみ。

地勢 山脈は其の海拔著しからず、メナム河畔には稍、廣き平野あり、土壤肥沃に

して氣温高ければ頗る稼穡に適するも、拓殖に就きたるは其の中流地方と河口に於ける沖積洲とに限り、國土の大半は荒蕪の地なり、是れ住民の怠慢無氣力なるが爲にして、現時の耕地は全國の二十分の一だにも達せざるが如し。

人口 人口は六百卅二萬と稱すれども、之れを種族によりて區分すれば、シム人二百萬人、支那人百三十萬人、ラオス人七十萬人、マライ人五十萬人、東埔寮人三十萬人にして、自餘の住民は雜種人、ビルマ人、シン部の蕃民、及び小數のヨーロッパ人等なり、而して支那人の來住するものは、毎歲二三萬に達すと云ふ、暹羅人、老嫗人の言語は共に單音にして甚だ相似たり、宗教は概して佛教行はれ、五千の寺院と六萬の僧侶とありて、三千三百三十六人の僧侶は二萬三千二百人許の生徒の教育に従事す、而して此の國の教育には見るに足るべきものなければども、師範學校、華族學校、語學校等の存せざるにはあらざるなり。

政治 ムンタイ即ち自由王國は君主專政の國にして、サハスチボチ即ち内閣は外務、内務、司法、大藏、教育、農務、工務、軍務、警務等の諸省の長官より成り、別に參事院を設けて法律の制定に預からしむ、地方の行政に關しては、盤谷の直隸府を始とし、暹



部に六十郡を置き、屬地を四部に分ちてカンボヂア部に四郡、ラオ部に九郡、シアン部に六州、マライ部に六州を設け、内務若しくは外務をして之を監督せしむ、兵備は平時に於て一萬二千ありと稱せらるれども、實數は五千を超えざるべく、戰時には三萬の兵を得べく規定せらる、軍艦は百噸以上のもの二十二隻を有し、其中五百噸以上のもの僅に十隻あるに過ぎず、財政に就きては一九〇二—一九〇三年度に歳入凡そ三千九百五十萬チカル(二チカルは我が六十圓)歳出三千九百萬チカルを示して、徴力なりとの評を下さざるを得ざるも、亦國債皆無にして、國庫には多少の蓄財ありと云ふ。

|     |                         |     |                         |    |     |
|-----|-------------------------|-----|-------------------------|----|-----|
| 歳入  | 三九四九 <small>チカル</small> | 歳出  | 三八九七 <small>チカル</small> | 森  | 八〇  |
| 關稅  | 六四二                     | 軍費  | 四三三                     | 農  | 九二〇 |
| 酒稅  | 一七八三                    | 地方費 | 一一六六                    | 土  | 二〇七 |
| 阿片稅 | 一七八三                    | 大藏  | 一三八                     | 鐵道 | 二七二 |
| 漁稅  | 四四三                     | 外務  | 九八                      | 其他 | 四三九 |
| 林稅  | 一一五                     | 司法  | 一四四                     |    |     |
| 其他  | 九六六                     |     |                         |    |     |

生業 農業は主として米を興へ、胡椒、珈琲、烟草、麻、綿等の産あり、林業は盛に、チクを供給す、漁業も稍見るべきものあり、牧業は牛と象とを興へ、鑛産には錫、石炭、鐵、寶石等種々ありて、ワッタナ及びカピンの金鑛、チントクの銅鑛等名を知らる、貿易は其の全權殆ど外人の手にあり、輸入は六千五百四十二萬チカル、輸出は八千七百四十萬チカルなり、而して主要輸入品は綿布類、貴重品、鐵物類等にして、主要輸出品は米、六九八四萬チカル、チーク、七一九胡椒、九九等とす、鐵道は盤谷とバクナム、ラップリ、コラト、ロブプリ等を連絡し、總計三百二十七軒、商船は十六隻、四千八百噸に過ぎずして、航路は全くヨーロッパ人の掌中にあり、又電信線は四千七百三十五軒に達し、郵便局は百五十四あり。

處誌 バンコク(盤谷)六〇、〇〇〇〇〇北緯一三度四分は一名をサナグリと云ふ東經一〇〇度三分は一名をサナグリと云ふ  
 一千七百六十八年の創建なるも、王國の首都にしてメナム河に瀕するのみならず、シム灣を去ると凡そ四十軒に過ぎざれば、百貨の集散に便にして、現時の如き盛況を呈するに至れり、然れども住民の過半は支那人にして、商權は彼等の掌中にあり、バクナムはメナムの河口にありて、砲臺を有す、バンコクの附庸港たり、アユチアも



亦ナナム河の畔にありて、舊都(一三五〇—一七六七)の地たり、新街クルンカオ(五〇〇〇〇)は稍、盛華の地たり、シエンマイ(五、〇〇〇〇)はメビン河に瀕し交通の要衝に當りて、百貨の集散に従事す、ラホンはチークの産地にあり、コラトはナムムン河の流域にありて交通の要區たり、アングゴルはトンレサプ湖の近傍にあり、カンボデア人の舊都たりし所なり、チアンプムは王國第二の港にして、シム灣に臨む、一千八百九十三年以來フランス人之を占領す、

イギリス領シム

境域 本領地は海峽殖民地、マライ保護國、ジホール、バルマ、アングマン列島、ニコバル列島等より成り、其の海峽殖民地はマライ保護國、ジホールと共に、マライ半島の南半に當り、其のバルマ部は印度支那半島の北西部を占めて、北に雲南、西藏を控へ、東は東京暹羅と接し、南西にベンガル海を受け、北西は印度に連れり、又アングマンニコバルの二列島は印度洋の北東部にあり、地積總計七十五萬方杆に餘れり。  
人口 人口は總計一千一百九十餘萬人あり、然れども之を地積に比すれば稠密ならずして其の配置も一樣ならず。

ならずして其の配置も一樣ならず。

| 地 方    | 地 積                | 人 口                  | 疎 密              |
|--------|--------------------|----------------------|------------------|
| 海峽殖民地  | 三九九八 <sup>方杆</sup> | 五七、二二四九 <sup>人</sup> | 一四三 <sup>人</sup> |
| クリスマス島 | 一〇二                | 七三三                  | 七                |
| キーリン島  | 二二                 | 六七一                  | 三〇               |
| マライ保護國 | 七、〇〇〇              | 六七、八五九五              | 九                |
| ジホール   | 一、八〇〇              | 二〇、〇〇〇               | 一一               |
| バルマ    | 六六、三五一八            | 一〇四九、〇六二四            | 一六               |
| 計      | 七五、五六四〇            | 一一九四、二八七二            | 一六               |

海峽殖民地はシンガポール島、ピナン島并にマライ半島に於ける、エレスレイ州、マラッカ州及び島嶼部と半島部とに亘れるデンチングスとより成り、面積凡そ四千杆人口凡そ五十七萬あり、一千八百六十七年以來イギリスの領地にして、本國の直轄に屬し、總督は行政會議立法會議の補助によりて政務を處理し、



バ島の南西或は南方に位するキーリン島及クリスマス島も此の殖民地に屬せり。

| 區     | 劃  | 地積                    | 人口                      | 疎密                   |
|-------|--|-----------------------|-------------------------|----------------------|
| 海峡殖民地 | シンガポール   | 三九九八 <small>カ</small> | 五七二二四九 <small>人</small> | 一四三 <small>人</small> |
|       | マラッカ   | 五五五                   | 二二八五五五                  | 四一二                  |
|       | ピナン<br>( <small>エスレイ、ヤン、<br/>ヤンクスを含む</small> ) | 一八三九                  | 九五四八七                   | 五二                   |
|       |  | 一六〇四                  | 二四、八二〇七                 | 一五五                  |

兵備に就きては兵數多からず、近時義勇兵の制度の擴張せられしを以て稍著しきとすべく、シンガポール港の防備は頗る嚴なりと云ふ、財政には歳入に七百四萬「ドル」歳出に七百三十二萬「ドル」あり、生業には胡椒、タバコ、米、砂糖の農産物あり、貿易は輸入に三億二千五十二萬「ドル」、輸出に二億七千八百七十五萬「ドル」ありて、重要輸出品は錫、ゴム、香料、ガム、ビエル、タバコ、サゴ等とし、輸入品の多くは再輸出せらるゝなり、又船舶は出入各八十一萬噸あり、鐵路は四十一軒を有す。

シンガポール島はスマトラ島とマライ半島との間に於ける海峡の南端にありて

長さ四十三軒、幅廿二軒、面積五百三十三方軒を有し、附近の小嶼を合はせて殖民地の一部を形成し、一の良港を抱けり、市街北緯一度一七分東は島の南端に位し、僅に六十年前の創設に係り、氣候の炎熱なるにも拘らず健康に適するを以て、貿易は長足の進歩をなし、遂に今日の盛況を見るに至れり、而して本港は自由貿易場として、日本、清國、印度、ヨーロッパ等に對し深き關係を有するのみならず、亦交通上の要地たり、されば人口は二十三萬に達し、十餘萬の支那人と八萬のマライ人との外、少數のイギリス人、ポルトガル人等あり、殖民地總督の政廳、各國領事館、植物園、動物園等見るべきものあり。

マラッカは舊とポルトガル、オランダに屬せることありしが、一千八百二十四年以來はイギリスに歸したり、マラッカ港は往時にありては有名の地なりしが、今は衰微を極め居れり、蓋しシンガポールの買収以後のことに係る。

ピナン島即ちプリンセスオブウェールズ島はマライ半島の西岸に近く、面積二百七十七方軒の小島にして、一千七百八十五年以來イギリスに屬せり、首府ジョージタウンは交通上の要處たり、此の地の近傍に有名なる天主教校ありて、東部アジアの傳



導師を養成せり、本島の對岸なるエレスレイ州は、ペラーの西部に於けるデンデンクス(島を含めり)と共にビナン殖民地の一部をなせり。

マライ保護國 マライ保護國は七萬方籽の地積と六十八萬の人口とを有し、ペラー、セラシムゴル、ネグリセムピラン、バハン等の諸國より成れり、而して一千八百九十六年以來之等の諸國はイギリスの駐在官の保護を受け、海峽殖民地と密接なる政治的關係を有せり、各保護國の地積人口左の如し。

| 國名        | 地積     | 人口      | 疎密 |
|-----------|--------|---------|----|
| ペラー       | 一、九〇〇〇 | 三二、九六六五 | 一七 |
| セラシムゴル    | 八〇〇〇   | 一六、八七八九 | 二一 |
| ネグリセムピラン  | 七〇〇〇   | 九、六〇二八  | 一四 |
| スングエイウジャン | 三、六〇〇〇 | 八、四一一三  | 二  |
| バハン       |        |         |    |

生業に就きては珈琲、胡椒、砂糖、米、果實、ゴム、木材等の外、錫、金、鉛等の産出あり、貿易

は輸入に三千九百五十二萬、ドル、輸出に六千三百十一萬、ドルありて、鐵路は四百三十三籽なり。

クアララムボル(七、七〇〇〇)はセラシムゴルにありて保護國最大の都會とす、タイピンはペラーの一都邑にして居民には支那人多し、バカンはバハンの首府なり。

ジョホール ジョホールはマライ半島の極南部を占め、地積一萬八千方籽、人口二十萬を有し、住民は主としてマライ人、支那人より成れり、此の國は一千八百八十五年イギリスと締結せる條約によりて、外國に對しては自由の行動をなす能はず、輸出品の主要なるものはガム、ビエル、胡椒、サゴ、茶、珈琲等なり、首府ジョホールバルはシンガポールの北方二十四籽に位せり。

バルマ バルマは上下バルマ、シアン等の部分より成りて、六十六萬方籽の地積と一千四十九萬の人口とを有せり、海洋に面するは西と南西とにして、ベンガル海、バルマ海に瀕し、灣にはマルタバン、半島にはヨマ、島嶼にはラムリ島、チェツパ島、ビル島、メルギ群島あり、山脈はシアンコマ、ペグヨマ、アラカンヨマの諸山、及びバトコイ諸山、ルシアイ山脈、青山脈を以て著しとし、河流にサルウィン、シッタング、イラワチ、クラタンあ



り、季候風の齎らし来る多量の雨水を受くるが故に、灌漑の利は充分なり。

人口は一千五十萬に近し、住民の多數はバルマ人即ちムラムマ人にして骨格逞しく氣力なきにあらず、言語は元來單音的なれども印度のバリ語の混淆せし者多し、是れ此の地方の地名人名に、バルマ名とバリ名との二種ある所以なり、而して住民の多數は佛教を信奉せり、此の地は舊とバルマ帝國と稱して一國をなし、が次第にイギリス國の爲に侵略せられ、遂に一千八百八十四年以來全く同國の占有する所となり、現今印度帝國の一州をなせり、生業中最も注意すべきは農業にして多量の米を出し、林業は、チークを興へ、牧業漁業にも多少見るべきあり、又寶石類の産量少なしとせず、然れども工藝に至りては極めて不振なり。

ラングン(二三、〇〇〇)はイラワヂ河の分流に瀕し、大船巨舶と雖も自由に出入するを得、政治上商業上此の地方の中心をなし、大に米を輸出す、バッセインは同名の河に瀕し、米を輸出す、プロム(三、〇〇〇)は米産地にありて商業上軍事上の要區たり、ツングはシタング河に沿ひ將來稍有望の地なり、マウルメイン(五、八〇〇)はサルウインの河口に位し、商業盛にして米、チーク、綿を輸出す、アメルフェスト、タボイ、メル

ギーは小港なり、共にバルマ海に瀕す、アキアプはクラタン河口に位し、亦米の取引行はる、チャタゴングは亦ベンガル海に臨み貿易稍見るべきものあり、マングレー(八、〇〇〇)はイラワヂ河を去る四料の地にあり、舊と國都たりし所なり、現今此の地の商權は支邦人之を握る、アマラプラ、アバはバガンと同じく舊都の地たり、ミンギンはイラワヂ河に沿ひ商業地として名あり、バモ(五、〇〇〇)モグンはイラワヂ河の上流に沿ひ、交通の要地たり。

アンダマン列島 アンダマン列島はバルマのネグライス岬の南西、百九十三料の處より起り、南北一千料に亘れる列島にして、二百以上の島嶼より成り、面積六千四百餘方料を有す、海岸には深き凹入ありて、ポートブレア、ポートコルナリス、ステワートズド等碇泊に便なる所あり、人口は一萬五千餘人に過ぎず、内部の森林に住せる黒色の土人アンダメーヌは、總計約一千九百人にして、少軀の蕃人たり、本島は一千八百五十八年以來印度政府の流刑場にして、該政府の發遣せる委員長は此の流刑的殖民地の監督者たり、島内にはアンダマン紅木(Pterocarpus indicus)、茶、ココア、マニラアサ、バナ、ハマアロエ(Agave sisalana)等の産少なからず。



ニコバル列島 ニコバル列島のアンダゴン列島の南百二十軒に位し、九十の島嶼より成り、面積一千七百七十二方軒、人口六千三百十人あり、本島はアンダマシニコバル委員長の監理の下に印度帝國に屬し、多くココアを輸出す、良港をナンカウリーハーボアと稱す。

### マライ群島

位置。マライ群島は一名を印度支那群島と云ふ、又インドネシア (Indonesia) インドネシア (Insulinde) の島印度等の名あり、アジア州の南東にありて、フリビン群島、ボルネオ島、大ソングダ列島等より成り、赤道は其の中間を貫けり、而して極北はパタン諸島の北緯凡そ二十一度、極南はジャバ島の南緯凡そ九度なり、又極西はスマトラ島の東經凡そ九十五度にして、極東はミンダナオ島の東經凡そ百二十六度なり。  
境域。北東に太平洋を控へ、南西は印度洋に臨み、セレベス海、マカッサル海峡、ジャバ海、ロンボク海峡を挟みて、オセアニア州のセレベス島、小ソングダ列島等と境を接し、北西は南支那海を隔て、遙にアジア大陸と相對すれども、スマトラ島とマライ半

島との間に僅にマラッカ海峡の存するあるのみ。

面積。フリビン群島の三十萬方軒、ボルネオ島の七十四萬方軒、ジャバ、マヅラ島の十三萬方軒、スマトラ島の四十七萬方軒及び其の他の島嶼の方軒の數を加ふれば、マライ群島の面積は凡そ百七十五萬方軒を得るなり。

海岸。内海に面する海岸は概して平低なるも、印度洋又は太平洋に面する所は斷崖絶壁に富めり、而して本群島に屬する島嶼には珊瑚性岩礁を以て圍繞せらるゝもの多く、又海岸線の屈曲は各島均一ならず、ボルネオ島は土塊的狀態を呈するを以て極めて彎曲に乏しけれども、フリビン群島の各島には多少の屈折を見るが如し、要するにマライ群島の海岸線の延長屈曲は、比較的に他の島嶼に優れるものあるに似たり。

山誌。山脈の趨勢は極めて錯綜し、數多の山系は縦横に走行せり、而して高山は各島に於て之を觀るも、最高點はボルネオ島のキニバル山にして、直立は四千百七十五米突に達せり、又火山脈の顯著なるもの二條あり、其の一は大ソングダ列島を貫通して激烈なる活火山を噴起し、小ソングダ列島の方に赴けり、有名なるクラカトウ



の如きは實に本帯に屬するものなり、次に其の二はモルッカ諸島、セレベス島より起り、フィリピン群島に入りて數多の活火山を噴出し、北の方臺灣島に達せり。

水誌 本群島は太平洋と印度洋との間に散布し、多くの内海を抱けり、其の主要なるものを列擧するも六七を得るならん、然れども海深は一様ならずして、アジアの海底臺地は一千呎の海峡を隔て、オセアニアの海底臺地と相對せり、是アジア、オセアニア二大洲の自然の境界なりと云ふを得べし、又河流の多くは溪流、細流に過ぎざれども、中には稍著しきものなきにしもあらず、ボルネオ島のマハカム、バリト、カプアス等の如き、スマトラ島のムシ、インドラヤリ等の如き即ち之なり。

氣候 本群島は熱帯に位するを以て、氣温は常に二十六度内外を保ち、最高と最低との差は僅に二度あるに過ぎず、又本群島は印度洋と太平洋との間にあるが故に貿易風と季候風との衝突ありて屢大風を惹起することあり、雨量の平均は二米突内外なるも土地の高低によりて著しき差異あり、平地に於けるパタビアの雨量は二米突なれども、三百米突の高處にあるポイテンゾルグに於ては四米突以上なりとす。

天産 氣候の炎熱なると降雨の饒多なるとは大に植物の繁茂を來し、森林は各島に蒼蔚として殆ど今地を蔽ひ、特に各種の椰樹、香料等を與ふ、而して少しく人力を費せば佳良の珈琲、砂糖、麻、煙草等を得べし、又動物は爬蟲、昆蟲の類に富めるも珍禽、奇獸は多からずして、概して印度支那に於て見る所のものに似たり、礦物は金、錫、寶石等に富めり。

住民 本群島の住民はマライ派に屬するもの最も多く、パプア族に屬するものには特に野蠻なるものあり、又支那人の移住せるもの少なからず、而してマライ派の人民を文化上より觀れば、印度的、アラビア的、支那的あり、社交上より觀れば、海人、陸人、優人あり。

區劃 本群島の大部分はオランダに屬し、其の殘餘はアメリカ合衆國、イギリスの分領する所となれり。

| 所領    | 地積                       | 人口                        | 疎密                  |
|-------|--------------------------|---------------------------|---------------------|
| オランダ領 | 一一六、〇〇〇 <small>カ</small> | 三五〇七、〇〇〇 <small>人</small> | 三〇 <small>人</small> |
| アメリカ領 | 二九、六〇〇                   | 七〇〇、〇〇〇                   | 二七                  |

世界地理 あじあ洲 マライ群島



## アメリカ領マライ群島

境域。アメリカ領はマライ群島の北東に位し、一千二百有餘の島嶼より成れり、而してフィリピン群島、スールー列島、バラワン島等に區別するを得べし。フィリピン群島は北にルソン、南にミンダナオの大島を有し、其の間にビサヤ諸島ありて、マスバト、サマル、レイテ、パナイ、ネグロス、セブ、ボホ等を包括し、ルソン島の北にバブヤン諸島、バタン諸島あり、バシー(恒春)海峡を隔て、我が臺灣島と對せり。ルソン島の南西にはミンドロ諸島、バラワン島あり、スールー列島はミンダナオ島の南西にあり、以上の外の小嶼を合せ、面積は約三十萬方呎なりとす。

氣候。本群島は山岳に富み、氣候は海洋の影響を受けて島嶼的なり、而して季候風に支配せられて一年は雨季と乾季との二季に分れ、季候變轉の際には、パキラスと稱する暴風の起ることあり。

天産。植物には丁香樹、肉桂、胡椒、榕樹、マゲゴノ等あり、動物には野猫、野猪、羚羊類、

猿猴類、走禽類、鰐魚等あり、礦物には特に掘ぐべきものなし。

マゲゴノ(Magkono)(Xanthostemon Vedugoniamum)桃金娘科は木質不朽にして船材、建築材等に供し、其の功チークに勝れりと云ふ。

人誌。人口の總數は約七百萬なりとす、而してルソン島の中部にタガル種族あり、其の北部にネグリト種族あり、其の他は概してビサヤ種族に屬せり、言語は勿論一様ならざれども、舊領主たりしイスパニア人の用ふるものは依然として行はれ、土語の中には南部のビサヤ語、北部のタガル語最も行はる、宗教は天主教を奉ずるものもあれども、マホメット教徒も亦少なからず、

沿革。フィリピン群島がヨーロッパ人に知られしは數百年前のことにして、一千五百二十一年マガリアエンス氏の紹介に係れり、而して一千五百六十九年イスパニアの領地となりしが、爾來統御の方法宜しきを得ざるものあり、遂に一千八百九十八年獨立の戰役起り、同年アメリカ領に歸するに至れり、群島の名は始めマガリアニアと云ひ、其の後西群島、サンラサラ等と稱し、更にイスパニア王の名によりてフィリピンと呼びしが、之をフィリピンと轉訛せしむるに至りしなり。



ルソン(呂宋島)は十萬方籽の大島なり、北部は南北に亘りて稍廣く、マニラ灣、ベイ湖より以南のカマリン半島、アルベイ半島は東西に走り、狹長にして極めて彎曲に富めり、火山脈は全島を貫きて、ボンボン湖中のタアル山となり、ヌマジッシュ山(二二三三)、イサログ山(一九六六)、新火山イリガ、マイヨン(二三七四)、バリザン山等を噴起せり、河流の多くは沿岸の細流たるに過ぎざれども、カヤガン河は稍著しく、北部の中央に發源してアバリ附近に於て海に入る、土地はコラス季の雨水とノルタダス季の温熱とを受くるが故に、甚だ豊沃なり、煙草、アバカ、マニラアサ、砂糖、烟草等を産し頗る農業に通せり、又内部の山地には綠樹蔭翳として森林をなせり、

マニラアサ、呂宋麻は一にボッフ(Botto)と云ふ、芭蕉科の植物にして學名を *Musa Abaca* と稱す、幹の包皮より纖維を採收し粗布、綱索等を製す、

住民の數は七百萬に近く、タガルマ人は中部に居り、ネゲリトス人は北に居り、南部のカマリン半島、アルベイ半島にはピサヤ人の住居するあり、此の外、支那人は各地に居りて種々の業を營めり、

ミンダナオ島は九萬五千方籽の大島なり、山岳多くして綠樹繁茂し、巨大の爬蟲、

其の他種々の害蟲ありて、往々人を傷ふことあり、又沼池の畔に於ける濕地は健康に適せざるも、土地は一般に豊饒にして二十餘萬の回教、土民を養ふ、

ヒコロ即ちスールー列島は二萬五千方籽の地積を有す、山岳多く森林蔭翳たり、人口凡そ七萬五千あり、多くはギイムバ土人にして小數の回教マライ人之を使役せり、

政治 フリビーン群島は舊とイスパニアの領地なりしが、一千八百九十八年合衆國の有に歸したり、現時に於ては或る地方に軍政を施すと雖も、其の他は民政長官に支配せられ、内部商、警務、財法務、教育の四局を設け、七人の委員ありて立法部をなせり、又地方は三十九州に分れ、知事其の他書記官等を置く、

生業 貿易は通常貨物に三千二百十四萬ドルの輸入と二千三百九十三萬ドルの輸出とあり、貴金屬に八百九十三萬ドルの輸入と三百二十三萬ドルの輸出とあり、マニラ麻、烟草、砂糖、コブラを以て主要輸出品とす、而して主要なる輸入先はイギリス、支那、合衆國等にして、輸出先はイギリス、合衆國、香港等とす、交通に就きては鐵路に百九十二籽あり、船舶の出入は左の如くにして、外國貿易港は七箇、  
(マニラ、アバカリ、カガヤン)



の四はルソあり。

| 入 船           | 出 船      | 合 計      |
|---------------|----------|----------|
| 遠洋航路 一〇四、七三五二 | 一〇一、七三三七 | 二〇六、四六八九 |
| 沿岸航路 三九、〇三八〇  | 四八、五四〇〇  | 八七、五七八〇  |

處誌 マニラ(三〇、〇〇〇)は同名の灣に瀕し、本領土の首府にして又外國貿易港の一たり、住民中には支那人多くして各種の業務に従事し、其の勢力侮るべからざるものあり、工業は殊に烟草の製造を以て開ゆ、リバ(四、〇〇〇)、バウアン(三、八〇〇)、アルペー(三、四〇〇)、バタンガス(三、二〇〇)、タアル(三、〇〇〇)以上、バタグ(三、九〇〇)、カルバヨグ(三、〇〇〇)以上、マル島等も名を知らる、イロイロ(二、〇〇〇)、イセブ(三、五〇〇)セアに貿易港あり、マクタン島はマガリアエンスの殺されし所なり、ザンボアングナ島は開港を有す。

### オランダ領マライ群島

境域 マライ群島に於けるオランダ領地は大ソングダ列島、バリ島、ボルネオ島

の一部とより成れり、其の大ソングダ列島は、スマトラ、ジャバの二大島を中央に置き、リメン、パンカ、ピリトン、マツラ等の島嶼は北岸に沿ひ、バビニアス、メンタウエイ等の島嶼は南岸に沿へり。

面積 オランダ領東印度殖民地の面積は百九十二萬方呎にして、人口は三千七百七十三萬人に近きが、マライ群島中に於けるものは面積凡そ百十七萬方呎、人口凡そ三千四百三十萬なりとす。

| 島 名      | 地 積     | 人 口       | 疎 密 |
|----------|---------|-----------|-----|
| ジャバ      | 一三、一五〇八 | 二八七四、六六三八 | 二一八 |
| マツラ      | 四二、〇三八二 | 三一六、八三一二  | 七   |
| スマトラ     | 四、二四二〇  | 八、六一八六    | 二   |
| リアウリリング  | 一、一五八七  | 一〇、六三〇五   | 九   |
| パンカ      | 四八四二    | 四、三三八六    | 九   |
| ピリトン     | 五五、三三四〇 | 一一二、九八八九  | 二   |
| ボルネオ(内の) |         |           |     |

世界地理 あじあ洲 オランダ領マライ群島



バリ(ロンボク)を含む

合計

一一七、四六〇一

三四三、二四一

二九

一〇五、二二

一〇四、一六九六

九九

一七八

政治 西暦一千六百二年に設立せられしオランダ東印度商會は、漸次今のオランダ領マライ群島の地を略取し殆ど二百年の間之を支配せしが、一千七百九十八年該商會の瓦解後は母國オランダの所有に歸したり、而して現今東印度領地は擧げて總督の管理に屬し、ジャバ、マツラ<sup>ラ</sup>の二島を内領とし、其の他の島嶼を外領と云ふ、地方には駐在官、知事等を置く、兵備は陸兵に凡そ四萬あり、其の過半は土人なり、東印度艦隊は二十四隻三萬七千噸なりとす、財政に就きては歳入は一億二千五百七十四萬、フロリンにして歳出は一億三千二百五十二萬、フロリンなり。

生業 生業は農業を主とし、盛に珈琲、砂糖、煙草、藍葉、米穀等を生ず、又鑛業はバンカ、ピリトンの二島に於て錫を採掘せり、其の他、天然林は各島にありて木材、果物香料、籐等を與ふ、貿易は一千九百一年に於て輸入に二億二千九百二十二萬、フロリン、輸出に二億五千三百三十八萬、フロリンあり、砂糖、烟草、錫、珈琲、彈力ゴム、石油等を主要輸出品とす、道路の發達は至りて不充分なれども、鐵路はジャバ、スマトラの二島内

にありて、凡そ二千四百料なり、商船は二千六百艘三十三萬噸ありて、領地内の各島嶼并に本國間の航路を往來せり、郵便局は凡そ一千五百箇所ありて、電信線には九千九百三十料の延長あり。

ジャバ島(二、七一二三方料)及び屬島のマツラは東西に亘り、長さは凡そ一千料にして濶は百五十料乃至百九十五料あり、山脈は全島を貫きて各處に火山の噴出せるを見るが、四十五座の火山の中に凡そ三十座は現に活動せり、而して西部に於ける山岳は臺地の上に座するを以て、高大優秀の感を惹起するもの少なきも、東部にありてはタノング<sup>高峯</sup>の多くは平地の中より噴出せられたるを以て、其の壯貌甚だ尊嚴なり、又此等の山岳の中に最高なるものは東部に於けるセムール山にして、直立三千七百米突に達せり、本島は赤道を距ること僅に七八度に過ぎざるも、形状の狭長なるか故に海洋より吹き來る冷風絶えざれば、温度は甚だ酷烈ならず、雨量も至りて多くして、河流の水源を養ふも、巨川の存することなく、山頂のみは燒石ありて不毛の地をなすも、山腹には貴重なるチーク、其の他各種の樹木の森林をなすあり、山麓には牧地と耕地との錯綜せるを觀る、而して西部に於ける植物の



繁茂は東部に於けるものに優れりとす、蓋し西部は濕潤にして地味も亦極めて肥沃なるも、東部はオーストラリア大陸の乾風の影響を蒙りて、湿度の多少減退するに由るならん。

人口は一千七百八十年頃には二百萬に過ぎざりしが、一千八百十年には四百八十萬となり、一千九百年には二千八百七十五萬に達せんとせり、而して住民の大多數はマライ人種に屬するマライ人なれども、他に支那人及びオランダ人あり、言語には種々の土語あれども概してマライ語にして、最も普通なるをジャバ語とす、而してマライ語とサンスクリット語との混淆より成れるカウ語は、所謂死語にして平常の用をなさざるも、上流社會は此の語を知らざるを耻とせり、又オランダ語は法語として多年用ひられ來りしも、通用する區域は甚だ狹隘なりと云ふ、政治上二十二年駐在區に分れ、駐在官の下には副駐在官及びコントロリールと稱する土人の官吏ありて之を輔く、今ジャバ島の沿革を案ずるに其の歴史は既に西曆五世紀の始に起り、八百年の頃には頗る文華の見るべきものあり、印度の感化を蒙りしこと少なからず、降りて十五世紀の始に當り、マホメット教は本島に傳はりて迅速に堅固なる信

者を得、十六世紀に及びてヨーロッパの商業者漸至りしが、一千六百十一年以來オランダ人統治することとなり、土人の間に争鬭久しく絶えず、一千八百十一年に至りて初めて實際上オランダに屬せり。

バタビヤ(一一、六〇〇)は一小灣に瀕し運河に跨りて、船舶碇繋の便は多少備はれども良港なりと云ふを得ず、市街はホルトガル人の創設に係り、オランダ人が此の地を以て首府となし、以來一千六百十一年一時は隆盛なりしが、現今は稍衰微の色を顯せり、ウエルデベルデンは本府の附近にありてチリオン河に沿ひヨーロッパ人の居住に適せる健康地なり、タンデンプリオはバタビヤの附庸港にして近年の新設に係る佳良の鑛地たり、ピイテンツォルグは内部の山間にありて、東印度總督の居住地なり、サマラング(八、四〇〇)は北岸にあり、スラバヤ(一五、〇〇〇)はマツィラ島と相對せる地にありて商港たり、ジョキオカルタ(六、〇〇〇)は南岸にあり、其の他ブルブアドル、ブラムバナム等の舊趾はジャバ人の盛時を追想せしむるに足れり、バンカランはマツィラ島にあり。

バリー島はジャバ島の東にあり、地積は六千二百方呎あり、人口は八十萬を下らず、



して住民はバラモン教を奉ずグノングアオンク山(三二〇〇)の麓に、地味肥沃にして灌漑の利を有する好耕地あり、本島とロンボク島との間に於ける海峡は水底深く海流急にしてアジア、オセアニア二大洲の境界とするに適せり。

スマトラ島は北西より起りて南東に走り、長さ一千八百軒、幅四百四十軒に及び、面積四十二萬方軒を越ゆる大島なり、海峡を挟みてマライ半島と相對し、北東は遙に支那海を臨み、東はジバ海に瀕し、南西に印度洋を控へたり、急峻なる山脈は西岸に屹立して全島を貫き、其のグノングの中に於て六七は噴火山にして、赤道直下に於けるシンガラ山は三千米突以上に達し、インドラブラ山は三千七百米突を有す、此の外オフィル(二九二九)、タラング(二五四三)等あり、河流は饒多なるも概ね細流にして、稍著しきものをムシ(三五〇軒)、ジンビ等とし、沼湖はダノ、シンカラの二湖を推す、氣候は酷熱を感じ雨量は極めて多くして、地味は甚だ豊なり、天産は特に植物に富めるが、オランウタン、大鱉は此の地の名物にしてスマトラ固有のものは哺乳類に六十種、禽類に百二十種あり。

スマトラが印度の感化を蒙りしは西曆七世紀以前にありしが如し、十三世紀に

及びマホメット教傳來し、一千五百八年ロベスドフ、ゲラによりてヨーロッパ人に紹介せられ、十六世紀の終に於てオランダ人はポルトガル人を本島より去らしめたり、然れどもオランダ人の勢力は充分に内地に及ばず、加ふるにイギリス人が一時此處に勢力を振ひしことあり、(一八一—一八一六)オランダ人は銳意拓地殖民の業に従事せしも、長期(一八七五—七九)の戦争によりて僅にアチーを征服するを得たるが如き困難少なからずと云ふ。

人口は凡そ三百萬ありて、數多の種族に屬せり、其アチー人は島の北部に住し、勇氣あり、勤勉の精神に富み、獨立を重んじ、宗教はマホメット教を奉ず、次にガユール人、アラブ人あり、バタ人はトバ湖の附近に住し、スマトラ最古の人種なるべしと稱せらるるが、バラモン教を奉ず、オランダ人はマライ人の爲に奴隸視せらるゝものにして文化極めて低く、多くは森林中に架居せり、此の外メナンカバオ、コリンチー等あり。

パレンバング(五、四〇〇)はムシ河の下流に瀕する商業地にして、本島第一の都會なり、住人はマライ人、支那人、アラビア人にして、オランダ人は甚だ少なし、此の外



アチン、バダング、バンクレーレン等は稍名を知らる。

クラカトア島はスマトラとジバとの間なるスンダ海峽にあり、一千八百八十三年破裂して大に島形を變じ、火山灰は全地球面に散じ、夕陽をして著しく赤色ならしめたり、又此の破裂の爲に起れる波浪は三萬六千餘の人命を殪せり。

パンカ島は一萬二千七百万方呎の地積と十一萬の人口とを有せり、内部の山地は鑛物殊に錫を産す、首府をムントクと稱ふ。

ピリトン島、即ちプリトン島は四千八百餘方呎の地積と四萬餘の人口とを有し、亦錫に名あり、主要なる港をヂンバン、ダンと稱す。

ボルネオ即ちフルネイ島は世界第三の大島にして、七十四萬方呎の地積と千三百萬及び千呎の長幅を有し、赤道の南北に亘れり、本島はジバ島を距ること甚だ遠からざるに拘らず、内部は暗黒不明の處多くして、稍交通の開けたるは沿海の地なりとす、されば山脈の趨勢、河川の流域の如きは充分の探檢を経ざるを以て、確言するを得ざれども、要するに附近の島嶼と異なりて本島中には一の火山なく、大陸的地貌を有せるものと云ふべし、山脈の軸は南西より北東に走り、最高峯キナバル

山島の北東部に聳え、千百山脈、中央山脈、サラワク山脈、南東山脈等相連絡せり、河流は少なからざるが、バリト、カボエアス、マハカン、并にブルネイ等著はる、氣候に就きても充分なる觀測なけれども三十二度を以て通常とし、最高は三十五度に達する所あり、全島一般に雨多く且つ夜中濕氣多し、植物は頗る繁茂し、其の度スマトラ或はジバに劣らずして、森林多く、サゴの産少なからず、動物にはオランウタン、虎、鱉等あり。

ボルネオ島が西洋人に知られしは十五六世紀の頃なりとす、即ち有名なるマガリアエンスの死後、其の船員なるメネズスが本島の西海岸に於て交易場を設けしが如きを以て嚆矢とすべきに似たり、其の後一千五百九十八年オランダ人本島に來り、十七世紀に入りてイギリス人の來着ありしが、皆殖民業の成功を見ずして去り、一千八百十二年後に於て根據を定むることを得たり。

本島に住居するマライ人に二種あり、其の一をダヤクと云ひ、其の二をマホメットマライと稱す、後者は本島の主人にしてダヤクを奴隸視し、之をして農業、其の他各種の力役に従事せしむ、又黒色のアルホラス人は内部の僻地に散在し、凡そ三十萬



の支那人は砂金を採集するあり、農業を力むるありて、其の増殖發達は前途甚だ望あり、言語は種々なる土語の溫滑を受けたるも大體はマライ語にして、オランダ語イギリス語は其の通用共に甚だ少なし。

本島の東部、南部、西部はオランダに屬し、地積は凡そ五十五萬方呎、人口は凡そ百二十三萬を有せり、生業は幼稚なれども、金、錫、金剛石、石炭、等の鑛物、及びグタペルチ、を興ふ、市邑には東南州にバンジェルマッシン、サマリンドンダあり、西州にポンチナク、サンパス、モントラドあり。

### イギリス領マライ群島

マライ群島に於てイギリスに屬する地は左の如し、(キーリン、クリスマスの二島を除く)

| 地方      | 地積                   | 人口                  | 疎密  |
|---------|----------------------|---------------------|-----|
| 北ボルネオ   | 七、三二四〇 <sup>方呎</sup> | 一八、〇〇〇 <sup>人</sup> | 二、四 |
| ラプアン    | 一、三三三                | 八、四一一               | 六、三 |
| ブルネイ保護地 | 二、一〇〇〇               | 五、〇〇〇               | 二、五 |

サラワク保護地 一〇、三二二二

三二、〇〇〇

三

北ボルネオはボルネオ島の北東部を占め、海岸線は凡そ一千五百呎ありて、本島中の良港を有し、石炭、金も發見せられ、土地肥沃にして、烟草、米、サゴ、珈琲、其の他熱帶的のものを生じ、本島中最も要用なる部分たるべし、此の地は初めブルネイ(七一七八)及びスル(七一七八)のサルタンより租借せられてイギリス人の手に歸し、一千八百三十一年イギリス北ボルネオ會社の設立あり、今は政治上會社の上に總督及び議會ありて、ロンドンに於ける監督局に屬し、地方は九州に分る、首府サンダカンは北東岸に位して良港を有す。

ラプアン島はボルネオ島の北西に位する小島なり、氣候炎熱、人身に適せず、石炭の産出少なからず、住民はマライ人多きを占め、支那人、ヨーロッパ人等もあり、本島は亦イギリス北ボルネオ會社に屬するが之一千八百八十九年以來のことなりとす、首府ビクトリアは良港を有せり。

ブルネイは北ボルネオの南西に接し、一千八百八十八年以來イギリスの保護を受け、サゴを輸出す、首府ブルネイ(一、五〇〇〇)は同名の河に沿へり。



サラワクはブルネイの南西に位し、海岸線の長さ凡そ六百四十軒を有す、此の地は舊とブルネイに屬せしが、イギリス人ジェームスアールークなるもの、一千八百四十年其の主權を握りし後膨脹し、一千八百八十八年以來イギリスの保護を受く、鑛産には石炭、金、銀、金剛石等あり、植物はボルネオ島の他の部に似たり、首府カチング(サラワク)はサラワク河に沿へり。

### 印度

名稱 印度は時に前印度、ガンガ河手前の印度と云ふ意なりと稱せらるゝことあり、蓋し印度支那半島即ち後印度、ガンガ河向ひの印度と云ふ意なりと區別せんが爲に西洋人の用ふる稱呼なり、而してインドなる名稱の起源は明確ならざるも太古アリア人が今のインドス河邊に移住せる頃、此の大河にシンドフ洪水或は太洋の意の名を與へしに始まり、其より更に轉訛せるものと考へらる。

#### 其一 印度半島

位置 印度はアジアの南に於ける一大半島にして、極南はコモリン岬の北緯八度五分なるが、極北はコンロン山脈の北端北緯凡そ三十七度なり、又西はシンドの西端に於ける東經六十二度三十分より起り、東はアサムの東端に於ける東經九十二度に達せり。

境域 北は西コンロン山脈カラコルム山脈ヒマラヤ山脈を以てチベット高原に接し、東は印度支那に境し、南東はベンガル海、印度洋に臨み、南西にはアラビア海を控へ、西はインドス河を隔て、イラン高原に隣せり、半島の廣表は長さ三千五百二十軒、幅二千八百十二軒に達し、面積は三百八十萬方軒即ち我が日本の凡そ九倍あり。

海部 本地は印度洋に突出せる半島なるを以て、海灣は悉く印度洋に屬せり、然れども其の數は至りて少なく、東にベンガル海あり、バルク海峡によりて南方のマナアル海に通じ、西にアラビア海ありてカンベリ、カチの二灣を有す。

陸部 半島としてはグジュラトとカッチとを著しとし、地角としてはバルミラス、カリメレ、コモリン、モンヅ、ヂャーを掲ぐべきものとす、島嶼にはベンガル灣内にシアーカーズ、ブーア、其の他の小嶼あり、印度半島とセイロン島との間にアダムス岩礁あり、南